

豫審判事ハ其言渡シニモ被告カ私ニ賣買シ條例ヲ犯シタルノ事實證據充分ナリト認メナカ
 ラ其末項ニ至リ被告ノ所爲ハ明治十五年第六十四號布告該條例追加第三十三條ニ依リ取引
 所ニ於テ處分スヘキモノトス依テ被告事件ハ刑法上ノ罪トナラサルヲ以テ免訴スト言渡シ
 タルハ甚タ輕忽ナリト云ハサルヲ得ス何ントナレハ第三十三條ノ明文アルヲ知テ第十二章
 罰則第四十八條アルヲ知ラサレハナリ若シ該四十八條ニ依リ處斷スヘキモノニアラスト
 セハ民事原告人第三十三條乃至舊定款第十章役員禁制ノ部第四條ニ依リ損害賠償ヲ請求ス
 ルノ効力ヲ失スルモノナルニ豫審判事ハ只マ第三十三條ニ依リ取引所ニ於テ處分スヘキモ
 ノナレハ刑法上罪トナラスト言渡シタルハ越權ノ處分ナルヲ以テ故障申立テヲ爲シタルモ
 ノナルニ原會議局モ亦之ヲ認可シタルハ不服ナリ第二取引所頭取阪田伯孝ヲ被告トシ原會
 議局ニ追訴シタルニ治罪法第二百五十五條ニ民事原告人ノ請求云々ノ明文ナキヲ口實トシ
 故意ヲ以テ之ヲ棄却シ又ハ判決ノ猶豫ヲ乞願シタルニ是亦採用ナク判決セラレタルハ不當
 ナリト云ヒ猶ホ辯明書ヲ提出シ治罪法第四百十八條ニ被告人ノ答辯書ヲ上告申立人へ下附
 スヘキノ明文アルニ之ヲ下附セサルハ越權ノ處分ナリト擴張セリ
 對手人被告忠助ハ之レニ答辯セズ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ
 治罪法第二百四十六條第二項ニ民事原告人ハ私訴ニ付越權ノ處分アルニ因リ豫審終結ノ言
 渡シニ對シ故障ヲ爲スコトヲ得ルトアル如ク民事原告人ハ豫審ノ言渡シニ對シテハ私訴ニ付
 キ越權ノ處分アルニアラサレハ決シテ故障シ得ヘカラサルヤ明灼タレハ民事原告人カ公訴

ニ付テ喋々不服ヲ唱ヘ越權ナリト主張スルモ故障ノ原由トナスニ足ラサルヨリ原會議局ハ
 該條第二項ノ故障ヲ許シタル限リニアラストシ棄却シタルハ素ヨリ相當ニシテ間然スヘキ
 所ナケレハ上告第一趣旨ハ其効ナキモノトス殊ニ被告人ハ株式取引所條例第十五條但書同
 第四十條ノ違約人ナルヲ以テ改正同第三十三條ニ依リ取引所ニ於テ相當ノ處分ヲ爲スヘキ
 モノナレハ民事原告人ニハ毫モ損害ヲ蒙ムルヘキ謂レナシ加之同第四十八條ノ如キハ取引
 所ニ於テ違約人ニ對シ相當ノ處分ヲ爲サ、ル時ニ於テ初メテ適用スル正條ナレハ直チニ被
 告人ヲ罰スル事ヲ得サレハナリ治罪法第二百五十五條ニ會議局ニ於テ故障ノ取調中共犯ノ
 起訴ヲ受ケサル者アルコト附帶ノ犯罪ニ付キ豫審ヲ受ケサル者發見シタル時ハ檢事ノ請求ニ
 依リ又ハ職權ヲ以テ判事一名ヲシテ豫審ヲ爲シ其報告書ヲ差出サシム可シトアル起訴トハ
 檢事ノ起訴ヲ指シタルモノニシテ民事原告人ノ起訴ハ之ニ包含セサルヤ明カナレハ原會議
 局カ之ヲ棄却シタルハ相當ナリトス又判決ノ猶豫ヲ採用スヘシトノ法律アルコトナケレハ採
 用セシテ判決シタリトテ是亦不當ナリト云フヲ得サレハ第二趣旨モ其効ナキモノトス第
 三訴旨ニ依リ一件書類ヲ檢審スルニ上告趣意書ヲ被告人ニ送達シタルモ期限內答辯書差出
 サ、ル旨原裁判所書記局ノ證明書アルアリテ顯然タルハ其下付セサルハ當然ニシテ越權ニ
 アラサルナリ因テ上告趣旨總テ成立タス
 以上ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ノ明文ニ依リ本案上告ハ之レヲ棄却スルモノ
 也

○第四百二十四號

判文(空米相場)明治十六年九月廿六日上告
同 十七年十一月廿八日發付

七九四

三重縣伊勢國三重郡四日市藏町
平民茶商

堀水安兵衛

明治十六年八月

三十八年

同縣同國同郡濱一色村平民茶商
仲買商

柴田富三郎

明治十六年八月

四十二年六月

靜岡縣遠江國佐野郡日坂驛本町
當時三重縣伊勢國三重郡濱田村
寄留平民茶商

早川傳三郎

明治十六年八月

三十七年十月

右安兵衛富三郎傳三郎カ空米相場取引被告事件ニ付明治十六年八月三十一日四日市治安裁
判所ニ開ク安濃津輕罪裁判所ニ於テ審理ノ末明治十三年第二十一號公布ニ依リ安兵衛ハ百
圓富三郎ハ五拾圓傳三郎ハ四拾圓ノ罰金ニ處スト言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ被告人等
ハ各上告ヲ爲シタリ安兵衛カ上告ノ要領ハ第一警察署ノ調書ハ呵喝ニ恐怖シ爲シタルモノ

ニシテ誤謬ノ甚シキ廉アルヲ以テ公判廷ニ於テ充分辯論ヲ爲サントスルニ之ヲ許可セスシ
テ處斷セラレタルハ不法ナリ第二假令空米相場ヲ爲シタル者トスルモ來客ト稱スル共犯人
ト俱ニ利潤ヲ得タルモノナルニ之カ區別ヲ爲シテ罰金ヲ科サレタルハ不法ナリ第三原判文
ニ桑名四日市兩警察官ノ調書云々トアルモ自分ハ桑名警察署ニ於テ訊問ヲ受ケタルコトナキ
ニ其訊問ヲ受ケタル調書アリトシ又ハ共犯人トハ何人ナルヤ其理由ヲ付セサルハ不法ナリ
富三郎傳三郎カ上告ノ趣旨ハ安兵衛カ訴旨ト大同小異ニシテ歸スル所ハ原裁判ハ檢察官ノ
立會モ要セスシテ爲シタルモノナレハ不法ナリト云フノ一點ニ過キス

對手人檢察官野村甚平ハ上告趣旨ノ不當ナルヲ逐一辯駁シテ原裁判妥當ナリト答辯セリ
大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

被告人等上告ノ理由トスル第一趣旨ニ依リ原一件書類ニ就キ審案スルニ警察官ノ呵喝ニ成
立タル不正ノ訊問調書ト見ルヘキ事蹟ナケレハ原裁判官カ之ヲ心證判斷ノ具ニ供シタル固
ヨリ相當ナルノミナラス其調書及ヒ被告カ陳述ヲ採ルト採ラサルトハ原裁判官ノ職權内ニ
アレハ他ヨリ之ヲ非難スルコト得サルモノトス又第二訴旨ノ如キハ明治十三年第二十一號
公布ニ規定シタル拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ストアル範圍ニ於テ原裁判官カ相當ト認
ムル所ノ罰金ヲ科シタル點ニ對シ區別シテ罰セラレタルハ不法ナリト云フニ過キサレハ是
亦相立タズ第三趣旨ハ桑名警察署ニ於テ訊問ヲ受ケタルコトナレハ事實ノ理由ヲ付セズトノ
コトナレトモ原裁判官カ共犯人ト認メタル後藤周右衛門外數名ヲ桑名警察署ニ於テ訊問シタ
ル調書ヲ以テ被告人等カ犯罪ノ證據ニ供シタルモノナルヤ明カナレハ不當ニアラス又共犯

七九五

人トハ何人ナルヤノ如キハ一件書類ニ就テ見ル時ハ瞭然タレハ之ヲ明示セサルトテ事實理由ノ不備ナル裁判ナリト云フヲ得ス其他檢察官立會ナクシテ裁判シタルハ不當ナリト云フト雖モ明治十四年第五十四號公布ヲ以テ治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開ク場合ニ於テハ訟廷内治罪ノ手續便宜可取計且ツ其手續上ニ付テハ上訴ヲ許サストアレハ之ヲ不當ナリトスル上告ハ成立タヌ因テ上告ノ趣旨ハ總テ其効ナキモノトス以上ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ハ之ヲ棄却ス

○四千二百四十五號

判文〔古物商取締規則犯〕明治十七年十月十五日上告
年十一月二十八日發付

愛媛縣讚岐國香川郡田町平民賣
藥請賣商

秋田平太郎

明治十七年九月

二十年六月

明治十七年九月二十日松山輕罪裁判所高松支廳ニ於テ平太郎カ賣藥規則違犯ノ被告事件ヲ審判シ被告人ハ既ニ賣藥請賣營業ノ期限ヲ過キシ胎毒藥君子丸外四劑ハ自用人ノ購求ニ應セン爲メ他ノ藥品ト共ニ店頭へ陳列シタル者ト認定シ明治十年第七號公布賣藥規則第二十一條ニ依リ其藥劑ヲ官沒シ壹方ニ付拾圓ノ罰金ニ該當スルヲ以テ五劑ニ付五拾圓ノ罰金ニ處スヘキ所刑法第五條第八十九條第九十條ニ照シ二等ヲ輕減シ貳拾五圓ノ罰金ニ處スト言渡シタル裁判ヲ不服ナリトシ被告人カ上告ノ要旨ハ賣藥請賣營業滿期ニ至リタル上ハ其殘

ヲ所持シ得ヘカテサルノ法文ナキヲ以テ藥品ヲ藏置シタルモ違則ノ所爲ニアラス則チ本案五劑ノ藥品ハ藏置シタルモノヲ臨檢官吏ノ指揮ニ依リ家族ノ者カ何ノ辨別モ無ク差出シタルモノニテ賣藥品ト混同シ置キタルモアラス第二賣藥規則第二十一條ハ無鑑札又ハ期限過キタル鑑札ヲ以テ請賣スル者ヲ罰スルノ條ニシテ未タ販賣セサル時ハ該條ノ違犯者ナリトスルヲ得ス第三檢査官ノ告發書ニ賣藥品ト混同セシヲ以テ販賣品ト見做ストアルノミ然レハ販賣セシヤ否明瞭ナラサルニ輒スク賣藥規則第二十一條ノ違犯者ナリトシ裁判シタルハ擬律錯誤及ヒ越權ノ處分ナリト云フニアリ

原裁判所檢事補山下與作ハ原裁判相當ニシテ上告趣旨ハ不當ナルモノト答辯セリ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行シ判決ヲ爲ス左ノ如シ

上告第一及ヒ第三ノ趣旨ハ君子丸外四品ハ店頭ノ賣藥品ト混同シ置キタルニアラス又タ檢査官ニ於テ販賣品ト見做スト云ヒシニ過キサレハ犯則ノ證據ナシト云フニアルモ諸般ノ證據ヲ取捨判別シ事實ノ認定ヲ爲スハ事實審官ノ職權ナルヲ以テ其權内ノ處分ヲ批難シ之ヲ訴フルモ上告ノ原由ト爲スヲ得ス其第二ノ論點ハ未タ發賣セサレハ犯則ニアラスト云フニアルモ店頭ノ賣藥品ト混同シ需用人ノ購求ニ供セント爲シタル上ハ無免許ニテ賣藥ヲ爲ス者ナルカ故ニ設令未タ需用人ニ賣渡シタルヲ認メサルモ賣藥規則ノ違犯者ト認メシハ越權ノ處分ニアラサルノミナラス擬律ノ錯誤ニモアラサルヲ以テ上告ノ趣旨ハ一モ治罪法第四百二十五條各項目ニ適當ナル原由之レ無キモノトス右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ基キ之ヲ棄却スル者也

判文(官吏行職務妨害、官吏侮辱、集會條例犯)明治十七年三月十二日上告

同 年十一月二十九日發付
栃木縣下野國下都賀郡西水代村

平民農兼醬油製造業

田村 金之助

同縣同國同郡同村平民農業
明治十七年二月
二十六年四月生

田村 哲三郎

同縣同國同郡同村平民農兼賣藥
明治十七年二月
三十年七月生

營業

今井 繁治

同縣同國同郡同村平民農兼油渡
明治十七年二月
二十三年正月生

世

田村 順之助

同縣同國同郡同村平民農
明治十七年二月
二十五年七月

落合 茂三郎

同縣同國同郡同村平民農兼菓子
明治十七年二月
二十五年

製造職

山口 角造

明治十七年二月
三十二年

右金之助外五名カ被告事件ニ付明治十七年二月十九日栃木縣裁判所ニ於テ被告等ハ角造方ニ於テ第一金之助哲三郎ハ角造カ轉宅ノ祝宴ニ組合ノ者共來會シ政談演說ヲ爲シタリ第二金之助哲三郎繁治順之助ハ栃木縣巡查ノ目前ニ於テ言語ヲ以テ侮辱シタリ第三金之助哲三郎順之助繁治茂三郎ハ巡查ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ其職務ヲ行フヲ抗拒シタリ第四角造ハ自宅ニ於テ公衆ヲシテ無届ニテ政談演說ヲ爲サシメタリ其第一ノ所爲ハ明治十三年第十二號布告集會條例ニ依リ問フヘキモノニ非ラストス第二金之助哲三郎繁治ノ所爲ハ證據充分ナルヲ以テ刑法第四百一十一條ニ依リ各二月ノ重禁錮ニ處シ貳圓ノ罰金ヲ附加ス第二順之助ノ所爲及ヒ第三金之助哲三郎繁治順之助ノ所爲ハ其證據充分ナラサルヲ以テ治罪法第三百五十八條ニ依リ各無罪第三茂三郎ハ當夜角造方ニ居合セサルヲハ各證據充分ニシテ又第四角造ノ所爲共ニ罪トナラサルヲ以テ各刑法第二條ニ依リ無罪ト言渡シタル裁判ニ對シ原檢察官ハ之レヲ不當ナリトシ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ第一金之助哲三郎等ハ轉宅祝ヒノ名義ニ托シ二十有餘ノ公衆ヲ集メ政談演說ヲ爲シタル者ナレハ集會條例ヲ以テ罰セサルハ擬律

ノ錯誤ナリ第二金之助哲三郎順之助繁治茂三郎ノ如キハ公權ヲ蔑視シ職務ヲ行フ巡查ニ對シ抗拒若シハ侮辱シテ之レヲ妨害シタルコトハ衆證ニ徴シ明瞭ナルニ單ニ侮辱罪耳ヲ罰シ其他ヲ罰セサルハ事實理由ノ齟齬且擬律ノ錯誤ナリ第二參考人田村宇源次等ノ如キハ茂三郎順之助等カ請求ニ出其兄弟叔父等ニアリ然ルニ事實證據ノ具備スルモ不顧其ノ陳述ヲ輕信シ無罪放免ノ言渡シヲ爲シタルハ越權ノ處分ナリト云フニ在リ

對手人被告金之助外五名ハ檢察官ノ上告ハ渾テ理由ナキ旨答辯セリ
被告金之助哲三郎繁治カ上告ヲ爲シタル要旨ハ第一被告人數名アル時ハ檢察官及ヒ其他訴訟關係人ノ意見ヲ聽カサルハ治罪法第二百九十九條ニ背キタルモノナレハ同法第四百十一條第六項ニ該リ第二大出健十郎ハ茂三郎ノ實兄田村「サウ」ハ哲三郎ノ妻ナルモ連帶被告ニ對シ悉皆同法第百八十一條ニ抵觸スル者ニアラサルニ之レヲ一ニ參考人トシテ證人ト爲ササルハ同法第四百十條第十一項ニ該リ第三侮辱セシト云フ巡查タルヤ搜查即チ探偵ノ爲メナレハ其探偵吏ハ官吏ト稱スル者ニ非ラス良シヤ官吏ナリト假定スルモ彼ノ輩ノ裝ヒハ以テ巡查ト信認スルヲ得サリシコトハ原判文上ニ依ルモ明カナリ然ルチ官吏侮辱罪ナリトセシハ同法第四百十條第十項ニ該リ第四判官カ專ラ證據トセラレタルハ證人タル巡查二名ニ外ナラス然ルニ其陳述ハ各異レハ其信認スヘキ陳述ヲ採ラサルヲ得ス然ラサレハ孰レヲ以テ事實ノ理由トナシタルヤ分明ナラス然ルニ貳箇ノ陳述ヲ併テ採用セシ耳ナラス其侮辱ハ二階ナルカ將タ其下ナルカ犯罪ノ場所ヲ明示セサルハ同法第四百十條第九項ニ該リ第五證人後藤宗次郎ニ於テハ哲三郎カ侮辱ヲ加ヘタリト云ヒ角野定寧ハ繁治ナリト云ヒ其他ノ者ハ

分明ナラスト申立アリテ其異ナルニモ拘ハラヌ判官ハ證言セサル事柄ヲ既ニ爲シタルカ如ク掲載セシハ同法第四百十條第十一項ニ該ル何レモ不當ノ裁判ナリト云フニ在リ

對手人原檢察官ハ被告上告第一ノ趣旨ヲ除クノ外理由ナキ旨答辯セリ
大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行スルニ立會檢事ハ順之助茂三郎角造ニ對シ附帶上告ヲ爲シタリ其要旨ハ公判ニ於テ被告數名アル時ハ其訊問ノ順序ヲ定ムルニ檢事ノ意見ヲ聽カサルヲ得サルハ法律上ニ於テ然リ然ルニ之ヲ聽カサルハ不法ナリ又金之助外二人ノ上告第一ノ趣旨ハ至當ナルヲ以テ其他ノ趣旨如何ニ依ラス同法第四百十條第六項ニ該ル無効ノ裁判ナルヲ以テ渾テ破毀スヘキモノナリト旨ヲ陳述セリ上告代理人ハ上告ノ趣旨ヲ擴張シ且ツ順之助茂三郎角造ニ對スル附帶上告ハ訊問ノ順序ヲ定メサルモ既ニ無罪放免ノ言渡シヲ受ケタルモノナレハ更ニ之レカ裁判ヲ爲スチ必用トセズ即チ原裁判ノ至當ナル旨答辯セリ因テ之レヲ判決スルコト左ノ如シ
順之助茂三郎角造ニ對スル附帶上告ノ趣旨ハ公判開廷ニ方リ被告數名アル時ハ檢察官ノ意見ヲ聞キ訊問ノ順序ヲ定メサルヲ得ス然ルニ之レヲ爲サ、ルヲ以テ治罪法第四百十條第六項ニ適スル裁判ナリト云フモ假令同法第二百九十九條ノ規則ニ背キ其順序ヲ定メサル場合アルモ同法第四百十一條ニ(免訴)又ハ無罪ノ言渡シアリタル場合ニ於テハ被告人ノ利益ノ爲メニ定メタル規則ニ背キタル事又ハ犯罪ノ場所ニ因リ管轄違アリト雖モ上告ヲ爲スコトヲ得ス(ト)アリテ被告等ハ既ニ無罪ノ言渡シヲ受ケタルモノニシテ其履踐セサリシト云フ規則ハ畢竟被告ノ利益ニ係ルモノナレハ其規則ヲ履踐セスト云フ耳ヲ以テ上告ヲ爲シ得ヘカ

ラサルモノトス又順之助茂三郎角造ニ對スル原檢察官上告ノ趣旨第一ハ角造ノ所爲ヲ集會條例ヲ以テ罰セサルハ擬律ノ錯誤ナリト云フモ既ニ判官ニ於テ事實ヲ認定シタルモノナレハ其當否ヲ批難スルニ過キサル者トス第二繁治茂三郎ハ巡查ノ職務ヲ行フチ抗拒シ且ツ侮辱シタルモノナルニ之レヲ罰セサルハ事實理由ノ齟齬且ツ擬律錯誤ナリト云フモ原裁判言渡書中前段ニ於テ事實ヲ掲載セシ耳ナラス(被告順之助ハ以上ノ景況ニ依レハ其侮辱罪ヲ犯シタル證據充分ナラス又被告ノ中茂三郎ハ該夜角造方ニ居合セサリシコトハ證人云々)トアリテ其事實明瞭ナリ之レヲ要スルニ上告者ノ思惟スル所ノ事實ト齟齬スト云フニ外ナラスシテ到底判官ノ心證判斷ヲ批難スルニ過キサルモノトス第三事實證據ノ具備スルモ願ミテ被告ノ親族ニ係ル參考人ノ陳述ニ專テ依リタルハ越權ナリト云フモ其親族ニ係ル者ハ證人ト爲スヘカラサルコトハ法律ニ於テ禁スル所ナルヲ以テ參考人ト爲シ其陳述ヲ聽キタルハ當然ニシテ而モ證據トセシハ特リ其參考人耳ニ止ラスシテ其他各證人ヲ明示シアレハナリ故ニ判官ニ於テ正當ノ職權ヲ以テ爲シタル證據採擇ノ當否ヲ批難スルニ過キサルヲ以テ何レモ上告ノ理由トスルヲ得ス又被告金之助哲三郎繁治カ上告ノ要旨ハ多岐ニ渉ルモ第一公判ニ於テ被告數名アル場合ニ於テ訊問ノ順序ヲ定メス且ツ一モ意見ヲ聽カサルハ治罪法第四百十條第六項ニ適スル裁判ナリト云フニ依リ公判始末書ヲ查閱スルニ其第四十八項(又裁判官ハ被告一同ニ對シ云々尋テ被告訊問ノ順序ハ事實發見ノ爲メ必用ト見認ムルヲ以テ第一山口角造第二田村順之助第三田村金之助第四田村哲三郎第五今井繁治第六落合茂三郎ト斯ク定ル間左様心得ヘヨト告ケタリ)トアリテ治罪法第二百九十九條第一項ノ規則ニ

從ヒ檢察官ノ意見ヲ聽クヘキコ之レヲ聽カサルニアリ抑モ其第二項ナルモノハ既ニ定マリタル順序ヲ變更スルヲ得セシメタルモノニシテ其第一項ノ規則ヲ履踐セサルモ可ナリト定メタル法意ニ非ラサルコトハ其順序ヲ變更スルヲ得トアルヲ以テ看ルモ明瞭ナリ然ラハ則檢察官ノ意見ヲ聽クヘキ場合ニ於テ之レヲ聽カサルモノナレハ同法第四百十條第六項ニ適スル不法ノ裁判ナリトス

右ノ理由ナルヲ以テ附帶上告及ヒ順之助茂三郎角造ニ係ル原檢察官ノ上告ハ同法第四百二十七條ニ依リ之レヲ棄却シ被告金之助哲三郎繁治カ上告第一ノ趣旨ニ據リ右三名ニ係ル原裁判言渡シヲ破毀シ同法第四百二十八條ニ從ヒ適法ノ審判ヲ受テシメンカ爲メ東京輕罪裁判所ニ移スモノナリ

但シ金之助哲三郎繁治ニ係ル裁判ハ既ニ破毀セシヲ以テ之レニ對スル檢察官ノ上告及ヒ被告上告第二以下ノ趣旨ニ付別ニ辯明ヲナスヲ要セス

○第四千二百四十七號

判文(徵兵忌避) 明治十六年六月廿五日上告
同 十七年十一月廿九日發付

新瀨縣越後國南蒲原郡貝喰新田

平民耕平長男古着商

高橋 信郎

明治十六年六月
二十年十月

右信郎カ徵兵免役ヲ圖リタル被告事件ニ付明治十六年六月七日新瀨縣輕罪裁判所ニ於テ審理

ノ末刑法第七十八條第一項ニ依リ重禁錮二月ニ處シ罰金五圓ヲ附加スト言渡シタル裁判
 ナ不當ナリトシ被告信郎ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ明治十六年三月十二日徴兵検査ニ出頭
 セサルハ實母重病ノ爲メ看護トシテ佐野茂造方へ相越シ一泊ノ上翌十三日歸宅スルモ養家
 ニ於テ訴訟事件出來シ不得止該事件ニ付新潟表へ立越シタル事情ニシテ毫モ免役ヲ圖リタ
 ル次第ニ非ラス然ルニ原裁判所ハ免役ヲ圖リタルモノトシ前記ノ如ク斷了セラレタルハ越
 權ノ處分ナルヲ以テ之レガ破毀ヲ需ムル旨論告セリ
 同裁判所檢事補石部雄海ハ原裁判允當ニシテ上告ノ非理ナルヲ答辯セリ
 大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行シ爰ニ之ヲ審案スルニ抑モ治罪法第百四
 十六條第二項ニ定メタル如ク證據ヲ採擇シテ事實ヲ斷定スルハ承審官ノ職權ニ在ルモノナ
 レハ漫リニ其判定シタル事實ハ左右スルヲ得サルモノナリ今被告カ論告スル處ノ趣旨タ
 ルヤ越權ノ處分ナリト云フモ單ニ事實判定上ヲ辯難スルニ止リ一モ治罪法第四百十條ノ各
 項ニ定メタル原由アルコトナク既ニ原判官ニ於テハ詐欺ノ所爲ヲ以テ徵兵免役ヲ圖リタルモ
 ノト認定シタルモノニシテ訴訟書類ニ徵スルモ越權等違法ノ廉ナケレハ到底該上告ハ相立
 タサルモノト裁定ス
 右ニ辯明スルカ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ノ法規ニ依リ本案上告ハ棄却スルモ
 ノ也

○第四千二百四十八號

判文(印影盜用) 明治十六年八月十七日上告
 同 十七年十一月廿九日發付

高知縣土佐國土佐郡蓮池町平民

公文專次郎

明治十六年七月

四十五年

同縣同郡菜園場町平民

豐永市太郎

明治十六年七月

二十七年

明治十六年七月十八日高知輕罪裁判所ニ於テ右公文專次郎ハ私印盜用私文書偽造詐欺取財
 未遂ノ所爲アリト判定シ刑法第二百八條第二項同第二百十條同第三百九十條同第百條ニ照
 シ所犯情狀重キ第二百八條ニ依リ重禁錮十月ニ處シ罰金八圓ヲ附加シ仍刑法第二百十二條
 ニ依リ監視一年ニ附シ豐永市太郎ハ專次郎カ犯罪ヲ容易ナラシメタル所爲アリト判定シ刑
 法第百九條ニ依リ專次郎ニ適用セシ各正條ニ照シ一等ヲ減シ重禁錮八月ニ處シ罰金五圓ヲ
 附加シ監視八月ニ付スル旨宣告セリ
 公文專次郎ハ右ノ裁判ニ服セス上告ヲ爲シタル要旨ハ被告ハ和田善右衛門ノ實印ヲ盜用シ
 テ虛偽ノ證書ヲ作爲シ金員ヲ騙取セント謀リタルトナシ然ルチ原裁判所ハ野村「シン」野村
 政太郎ヲ以テ證人トナシ被告犯罪ヲ證明スト雖モ「シン」ハ和田善右衛門ノ妻ニシテ政太郎
 ハ「シン」ノ弟ナレハ法律上證人タルノ資格ヲ有セサル者ニシテ是等ノ證言ハ信ヲ措クニ足
 ラサルニ右等採ル可カラサル證言ヲ採リ告訴人ノ片言ヲ妄信シ前記ノ如ク斷定シタルハ不
 當ナリト云フニ在リ

豊永市太郎カ上告ノ要旨ハ被告ハ山内頼昭總理代人和田善右衛門ノ頼談ニ應シ正實ニ金圓ノ貸借ヲナシタル者ニシテ公文專次郎カ依頼ニ依リ和田善右衛門ノ實印ヲ盜捺シタル虚偽ノ證書ニ債主トナリ記名シタル者ニアラス然ルニ原裁判所ニ於テ野村政太郎野村「シ」ヲ證人トナシ前記ノ如ク斷定スト雖モ右政太郎「シ」ハ何レモ和田善右衛門ノ親屬ニシテ右證書ニ對シテハ幾分カ義務ヲ負擔スルモノニシテ該證ノ廢滅ヲ希圖スル者ナレハ右二人ノ證言ハ犯罪ヲ證明スヘキ適實ノ證言ニ非ラサルニ原裁判所カ探テ以テ證トナシタルハ不當ナリト論告シ且ツ前陳ノ事實ナレハ私訴裁判費用ヲ負擔スヘキ理由ナシト云フニ在リ

對手人檢察官原裁判所檢事補村田穂ハ本案上告論旨ハ其理由ナシト雖モ原裁判所ニ於テ被告カ詐欺取財未遂ノ罪アルコトヲ認メナカラ刑法第三百九十條ノ適用シ同第三百九十七條ヲ適用セサルハ擬律錯誤ナリト附帶上告ヲナシタリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事池上三郎ノ意見ヲ聽クニ原判文ニ證據トシテ掲載スル豊永市太郎野村政太郎野村「シ」等ノ調書中和田善右衛門ノ印影ヲ盜用シタリトノ證據アラサルニ妄リニ事實ヲ臆測シ印影盜用罪ナリト斷定スルノミナラス判文前段ニ依レハ市太郎ハ虚偽ノ證書ニ債主トナリ其催促ノ委任ヲナシ裁判所ニ出訴セシメタル者ニシテ即チ私書偽造等ノ共犯ナルコト分明ナリ然ルニ後段ニ於テハ更ニ專次郎ノ犯罪ヲ容易ナラシメタル者ナリト記載シ從犯ノ事實ヲ掲ケタルハ事實ノ理由齟齬及越權ノ處分アル不法ノ裁判ナル旨附帶上告ヲ爲タリ因テ之ヲ審案スルニ被告上告ノ要旨ハ事實ノ判定ニ對シ不服ヲ訴フルニ過キスシテ上告ノ原由ナク且證人野村政太郎野村「シ」ハ何レモ和田善右衛門

親屬ニシテ證人ノ資格ヲ有セサル旨論告スレモ治罪法第百八十一條同第百八十二條ニ於テ制裁ヲ受クル者ニ非ラサレハ該論告モ亦相立タサル者トス而シテ原判文ニ依レハ被告ハ詐欺取財未遂ノ罪アルニ刑法第三百九十七條ヲ引用セサルハ粗漏ナリト雖モ刑法第百條ニ照シ情狀重キ第二百八條ニ依リ處斷シタル者ナレハ現ニ適用シタル刑ニ毫モ影響ヲ及ササルハ破毀ノ限リニ非ラストス然レモ原判文ニ證據トシテ掲載スル豊永市太郎野村政太郎野村「シ」ノ調書ヲ閱スルニ就中「シ」カ調書中(善右衛門病死ノ節云々專次郎ヨリ然レバ之ニ善右衛門ノ實印ヲ捺スヘシ然ル時ハ暫ク當所ニ差置ナリト申迫ルニ付何ノ事ヲモ辨ヘス紙ニ善右衛門ノ實印ヲ捺シ專次郎ヘ相渡シタルコトアリトアリテ證書偽造ヲ判定スヘキ證據ノ端緒アルモ私印盜用ノ證據アルヲ視ス而シテ豊永市太郎野村政太郎ノ調書モ只證書偽造ノ證據アルノミシテ私印盜用ニ係ル陳述アルナシ果シ然ラバ私印盜用ノ所爲ハ何等ノ證據ニ據リ認定ヲナシタルヤ證ノ視ルヘキナク私印盜用ハ事實ニシテ其事實ヲ判定スルニハ其理由ヲ附セサルヘカラス然ルニ原判文中一モ其理由ノ視ルナキハ事實ノ理由ヲ附セサルモノナリ又 原判文ニ市太郎ニ於テハ其虚偽ノ證書ニ債主トナリ尙其催促ノ委任ヲナシト記載スルハ即チ專次郎カ共犯タルノ事實明瞭ナルニ其後段ニ於テ專次郎カ犯罪ヲ容易ナラシメ云々)ト記載スルハ即チ專次郎カ從犯タルノ事實ニシテ前後事實ノ理由ニ齟齬アリテ本院檢事附帶上告論旨ノ如ク破毀ノ原由アル不法ノ裁判ナリト判定ス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ被告人上告及ヒ原檢察官附帶上告ハ之ヲ棄却シ本院檢事附帶上告論旨ニ基キ治罪法第四百二十八條ニ從ヒ原裁判ノ全部ヲ破毀シ正

當ノ判決ヲ受ケシメノ爲メ德島輕罪裁判所ニ移スモノナリ

○第四百二十四十九號

判文〔貨幣偽造〕明治十七年二月廿五日上告
同 年十一月廿九日發付

長野縣信濃國東筑摩郡筑摩村鎌
田耕地平民

池田六平

右六平カ古小判金偽造被告事件豫審終結言渡シニ對シ被告カ申立タル故障ニ付明治十七年

一月二十二日長野輕罪裁判所松本支廳會議局ニ於テ故障ノ理由ナキモノトシ豫審終結言渡

シテ認可セシ判決ヲ不當ナリトシ被告カ上告シタル要旨ハ舊金銀ハ内國通用ノ金銀貨ト同

一視スヘカラサル者ナレハ刑法第百八十二條ノ支配ヲ受クヘキ者ニアラスト云フニ在リ

對手人檢事補江木温直ハ會議局ノ判決相當ニシテ上告ノ理由ナキ旨答辯セリ

茲ニ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ニ則リ判決スル左ノ如シ

上告ノ要旨ハ古金偽造ノ所爲ハ内國通用ノ金銀貨ト同一視スヘキモノニ非ラサレハ刑法第

百八十二條ノ支配外ナリト云フニ外ナラサレ其偽造ノ古小判金タルヤ明治七年第九十三

號公布舊貨幣價格比較表ニアルモノニシテ其價格比較表ノ定價ヲ以テ國債寮へ賣拂フコト

得ヘキモノニテ未タ其本位ヲ失ハサルモノナレハ通用貨幣ト同一ノ効チ有スル勿論ナリ故

ニ原裁判所會議局ニ於テ豫審終結ノ言渡ヲ認可セシハ相當ノ判決ニシテ上告ノ理由ナキモノ

トス因テ治罪法第四百二十七條ノ規則ニ從ヒ本案上告ハ之ヲ棄却スル者也

○第四百二十五號

判文〔官印偽造〕明治十七年三月廿一日上告
同 年十一月廿九日發付

富山縣越中國射水郡米島村四十
二番地西野甚左衛門方同居平民
農

西野牛太郎

明治十七年二月
三十一年生月不詳

右牛太郎カ被告事件ニ付明治十七年二月二十五日富山重罪裁判所ニ於テ被告ハ戶長役場印
又ハ人ノ實印ヲ偽造シ若クハ盜用シ戶長ノ公證アル金圓借用證書ヲ偽造シ以テ金圓ヲ騙取
シタルモノトシ刑法第三百九十條同第三百九十四條同第二百四條同第二百六條同第百九十
五條同第二百八條同第二百十二條同第百條同第百九十五條同第八十九條及ヒ第九十條ニ依
リ本刑ニ一等ヲ減シ輕懲役七年ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ其要
旨ハ第一戶長役場印及ヒ戶長ノ實印ヲ偽造シタル事ナク事實其印影ヲ盜用シタルニアリ其
證據ハ該證書中契印ナシ若シ偽造セシモノナレハ是レ等ノ事ヲ完全セサルノ理ナシ然ルニ
僅カニ一名ノ鑑定書ニ依リ偽印ヲ以テ罰シ第二竹中忠左衛門へ證書ヲ差入レ金ヲ得タルモ
其他貳通ノ證書ハ只差入レタル耳ニシテ壹錢モ騙取セズ即チ詐欺未遂犯ナルニ之ヲ已遂ノ
如ク判決シ第三刑法第三百九十七條同第三百九十三條及ヒ第二百十條ヲ適用セサルハ擬律

ニ錯誤アル不法ノ裁判ナリト云フニアリ
原檢察官ハ上告ノ理由ナキ旨答辯セト

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行スルニ上告代人桑島加全ハ上告ノ趣旨
ヲ擴張シ而シテ第一原裁判言渡シハ實父ノ地券狀ヲ擅ニ取出シト事實ヲ掲載シタル者ナレハ
有罪トシ將タ無罪トスルカ何レカ法律ノ適用ヲ爲サルヲ得ス然ルニ之ヲ等閑ニ付シ第二
止タニ刑法第三百九十條ヲ適用スルニ其數罪中何レノ罪名ト認メタルカヲ明示セサルヲ以
テ法律ノ正條ヲ羅列シタリト云フヘク其理由ヲ明示シタリト云フ可カラス第三被告ハ偽造
證ヲ以テ既ニ壹回ノ分ハ金ヲ得タルモ其他ノ貳回ハ證書ヲ差入タル耳ナルニ共ニ金ヲ得タ
ルモノハ如ク論決シ未遂犯ノ刑ヲ適用セサルハ乃チ治罪法第四百十條第十項ニ該ル何レモ
不法ノ裁判ナリト云フニアリ立會檢事加納久宜ハ上告趣旨ニ於ケル未遂犯罪ニ對シ之レチ
已遂犯ノ如ク判定セシ一點ハ賛成スルモ其他ハ渾テ理由ナキ旨陳述セリ因テ判決スルヲ左
ノ如シ

茲ニ是レヲ審案シ上告第二第三ノ趣旨ニ依リ原判文ヲ閱スルニ(戶長ノ公證アル金圓借用
證書四通ヲ偽造シ)トアリテ其偽造タルヲハ確認スルモ官文書偽造ノミヲ罰シ私書ニ及ハ
サル耳ナラス川南仁八郎松任佐助ヘハ證書ヲ交付シタル耳ニシテ未タ金ヲ得サルモノト認
メナカラ未遂犯罪ヲ以テ論セサルハ共ニ擬律ノ錯誤ナリトス又人ノ不動産ヲ抵當若クハ典
物ト爲シタル乎或ハ之レヲ爲スモ管ニ詐欺取財ノ手段ノ具ニ充ル耳ナリト認定セシ乎判文
中毫モ之レヲ看ルニ由ナク乃チ上告論旨ノ如ク事實理由ヲ明示セサル不法ノ裁判ナリトス

又上告代人第三ノ論旨ニ依リ原判文ヲ閱スルニ(實父甚右衛門所有ノ地券ヲ擅ニ取出シ)
トアリテ犯罪ト認メ得ヘカラサル事實ナルカ若クハ認メ得ヘキモ同居ノ親屬ニ係ルヤ否ノ
事實及ヒ法律ノ理由ヲ共ニ明示セサルハ到底代人論旨ノ如ク不法ノ裁判ニシテ事實及ヒ
法律ニ依リ理由ヲ付セサルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ原裁判言渡シノ全部ヲ破毀シ治罪法第四百二十八條ノ規則ニ從ヒ適法
ノ審判ヲ受ケシメンガ爲メ金澤重罪裁判所ヘ移スモノナリ

但原裁判ハ既ニ破毀セシヲ以テ上告第一ノ趣旨及ヒ代人第二第三ノ論旨ニ對シ一々辯
明ヲ付スルヲ必要トセサルヲ以テ之レヲ與ヘス

○第四百二十五十一號

判文(官文書偽造及官印盜用) 明治十七年四月七日上告
年十一月廿九日發付

石川縣能登國鳳至郡空熊村垣内

七番地平民農業並牛馬商

江下甚三郎

明治十七年三月
四十七年七月

明治十七年三月十四日金澤重罪裁判所ニ於テ右甚三郎外一カ被告事件ヲ審判シ被告甚三郎
ハ明治十五年十二月中人所有ノ地所ヲ自己ノ所有地ト詐リ二番書入ノ借用證書ヲ偽造シ
戶長被告前田專右衛門ニ懐ヲ明シ公證ヲ求メ該偽造ノ證書ヲ以テ大邊玉藏ヨリ金四拾三圓
ヲ詐取シ未發ニ自首ヲ爲シ明治十二年八月二日三吉竹堂ヨリ金三拾圓借用ノ時書入ト爲シ

タル地所ノ内一筆ヲ谷口五左衛門へ賣渡シ未發ニ自首シタル後債主三吉竹堂へ借金元利ノ金額ヲ償還シタル該贓金百貳拾圓以上ト認定シ刑法第三百九十條第三百九十三條第二項刑法第二百十條刑法第二百四條刑法第二百五條刑法第二百六條刑法第九十五條刑法第九十七條刑法第二百一一條刑法第二百四條刑法第六十七條刑法第七十條刑法第八十五條刑法第八十六條刑法第三條新律綱領詐爲官文書條改定律例第二百四十六條重典賣田宅條ニ罪俱發以重論條犯罪自首條右ノ各條ヲ適用シ刑法實施以前ニ係ル犯罪ニ對シテハ新法ニテハ一ノ重キ刑法第三百九十三條第二項第三百九十條ニ據リ刑法第八十五條第八十六條ニ適用シ本刑ニ三等ヲ減シ舊法ニテハ一ノ重キ重典賣田宅條ニ據リ犯罪自首條ニ照シ免罪其他刑法實施以後ノ犯罪ハ一ノ重キ刑法第九十七條第二項第九十五條第八十五條ニ據リ本刑ニ一等ヲ減シ輕懲役ニ該リ原諒スヘキ情狀アルヲ以テ刑法第八十九條第九十條ニ據リ本刑ニ一等ヲ減シ江下甚三郎ハ重禁錮四年ニ處シ監視一年ニ付スト言渡シタル裁判ヲ不法ナリトシ被告甚三郎上告ノ趣旨ハ原裁判官ニ於テ刑法第九十七條第二項及第九十五條ヲ適用セラレ被告甚三郎カ本刑ヲ重懲役ナリト判セラレ居自分ハ官印ヲ偽造セシニアラス原裁判官カ認メラレタル事實ニ依レハ舖田新三郎ノ地所ヲ冒認シテ大邊玉藏へ二番書入トナスニ際シ戸長前田專右衛門へ其情ヲ明カシ虛偽ノ公證ヲ受ケ之レヲ使用シタルモノニテ刑法第九十七條ノ罪ヲ犯ス共犯ナルモ決シテ刑法第九十五條ノ罪ヲ犯セシニ非ラス又刑法第九十七條第二項ヲ適用セラレ居自分ハ役場印ノ監守者ニ非ラサレハ同條本條ヲ適用セラレ、モ第二項ヲ適用セラレヘキ者ニ非ラスト思考ス又刑法第二百五條ヲ適用セラレタルモ被告甚三郎ハ其管掌ニ係ル文書ヲ偽造セシニアラサレハ宜シク第二百四條ヲ適用セラレヘキモノニシテ第二百五條ヲ適用セラレヘキモノニ非ラスト思考ス何ントナレハ刑法第六條ニ正犯ノ身分ニ因リ別ニ刑ヲ加重スヘキ時ハ他ノ正犯從犯及ヒ教唆者ニ及ホストヲ得ストアレハナリ然ルニ原裁判官ハ戸長タル身分アル共犯前田專右衛門ト等シク被告甚三郎へ刑ヲ加重シタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在リ

原裁判所檢察島村左平ハ原裁判適法ナル旨答辯セリ
 大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルニ原裁判所カ認定シタル第一ノ事實ハ被告江下甚三郎ハ明治十五年十二月中他人所有地ヲ自己所有地ト詐リ二番書入ト爲シタル借金證書ヲ偽造シ戸長前田專右衛門ニ情ヲ明カシ公證ヲ求メ大邊玉藏ヨリ金四拾三圓ヲ詐取シ未發ニ自首ヲ爲シタルモノナルヲ以テ之ヲ法律ニ照スニ他人ノ所有地ヲ冒認シテ抵當ト爲シタルハ刑法第三百九十三條初項刑法第三百九十條ニ該ルヲ以テ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ヲ附加シ刑法第三百九十四條ニ依リ六月以上二年以下ノ監視ニ付スヘキモノトス因テ貸借證書ヲ偽造行使シタルハ刑法第二百十條ニ該リ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ヲ附加シ刑法第二百十二條ニ依リ六月以上二年以下ノ監視ニ付スヘキモノトス戸長ノ公證ヲ偽造行使シタルノ罪ハ刑法第二百四條ニ該リ二人以上現ニ罪ヲ犯シタルモノナルヲ以テ刑法第四百四條ニ依リ正犯ト爲シ刑法第六條正犯ノ身分ニ因リ別ニ刑ヲ加重スヘキ時ハ他ノ正犯從犯及ヒ教唆者ニ及ホストヲ得ストアルニ依リ則チ刑法第二百四條ノ刑輕懲役ニ處スヘキモノ

トス以上數罪俱發ナルヲ以テ刑法第百條ニ照シ一ノ重キ刑法第二百四條ノ罪ニ從ヒ輕懲役ノ處未發ニ自首シタルモノニ付刑法第八十五條ニ照シ一等ヲ減シ刑法第六十九條ノ例ニ照シ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ該リ原諒スヘキ情狀アルニ依リ刑法第八十九條及ヒ九十條ニ照シ一等ヲ減シ一年六月以上三年九月以下ノ重禁錮ニ處シ刑法第二百七條ニ依リ六月以上二年以下ノ監視ニ付スヘキモノナリトス然ルニ原裁判茲ニ出テサリシハ擬律ノ錯誤ヲ免カレサルモノ即チ治罪法第四百十條第十項ニ相當スル上告ナリト判定ス因テ治罪法第四百三十一條ニ基キ原裁判中ノ不法ニ係ル即チ上告ノ部分ヲ破毀シ治罪法第四百二十九條ニ法リ直チニ裁判ヲ爲ス左ノ如シ

江下甚三郎

右辯明ノ理由ナルニ依リ原裁判所カ認定シタル第一ノ事實ニ對シ刑法第三百九十三條初項刑法第三百九十四條刑法第三百九十四條刑法第二百十條刑法第二百十二條刑法第二百四條刑法第四百條刑法第六條刑法第百條ニ照シ一ノ重キ刑法第二百四條ノ罪ニ從ヒ輕懲役ノ處自首ニ係ルヲ以テ刑法第八十五條ニ照シ一等ヲ減シ刑法第八十九條ニ依リ一等ヲ酌減シ其範圍内ニ於テ三年ノ重禁錮ニ處シ刑法第二百七條ニ依リ一年ノ監視ニ付スルモノナリ

○第四百二十五十二號

判文(私書偽造)明治十六年八月十五日上告
同 十七年十一月廿九日發付

栃木縣下野國下都賀郡栃木大和

町平民

小林貞吉郎

明治十六年七月
二十五年十月

明治十六年七月二十日栃木輕罪裁判所宇都宮支廳ニ於テ右小林貞吉郎カ被告事件ヲ審判シ犯罪ノ證據充分ナラサルヲ以テ治罪法第二百五十八條ニ依リ無罪且ツ放免スト言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ原裁判所檢事鈴木忠告ハ上告ヲ爲シタリ其要領本案ノ起因ハ證人ナル矢口「タカ」カ娼妓營業中被告人ニ於テ自己ノ妻ト爲スノ約定ニテ身受ヲ爲シ其後「タカ」ノ實家戸主ナル矢口源七郎ニ對シ屢金錢ノ無心ヲ爲スモ之ヲ謝絶シタルニヨリ遂ニ源七郎ノ印影ヲ盜用シ前後百七拾圓ノ證書ヲ偽造シ之ヲ身受立替金ナリト稱シ源七郎ニ係リ詐取セントシタル者ニテ其源七郎ノ實印押捺シタル貳通ノ證書ハ共ニ成立ツヘキノ原因ナク又其證書ヲ被告人ニ交付ス可キ理由ナキハ各證人ノ陳述ニ依リ明瞭ナリ然ルチ原裁判官ハ是等ノ事實ヲ審糾セス漠然タル言渡シヲ爲シタルハ事實ノ理由ヲ明示セス及ヒ擬律ノ錯誤ナリ且ツ被告人ノ住所ハ下都賀郡齒部村ナルコトハ戸長ノ證明スル所ナレハ言渡書ニ栃木大和町トシタルハ事實ノ齟齬ナリ又矢口源七郎矢口「タカ」ハ法律上完全ナル證人ナルニ原裁判官ハ故ナク之ヲ採ラスシテ信憑ス可カラサル被告人並ニ橋田勝太郎ノ陳述ニ依リ處斷シタルハ越權ノ處分ナリト云フニ在リ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ
證據ヲ採擇シテ犯罪ノ有無ヲ判定スルハ法律ニ於テ裁判官ノ職權ニ任從シタル所ナレハ其

判定シタル事實ハ他ヨリ之ヲ左右スルコトヲ得サル者トス本案上告ノ論點ハ原裁判ハ事實ノ理由ヲ付セス及ヒ擬律ノ錯誤越權ノ處分アリト云フニ在ルモ其趣旨ノ歸スル所ハ裁判官ノ職權内ニ干涉シ證據ノ取捨事實ノ判定上ニ對シ其當否ヲ論難スルニ過キス而シテ原裁判言渡書ヲ閱スルニ本件ニ必要ナル事實ヲ掲載シ被告ハ犯罪ノ證據充分ナラサル理由ヲ明示シテ法律ノ正條ニ照シ無罪ヲ言渡シタル者ナレハ事實ノ不備擬律ノ錯誤又越權ノ處分アルコトナシ且ツ被告ノ住所ハ下都賀郡蘭部村ナルコト枋木大和町ト記載シタルハ事實ノ齟齬ナラズ公判始末書并ニ豫審調書中被告人カ答辯ニ枋木倭町トアルヲ以テ之ヲ記載シタル者ナレハ事實ノ齟齬ト爲ストヲ得ス依テ上告ノ趣旨ハ總テ相立タル者トス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本案上告ヲ棄却スル者ナリ

○第四百二十五十三號

判文(私書偽造) 明治十七年三月廿五日上告
同 年十一月廿九日發付

岡山縣備中國阿賀郡下皆部村平
民醫油小賣商

妹尾庄三郎

明治十七年三月

二十八年

右庄三郎カ被告事件ニ付明治十七年三月七日高梁治安裁判所ニ開キタル岡山縣輕罪裁判所ニ於テ被告ハ丸谷金造ノ依頼ヲ受ケ坂本秀二ヨリ三好清衛へ宛タル金圓返リ證書ノ偽造タル

情ヲ知リ認メ遣ハシタルモノト判定シ刑法第二百十條第二百十一條第二百十二條第九條及第二百十二條ニ依照シ重禁錮三月罰金五圓ニ處シ六月ノ監視ニ付スト言渡シタル裁判ヲ不法トナシ同裁判所檢察官警部田邊文藏ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告ニ於テ丸谷金造ノ依頼ヲ受ケ坂本秀二名義ナル金七拾五圓ノ返リ證書ノ偽造タル情ヲ知リ之ヲ認メタルモノナレハ刑法第四百四條ニ依リ皆正犯トナシ其刑ヲ科スヘキナリ然ルニ原裁判所ハ當時其情ヲ知リ認メタルモノト認メナカラ刑法第九條ヲ適用シ從犯ト論定セシハ是レ擬律ニ錯誤アル裁判ナリ而シテ一步ヲ讓リ從犯ト判定スルモ正犯金造ニ對シ重禁錮一年罰金拾圓ニ處シタレハ一等ヲ減シ即チ重禁錮九月罰金七圓五拾錢ニ處斷スヘキニ此ニ出テサルハ減等法ヲ誤リタル不法ノ裁判ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云フニアリ

對手人妹尾庄三郎ハ原裁判相當ナリト答辯セリ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ式ヲ履行シ立會檢事池上三郎ハ原判文上被告カ偽造ノ情ヲ知リ證書ヲ認メタルノ事實ヲ掲載セルモ偽造證書ヲ行使シタル情ヲ知ルヤ否ノ點ニ付事實ノ理由ヲ明示セサルハ違法ノ裁判ナルヲ以テ茲ニ附帶上告ヲ爲シ破毀ヲ要求セル旨ヲ陳述シタリ因テ審案スルニ私書偽造ノ罪ハ之ヲ偽造シ行使スルノ二要件ヲ以テ成立スルモノナリ故ニ單ニ偽造セルノミヨシテ之ヲ行使セサレハ刑法第二百十條ニ依リ處斷スルノ限リニアラス然ルニ原判文上被告ハ丸谷金造ノ頼ヲ受ケ坂本秀二ヨリ三好清衛へ宛テタル七拾五圓ノ返リ證書ハ金造ニ於テ依頼ノ際偽造ノ情ヲ申明セシ旨供述シ而シテ白紙ニ坂本秀二ノ印影押捺シアルヲ必付カサル等ナク且ツ金造ヨリ被告へ取リシ證書等ヲ以テ見レハ

當時情ヲ知テ認メ遣シタルニ外ナラサルモノト認定ストノミ揭載シ金造ニ於テ行使セシ情ヲ知リタルヤ否ノ理由ヲ明示セサルカ故ニ事實認定上ニ既ニ瑕瑾アリ未タ法律適用ノ當否ヲ鑑査スルニ由シナキ不法ノ裁判タルハ本院檢事附帶上告趣旨ノ如クナルヲ以テ他ノ論旨ニ對シテ別ニ辯明ヲ要セス直チニ治罪法第四百二十八條ニ則リ原裁判ノ全部ヲ破毀シ神戶輕罪裁判所姫路支廳ニ移シ更ニ審判セシムル者ナリ

○第四千二百五十四號

判文(私書偽造)明治十七年三月八日上告
同 年十一月廿九日發付

埼玉縣武藏國北足立郡糖田村六
十七番地平民

河野 惠助

明治十七年二月
三十二年七月

明治十七年二月二十二日浦和輕罪裁判所ニ於テ被告ハ其所有ノ林宅地ヲ書入ト爲シ鴻巢宿ナル埼玉銀行ヨリ金圓ヲ借用スルニ臨ミ河野文藏ノ氏名ヲ擅ニ證人ノ位置ニ記載シ其名下ニハ父藤次郎カ使用セシ印章ヲ押捺シタル證書ヲ偽造シ之ヲ銀行ニ交付セシモノト判定シ刑法第二百十條第八十九條第九十條及第二百十二條ニ依照シ重禁錮二月ニ處シ罰金拾五圓ヲ附加シ六月間監視ニ付スト言渡シタル裁判ヲ不法トナシ被告惠助ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ本件告訴者タル埼玉銀行ハ被告等ノ盡力ニテ成立セシモノナレハ其創立以來格別ノ親交ヲ爲シ居ルヲ以テ當時僅々ノ金圓ヲ借用スルニ際シ保證人又ハ抵當等ノ煩シキ手續ヲ要

スルニ及ハサル筈ナルモ一般ニ對スル同行ノ信用上ニ關シ外面ヲ粧フノ手段ト看做シ保證及抵當ヲ付シタル次第ナレハ保證者ノ引合セモナク雙方間保證者ヲ以テ必要的トセサルモノナルコト明白ナルニ該銀行カ自己ノ私利ヲ營ムニ汲々タルヨリ豫テノ情誼ヲ忘却シ非道ニモ當時ノ狀態ヲ掩蔽シ被告カ貸借上必要ノ保證者ヲ擅ニ記入シ證書ヲ偽造シタルモノ、如ク告訴セシニ職由シテ無罪ノ被告ニ刑ヲ言渡シタルハ不法ノ裁判ナリト云フニアリ對手人檢事補水郡長義ハ上告趣旨ノ理由ヲキチ駁シ原裁判不當ヲラスト答辯セリ
大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ
治罪法第四百四十六條第二項被告人ノ白狀官吏ノ檢證調書證據物件證人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアリテ本件上告趣旨ハ原裁判官カ前條ノ規定ニ從ヒ職權ヲ以テ爲シタル事實判定上ノ當否ヲ非難シ不服ヲ訴フルニ過キヌシテ治罪法第四百十條中ニ適合スルノ原由ナキモノトス因テ同第四百二十七條ニ則リ本案上告ハ之ヲ棄却スル者ナリ

○第四千二百五十五號

判文(證書偽造)明治十六年十月十五日上告
同 十七年十一月廿九日發付

秋田縣羽後國南秋田郡鍛冶町上
川端士族醫業

石田 三隆

明治十六年九月
三十八年七月
八一九

明治十六年九月二十二日秋田輕罪裁判所會議局ニ於テ右石田三隆カ被告事件豫審終結ノ言渡シニ對スル檢察官ノ故障申立ヲ判決シ豫審掛ニ於テ田中知安ト共謀シ證書ヲ偽造行使シ未タ遂ケサルモノトノ認定ハ不當ニアラスシテ刑法第二百十條第一項仍ホ同第二百十一條同第一百十二條ニ照シ處斷スヘキ輕罪ヲ犯シタルモノナリ然ルニ豫審掛カ同第二百十條第二項ニ該ルモノトナシタルハ擬律ノ錯誤ナレハ治罪法第二百五十二條ニ從ヒ此一部ヲ取消シ更ニ秋田輕罪裁判所ニ移スト言渡シタルチ不當ナリトシ被告石田三隆ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ田中知安カ言ヲ信シ診斷書ヲ與フト雖モ診察上不都合ノ者ハ書直シ氏名等記入セハ不都合ノ生スル場合ナシト心得毫モ罪ヲ犯スノ意思ナキトハ嚮キニ檢事補上倉繁藏ノ故障申立ニ被告カ意中ヲ看破シテ間然スルナシ然ルニ豫審掛及會議局ハ知安カ依頼ニ應シ虛無ノ診斷書ヲ造リ氏名等ハ自由ニ記入セシムル爲メ故ラニ記入セサルモノナリトノ判斷ハ臆定モ亦甚ダシ何ントナレハ知安カ陳述ハ終始間ニ合ノ詐言ニシテ一モ信憑スルニ足ラス果シテ虛無ノ診斷書ヲ作り後チ氏名ヲ記入セシムル程ノコナレハ出發前ニ要スルモノニアラス又途中發病ノ豫備トナサハ縣廳下ニ住スル者ノ診斷書ヲ以テ何ソ途中ノ用ヲ爲スヘキヤ強テ辯論ヲ用ヒス判然タリ假ニ右認定ノ如クモ刑法第四章第五節ニ免狀鑑札及疾病證書ヲ偽造スル罪トアレハ其第四節私印私書ヲ偽造スル罪ノ部内ニ含蓄セサルヤ明カナリ又其五節ニモ被告カ所爲ヲ罰スル正條ナケレハ刑法第二條ニ依リ無罪ナルチ會議局ハ刑法第二百十條第一項ニ當ルモノナリトシ秋田輕罪裁判所ニ移ストノ判決ハ服從スル能ハス依テ右判決ヲ取消シ公明ノ裁決ヲ仰クト云フニアリ

同裁判所檢事補上倉繁藏ハ被告石田三隆カ罪ヲ犯ス意ナキ所爲ナリト云フニ至テハ意見チ同シシ其診斷書ニ題シタル文書ハ診斷書ノ効力チ有セサルノミナラス田中知安カ申立ハ前後矛盾ノ陳辯ニシテ自由ニ氏名ノ記入ヲ豫期シタル證據ナキモノナレハ刑法上罰スヘキモノニアラスト答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽クニ原判文ニ田中知安カ依頼ニ應シ疾病證書ヲ偽造交付シタルモ同人カ詐欺取財ノ用ニ供スル情チ知リタルヤ否明確ナラス若シ其情チ知ラサルモノトセハ害チ人ニ加フルノ意思ナキ所爲ニシテ無罪ニ歸スヘキモ此事實明瞭ナラサルニ依リ原判ノ正非ヲ檢審スルニ由ナキモノナレハ附帶上告ヲ爲シ原判決ノ破毀ヲ求ムト陳述セリ依テ判決ヲ爲ス左ノ如シ

原判文ヲ閱スルニ被告人ハ(田中知安カ徵兵補原文治外十二名チ仙臺鎮臺へ入營ノ爲メ引卒ノ際同人ノ依頼ニ因リ實際診察チナサスシテ患者ノ氏名ヲ記載セサル診斷書七葉ヲ造リ以テ同人ニ相渡シ云々此偽造ノ診斷書ヲ以テ乗車セシメタル事由ノ證據トナシタル事實ナリトアリテ田中知安ノ依頼ニ應シ疾病證書ヲ作爲シタル事實ハ明瞭ナルモ知安カ詐欺取財ノ用ニ供スルノ情チ知テ交付シタルモノナルヤ否其罪ノ構造スヘキ理由ヲ明示セサルハ附帶上告趣旨ノ如ク原判決ノ當否ヲ鑑査スルニ由シナク即チ治罪法第二百二十八條ニ違背シ事實ノ理由ヲ付セサル不法ノ言渡シナリトス既ニ此點ヲ以テ破毀ノ原由アリト認メタルニ因リ被告人カ上告趣旨ニ付其當否ノ辯明ヲ要セス

右ノ理由ナルチ以テ治罪法第四百二十八條ニ依リ原判決言渡シノ全部ヲ破毀シ適法ノ判決

ヲ受ケシメン爲メ山形輕罪裁判所酒田支廳會議局へ移スモノ也

○第四千二百五十六號

判文(證書變造)明治十六年十月三日上告
同 十七年十一月廿九日發付

長崎縣南高來郡杉谷村百九十六
番戶平民農

森崎 孫 八

明治十六年九月
六十年生月不知

右孫八カ被告事件ニ付明治十六年九月十日島原治安裁判所ニ開キタル長崎輕罪裁判所ニ於テ被告ハ金百拾圓ノ請取證書ヲ貳百拾圓ト變換シ之ヲ行使シタルモノトシ刑法第二百十條第二百十二條ニ依リ一年ノ重禁錮ニ處シ拾圓ノ罰金ヲ附加シ六月ノ監視ニ付スト言渡シタル裁判ニ對シ同裁判所檢察官警部代理巡查富田昌夫カ上告シタル要旨ハ被告孫八カ明治十三年十二月中金百拾圓ヲ拂入レタル節債主宮崎平太郎養子政太郎ノ記名ニテ其金員請取證書ヲ被告孫八ニ交付シタルヲ領收シタル後其證書ニ金百拾圓也ト認メアル百ノ字ヲ貳百ト變造シ以テ金百圓ノ返金ヲ拒ミタルハ詐欺取財未遂犯ノ所爲ナリト云フヘシ然ルニ原裁判所カ被告ニ對シ刑法第二百十條第二百十二條ノミヲ適用シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニ在リ

對手人被告孫八ハ右上告ニ對シ答辯ヲ爲サス

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ審理判決スル左ノ如シ

原裁判言渡書ヲ見ルニ(宮崎平太郎ヨリ金二百圓ヲ借用シ明治十二年三月中金百拾圓ヲ宮崎平太郎妻「ヨシ」并ニ其弟宮崎千代五郎へ内金トシテ相渡シ即時千代五郎ヨリ平太郎カ養子宮崎政太郎記名ノ請取證書ヲ領收シタリ其後數殘金返辦ノ督促ヲ受ケタル未義務ヲ免レシ爲メ云々義ニ領收セシ請取證書ニ一金百拾圓也トアル百ノ字ノ成片ヲ補換シ其上ニ一ノ字ヲ欲シ貳百圓ト變造シ以テ宮崎平太郎ニ示シ返金ヲ拒ミ云々)トアルニ依レハ被告ニ於テ債主ニ對シ其借用金二百圓ノ内百圓ノ返済義務ヲ免レント欲シタルハ即チ其金ヲ騙取セントシタル事實ナルヲ明白ナルニ原裁判官ハ當ニ證書變造ノ一罪ニ依リ詐欺取財未遂ノ罪ヲ問ハサルハ上告論旨ノ如ク失當ノ裁判ナルヲ以テ破毀ノ原由アルモノトス因テ治罪法第四百二十九條ニ照シ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ裁判スル左ノ如シ

森崎 孫 八

右ハ原裁判所カ認定シタル事實ニ依リ詐欺取財未遂ノ罪ハ刑法第三百九十條第三百九十七條第三百十二條ニ依リ本刑ニ一等ヲ減シ仍ホ第三百九十四條ニ該當シ證書ヲ變換行使シタルハ同第三百九十條第二項及ヒ第二百十條第一項第三百十二條ニ該當スルヲ以テ犯狀重キ證書變換行使ノ罪ニ從ヒ一年ノ重禁錮ニ處シ拾圓ノ罰金ヲ附加シ六月ノ監視ニ付スルモノ也

但變造ニ係ル證書ハ刑法第四十三條ニ照シ沒收ス

○第四千二百五十七號

判文(證書變更)明治十六年十月十一日上告
同 十七年十一月二十九日發付

滋賀縣近江國坂田郡長濱郡上町
平民豆腐商

土田 太一郎

明治十六年九月
三十八年四月

右太一郎カ被告事件ニ付明治十六年九月十三日大津輕罪裁判所彦根支廳ニ於テ被告ハ證書
ヲ變換シテ行使シ其證書ヲ以テ金四拾圓ヲ騙取セントシタルモノトシ刑法第二百十條第一
項第二百十二條及ヒ第三百九十條第一項第三百九十四條第百十二條第七十條ニ照シ第三百
九十條ノ刑ニ一等ヲ減シ右二罪ハ第三百九十條第二項ニ照シ一ノ重キ權利義務ニ關スル證
書ヲ變換シタル罪ニ從ヒ重禁錮六月ニ處シ罰金拾圓ヲ附加シ監視八月ニ附スト裁判言渡シ
タリ被告太一郎ハ右裁判ヲ不當ナリトシ上告ノ要旨ハ該證書ニ來ル廿二日ノ五字及ヒ約ノ
一字ヲ記載シタルハ被告ニ非ラスシテ中川佐次兵衛ニ於テ之ヲ記載シタル者ナリ而シテ其墨
色ノ異ナル所ハ最初被告カ該約定證ヲ領收シ歸宅ノ上之ヲ熟視セシニ四拾圓正ニ渡スト單
ニ記載シタルヲ以テ是ニテハ當時其金已ニ受取タル體ニ相見ヘ不都合ナルニ付同人ヘ引合
ヒ來ル廿二日ノ五字ト約ノ一字ヲ追加致サセタルニ依リ自テ其墨色ノ異狀顯ハレタルモノ
ニシテ其筆勢毫モ本文ノ字體ト異ナルヲナシ然ルニ原裁判所ハ夫レ等ノ事實ヲ審理セス且
ツ本件ノ證人ト認ル森島清茂外一名ヲ喚問セスシテ無罪ナル被告太一郎ヲ證書變換行使及
ヒ詐欺取財未遂犯ナリト判定セラレタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在リ
原檢察官檢事補吉川雅都ハ被告上告ハ不當ニシテ其理由ナキ旨ヲ答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

本案上告趣旨ノ歸スル所ハ原裁判ノ採證方ト事實判定ニ對シ其當否ヲ非難シテ有罪無罪ノ
事實ヲ爭フニ過キス抑諸般ノ證憑ニ依リ事實ヲ判定スルハ原裁判官ノ特權ナルハ治罪法第
百四十六條第二項ニ明晰タレハ其認メタル事實ニ於テハ他ヨリ之ヲ動カシ得可ラサルモノ
トス又本件ノ證人ト認ル森島清茂外一名ヲ喚問セラレサリシハ不當ナリト云フト雖モ之ヲ
喚問スルト否トハ是亦裁判官ノ權限内ニ在ルノミナラス公判始末書ヲ閱スルニ證人ヲ指名
シテ請求シタルニモアラサレハ原裁判官カ之ヲ喚問セサルヲ以テ不法ナリト云フヲ得ス
右ノ如ク本件ハ治罪法第四百十條外ニ涉ル上告ナルヲ以テ同法第四百二十七條ニ依リ之ヲ
棄却スルモノナリ

○第四百二十五十八號

判文(偽證教唆) 明治十六年四月十六日上告
同 十七年十一月廿九日發付

大坂府西區江戸堀下通三丁目十

一番地平民米酒商

津 高 鹿 藏

明治十五年十月
三十五年

京都府丹後國與謝郡宮津本町平

民當時兵庫縣神戸區相生町寄留

代 言 人

品川政藏

明治十五年十月

大坂府攝津國島上郡服部村平民

農

岡山嘉三郎

明治十五年十月

同府同國同郡同村平民米商

入江元次郎

明治十五年十月

同府東區安土町四丁目平民無業

増井彌七

明治十五年十月

同府攝津國西成郡傳法村平民無

雀部藤次郎

明治十五年十月

同府攝津國西成郡傳法村平民無

定職

右鹿藏外五名カ被告事件ニ付明治十五年十月二十三日大坂輕罪裁判所ニ於テ審理ノ未被告鹿藏ハ委託ヲ受ケタル金額ヲ拐帶シタル者ト判定シ刑法第三百九十五條ニ依リ詐欺取財ヲ

以テ論シ同第三百九十四條ニ照シ二年ノ重禁錮ニ處シ貳拾圓ノ罰金ヲ附加シ一年ノ監視ニ付ス民事原告岡山嘉三郎ニ於テ鹿藏ニ拐帶セラレ現ニ差押ヘアル千五百圓ノ返還ヲ請求スト雖モ右金員ニ就テハ既ニ鹿藏ノ親族ヨリ證書ヲ受取り私和シタル者ナルヲ以テ右金額ノ返還ヲ要求スル訴權ナキ者トス但差押ヘアル千五百圓ハ鹿藏ニ下ケ戻ス被告政藏ハ鹿藏ノ辯護人トナリ鹿藏ノ拐帶罪ヲ曲庇スル爲メ岡山嘉三郎入江元次郎ニ偽證ス可キ旨教唆シ偽證セシメシ者ト判定シ刑法第二百五條同第二百十八條第二ニ依リ十月ノ重禁錮ニ處シ拾五圓ノ罰金ヲ附加シ仍ホ代言人タルヲ以テ代言人規則第二十四條第二十三條ニ照シ除名ス被告嘉三郎元次郎ハ政藏ノ教唆ニ從ヒ鹿藏ノ犯罪ヲ曲庇スル爲メ偽記シタル者ト判定シ刑法第二百十八條第二ニ依リ各重禁錮三月ニ處シ六圓ノ罰金ヲ附加シ被告彌七ハ鹿藏ノ犯罪ヲ曲庇スル爲メ眞實ナル事ヲ掩蔽シタル者ト判定シ同第二百十八條第二ニ依リ重禁錮三月ニ處シ六圓ノ罰金ヲ附加シ被告藤次郎ハ政藏カ鹿藏ヲ曲庇スル爲メ嘉三郎元次郎ヲ教唆シテ偽證ヲ爲サシムル情ヲ知り其用ニ供ス可キ書翰ヲ筆記シタリ因テ彌七ハ該書面ヲ裁判所ヘ呈供スルヲ得タル者ト判定シ刑法第九條同第二百十八條第二ニ依リ一等ヲ減シ一月二十日ノ重禁錮ニ處シ三圓ノ罰金ヲ附加スト言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ被告本人等ハ各上告ヲ爲シタリ被告鹿藏カ上告ノ要領ハ被告カ濱谷茂兵衛ヨリ受取タル金千五百圓ハ岡山嘉三郎ヨリ借用セシモノナリ然ルニ嘉三郎ハ被告ヲ拐帶犯ナリト告訴セシハ全ク誣告ナルニ輒スク之レヲ信用シ刑ヲ言渡サレシハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云ヒ仍ホ明細書答辯書辯駁書追伸書ヲ以テ前意ヲ擴張シ而シテ證據トスルニ足ラサル嘉三郎ノ告訴狀茂

兵衛ヨリ元次郎ニ渡シタル證明書元次郎ヨリ茂兵衛ニ宛タル書翰被告ヨリ本田徳三郎入江元次郎等へ郵送シタル書翰等ヲ探テ有罪ナリト認メラレシハ探證ノ法ヲ誤リ且ツ擬律錯誤ナリト云フニ在リ

被告政藏カ上告ノ要旨ハ第一津高鹿藏カ拐帶ノ罪確定シタル上ニアラサレハ附帶ナル偽證罪ノ成立スヘキ者ニ非ラズ然ルニ其主タル罪未ダ確定セサルニ被告ヲ偽證教唆ノ罪アリト裁判セラレシハ越權ノ處分且ツ擬律ノ錯誤ナリトノ事第二ハ民事原告人岡山嘉三郎同人ノ告訴代人タル入江元次郎砂田三右衛門雀部藤次郎山川吾作等ノ陳述ハ信スルニ足ラサルノミナラス同ク誣告ニ屬スル陳述ヲ偏信シ輒スク有罪ナリト認メラレシハ探證ノ法ヲ誤リ所謂擬律ノ錯誤ナリトノ事第三ハ民事原告人嘉三郎同人ノ雇人元次郎藤次郎ヲ證人トシタルハ治罪法第八十一條第四項ニ背キシヲ以テ其證言ハ効力ナキモノナリトノ事第四ハ被告ハ鹿藏ノ拐帶罪ヲ曲庇スル爲メ嘉三郎等ニ偽證スヘキ旨教唆セシニアラサルコトハ事實ニ據ルモ衆證ニ徴スルモ明カナルニ原裁判官カ被告事件ノ模様ニヨリ推測シタルハ越權ノ處分ナリトノ事第五ハ豫審掛リニ於テ民事原告人ノ雇人入江元次郎ノ雇ヲ受ケテ來リシ山川吾作ヲ證人トナシタルハ越權ナルノミナラス其證言ヲ探テ裁判シタルハ擬律ノ錯誤且ツ探證ノ方ヲ誤リタル裁判ナリトノ事第六ハ嘉三郎元次郎ハ誣告ノ罪ニ處スヘキモノナルニ却テ嘉三郎等ノ陳述ヲ信シ被告ヲ有罪ナリトセラレシハ擬律ノ錯誤ナリトノ事第七ハ山川吾作カ豫審中上告人ト對質ノ際品川氏ハ金ヲ渡シテ願下ケタルハ差支ナキコト付其旨元次郎ニ説諭致シ吳レト品川カ依頼セリト申述シタルト證言セシモ上告人ハ如斯言チ云ヒタルコトナシ

假リニ之レヲ開陳シタルトスルモ人民自由ノ權内ニシテ刑法ニ之レヲ罰スル正條ナシ況ンヤ罪ヲ犯スノ意ナキニ於テチヤ依テ無罪ナルニ推測ヲ以テ有罪ナリト認メラレシハ不法ナリトノ事第八ハ嘉三郎元次郎カ不實ノ陳述ヲナシタルモ偽證ニアラサルノミナラス其不實ノ陳述ヲ被告カ教唆セシコトアラサルハ鹿藏外三人等ノ陳述ニ徴シテ明カナリトノ事第九ハ證人ト爲ル已前ニ偽證ノ事ヲ依頼セシモ依頼ヲ受ケシ者證人ト爲ル時正實ノ事ヲ陳述スヘキ筈ナルニ之レヲ枉ケテ陳述シタル時ハ依頼人カ關知スルコトニ非ラズトノ事第十ハ依頼ト教唆トハ差異アリ故ニ依頼シタルモノハ無罪ナリトノ事第十一ハ嘉三郎元次郎等ノ偽證ハ眞ニ被告ノ教唆ニ依テ成立タルモノト假定スルモ被告ハ法律ヲ犯シタル者ニ非ラス何トナレハ其教唆ハ嘉三郎等カ證人ノ資格ヲ有セサル已前ニ係レハナリトノ事第十二ハ辯論終結後二十日間餘ニ至リ裁判言渡サレシハ治罪法第二百六十八條第三百十四條ノ定則ニ背キシ越權ノ裁判ナリトノ事第十三ハ被告ハ偽證ノ教唆ヲナシタルコト之レナキニ明治十三年司法省甲第一號達代人規則ニ依リ代人ヲ除名セラレシハ越權ナルノミナラス代人規則ニ依テノ處分ハ裁判確定ノ後ニ執行スヘキモノニシテ俱ニ裁判スヘキモノニ非ラズト云ヒ仍ホ辯明書ヲ以テ前意ヲ擴張シ而シテ告訴ナル者ハ被害者ノナスヘキモノナリ然ラハ嘉三郎元次郎カ被害者トナルカ又ハ茂兵衛カ被害者トナルカ茂兵衛ヲ審糺セス裁判セシハ越權ナリ又告訴狀及ヒ茂兵衛カ元次郎ニ渡シタル書面ヲ證憑トセラレシハ審理不盡越權ノ處分ナリ又嘉三郎元次郎ノ陳述ハ符合セサルニ之レヲ探テ證憑トセラレシハ理由ト事實ノ齟齬ナリト云フニ在リ

被告嘉三郎カ上告ノ要旨ハ第一品川政藏ノ教唆ニ依リ津高鹿藏拐帶被告事件ノ證人トシテ不實ノ陳述セシト雖モ其事件ニ關係ナキ不實ノ陳述ニ付偽證ノ効力ナキヲ以テ無罪ナルニ刑ヲ言渡サレシハ擬律ノ錯誤ナリトノ事第二ハ假リニ被告ハ鹿藏ノ罪ヲ曲庇セシモノトスルモ本案被告鹿藏カ拐帶事件裁判確定セシ後ニ非ラサレハ偽證罪ハ成立セサルニ鹿藏ノ拐帶罪ト同時ニ裁判セラレシハ越權ナリトノ事第三ハ被告ハ證書ヲ受取り私和セシニ相違ナシト雖モ原裁判所ニ差押ヘアル千五百圓ハ鹿藏ノ拐帶セシ金額ニシテ即チ贓金ナルカ以テ刑法第四十八條ニ若シ贓物犯人ノ手ニ在ル時ハ請求ナシト雖モ直チニ之レヲ被害者ニ還付ストアルニ依リ該金ハ被害者タル嘉三郎ニ還付スヘキモノナルニ原裁判爰ニ出テ私和シタルモノナルヲ以テ嘉三郎ハ右金額ノ返還ヲ要求スル訴權ナキモノトシ鹿藏ニ還付ノ言渡シヲセラレシハ擬律ノ錯誤ナリト云ヒ仍ホ辯明書ヲ以テ前意ヲ擴張セリ

被告元次郎カ上告ノ要旨ハ鹿藏カ拐帶事件ニ付政藏ノ教唆ニ從ヒ偽證ノ陳述セシトテ雇主嘉三郎ニ於テ之ヲ承諾セシニ付雇人即チ被告元次郎ハ之ニ背戾スルト能ハス公廷ニ於テ偽證ノ陳述ヲ爲シ其後又政藏ノ教示ニ依テ偽造セシ信書ヲ呈シタルモノナレハ嘉三郎ヨリハ二等ノ輕減ヲ與ヘタルヘキモノナルニ嘉三郎ハ同一ノ刑ニ處セラレシハ不法ノ裁判ナリト云フニ在リ

被告彌七カ上告ノ要旨ハ鹿藏カ拐帶事件ニ付原裁判所へ被告ヲ證人トシテ召喚セラレ鹿藏カ嘉三郎ノ代人トシテ濱谷茂兵衛へ持參セシ書面ヲ呈スヘキ命ヲ受ケシニ之ヲ呈セス他ノ偽造書面ヲ呈セシモ鹿藏ノ被告事件ヲ曲庇スル爲メ調製セシモノニ非ラサルヲ以テ罪トナル可キ事實ニアラス然ルニ嘉三郎等ノ陳述ヲ偏信シ輒スル有罪ナリト認定セラレシハ擬律ノ錯誤ナリト云ヒ仍ホ追申書ヲ以テ假令鹿藏ノ犯罪ヲ曲庇スル爲メニ調製セシモノトスルモ己ニ自首セシヲ以テ其罪ヲ免スヘキモノナリト云ヒ且ツ辯駁書ヲ以テ前意ヲ擴張セリ

被告藤次郎カ上告ノ要旨ハ第一被告カ公廷ニ持參セシ書翰ハ被告カ代筆セシモ偽證ノ要具ト爲ルヘキモノニ非ラス又其要具ニ供スヘキ情ヲ知リタルニ非ラサレハ其書翰カ後日如何ナル結果ヲ生スルモ被告ノ關知スル所ニアラサルノミナラス不實ノ書面ヲ代筆セリトノ自供アルモ政藏等カ證人ナルヲ識別シ代筆セシコアラサレハ罪トナルヘキ事實ニアラス然ルニ其自供ヲ以テ元次郎等カ鹿藏ノ拐帶事件ヲ曲庇スル情ヲ知テ書翰ヲ改造セシ證據トセラレシハ臆斷ヲ免カレストノ事第二ハ原裁判所ハ被告ノ不利益ナル部分ノミヲ採テ利益トナル證據ヲ採ラサルハ不當ナリトノ事第三ハ原判文ヲ熟考スルニ事實ノ理由ヲ明示セサルハ不法ナリト云フニ在リ

對手人檢事補戸田荒太郎ハ原裁判相當ニシテ上告ノ理無キ旨ヲ答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ被告品川政藏ノ代言人高橋一勝ノ陳辯立會檢事安藤源五郎ノ意見ヲ聽キ審理判決スルヲ左ノ如シ

被告政藏カ第一上告ノ論點ハ鹿藏カ拐帶ノ罪確定シタル上ニ非ラサレハ偽證罪ノ成立スヘキモノニアラス然ルニ其主タル罪未ダ確定セサルニ被告ヲ偽證教唆ノ罪アリト裁判セラレタルハ不法ナリト云フニ在レハ附帶ノ罪トハ多少相關係セル二個以上ノ罪ヲ謂フモノニシテ即チ治罪法第三十九條ニ掲載シテ明瞭ナリ然ルニ本件被告事件ノ偽證罪ノ如キハ證人ト

シテ出廷シ不實ノ事ヲ陳述シテ成立チタルモノナレハ全ク別ニ一罪ヲ組成セシモノニシテ
 毫モ本罪即チ拐帶罪ト牽連シタルモノニ非ラサレハ原裁判所ニ於テ本件ノ確定ヲ待タズ同
 時ニ裁判シタルハ固ヨリ當然ナリトス第三論點ニ付一件書類ヲ閱スルニ岡山嘉三郎代人砂
 田三右衛門ヨリ明治十五年三月七日附テ一旦私訴ヲ爲シタルモ明治十五年四月二十日
 右嘉三郎代人砂田三右衛門及ヒ伊高覺兵衛外數人連署ヲ以テ告訴願下ヲ爲シタリ其文中ニ
 (上)右鹿藏至親并ニ親族者共種々和濟ノ示談ヲ以テ該委託金壹千五百圓ヲ確證ニシテ辨償ニ
 及ヒ然リ而シテ本件ニ對シテ雙方共無異議就テハ此上再告訴ハ不申及告發ハ勿論且ツ控訴
 上告等決ノ致間敷候云々ト有リ然レハ則治罪法第十條ニ依リ私訴ハ消滅シタル者ナレハ
 明治十五年六月十五日原裁判所ニ於テ嘉三郎等ヲ證人ト爲シタルハ治罪法第百八十一條第
 四項ニ背戾シタル者ニ非ラサルナリ第五ノ論點ニ付豫審調書ヲ查スルニ山川吾作ヲ證人ト
 爲シタルハ明治十五年七月十日ナルヲ以テ前ニ辯明ノ如ク當時嘉三郎ハ民事原告人ニアラ
 サルニ付豫審ニ於テ吾作ヲ證人ト爲シ及ヒ公判ニ於テ其證言ヲ採リ裁判シタルハ毫モ不當
 ニ非ラサルナリ第九ノ論點ニ付一件書類ヲ閱スルニ被告政藏ハ鹿藏ノ辯護人トナリ明治十
 五年六月九日原裁判所公廷ニ於テ岡山嘉三郎入江元次郎等ヲ證人トシテ喚問ス可キヲ請求
 シ置キ明治十五年六月十五日靜觀樓ニ於テ右鹿藏ノ拐帶罪ヲ曲庇スル爲メ嘉三郎元次郎ニ
 偽證ス可キ旨教唆シタル跡ヨリ而シテ嘉三郎元次郎ハ果シテ明治十五年六月十五日十六日
 公廷ニ於テ偽證セシモノナレハ原裁判官ニ於テ嘉三郎元次郎ノ偽證タル全ク被告カ教唆ニ
 根シタルモノト認メ被告ヲ以テ教唆ノ罪ニ問ヒタルハ相當ニシテ毫モ間然スヘキ所ナシ右

説明ノ如クナルヲ以テ第十第十一ノ論點ニ就テハ別ニ辯明ヲ要セス第十二ハ辯論終結後二
 十日間餘ニ至リ裁判言渡サレシハ治罪法第二百六十八條第三十四條ノ定則ニ背キテ越權
 ナリト云フニ在レハ治罪法第二百六十八條ハ其趣旨ニ絶テ關係アラサルヲ以テ法律ノ誤解
 ニ出テタルモノト云ハサルヲ得ス同第三十四條ハ裁判言渡シハ辯論ヲ終リタル後公廷ニ
 於テ即時ニ之ヲ爲シ又ハ次日ニ之ヲ爲ス可シトアリテ次日トハ必スシモ其翌日ト云フノ旨
 意ニアラサルヲ以テ二十日餘ニ至リ裁判言渡シヲ爲スモ不當ニ非ラサルナリ第十三ノ論點
 ハ代言人規則懲罰ノ言渡シニ對シ不服ヲ訴フルニ過キサルモ其懲罰ニ對シテハ上告ヲ爲シ
 得ヘキモノニ非ラストス

被告嘉三郎カ第二ノ論點ハ政藏カ第一ノ論點ニ付説明セシ如クナルヲ以テ再ヒ辯明ヲ與フ
 ルヲ要セス第三ノ論點ハ原裁判所ニ於テ私訴金額百圓以上ノ裁判ニ對シ其當否ヲ非難スル
 モ右ハ始審ノ裁判ナルヲ以テ控訴ヲ爲シタル上ニアラサレハ直チニ上告ヲ爲シ得ヘキモノ
 ニ非ラサルナリ

被告元次郎カ上告ノ理由トスル所ハ要スルニ酌量減輕ヲ與ヘタルヘキモノナルニ之レヲ與
 ヘラレサルハ不法ナリト云フニアレハ酌量減輕ヲ與フルヤ否ヤハ事實裁判官ノ特有ナル職
 權ナルニ付之レヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

被告彌七ハ追申書ヲ以テ假リニ鹿藏ノ犯罪ヲ曲庇スル爲メ偽造書面ヲ調製セシモノトスル
 モ已ニ自首セシヲ以テ其罪ヲ免スヘキモノナリト云フニアレハ事未タ發覺セサル前ニ自首
 セシトハ絶テ證據ノ徵スヘキ無ク口頭ノ陳述ニ止マルヲ以テ採用スルニ由シ無キ者トス

被告藤次郎カ第三ノ論點ニ付原判文ヲ閱スルニ事實ノ理由ハ明示シアリテ毫モ瑕瑾ノ廉アルヲ親ス其他被告等カ上告ノ理由トスル所ハ徒ラニ事實ノ有無及ヒ採證ノ當否ヲ論難シテ覆審ヲ求ムルニ過キサレハ之レヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス何トナレハ諸般ノ證據ヲ採擇シテ事實ノ有無ヲ判定スルハ法律ニ於テ裁判官ニ任從シタル所ナレハナリ因テ本案上告ノ趣旨ハ總テ相立タサル者トス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ハ棄却スル者也
○第四百二十五十九號

判文〔私印私書偽造及詐欺取財〕明治十六年十月八日上告
十七年十一月廿九日發付
山梨縣東山梨郡諏訪村平民

相澤利八

明治十六年九月十日甲府輕罪裁判所ニ於テ右相澤利八カ私印私書偽造及ヒ詐欺取財被告事件ヲ審理シ刑法第二百八條同第二百十條同第二百十二條同第二百九十四條同第二百九十四條ヲ適用シ未遂犯ニ係ルヲ以テ同第二百九十七條ニ依リ數罪併發スルニ因リ同第二百十條ニ該ル罪ヲ以テ情狀最重ト爲シ十月ノ重禁錮ニ處シ十月ノ監視ニ付スト言渡シタル裁判ニ對シ原裁判所檢事補澁谷孝世カ上告シタルノ要領本件ハ私印私書偽造詐欺取財三個ノ犯罪ニシテ其情狀最重キ刑法第二百十條第二百十二條ニ依リ處斷セラレタルモノナレハ乃チ罰金ヲ附加スヘキニ單ニ重禁錮ニ處シタルハ擬律ヲ錯誤シタル失當ノ裁判ナレハ破毀シテ適

法ノ裁判アラソク求ムト云フニ在リ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルニ刑法第二百八條同第二百十條同第二百九十條ハ皆附加ノ罰金ヲ設ケアレハ該條ニ依テ處分スヘキ者ハ宜シク罰金ヲ附加スヘキモノナルハ論ヲ俟タサルナリ本案私印私書偽造詐欺取財ノ數罪中情狀最重キ私書偽造ノ罪ヲ以テ論シ刑法第二百十條同第二百十二條ヲ適用シ十月ノ重禁錮ニ處シ十月ノ監視ニ付シタルハ相當ナリト雖モ其罰金ヲ附加セザリシハ則チ上告趣旨ノ如ク錯誤ニ出テタル不法ノ裁判ナリトス
右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百三十一條ノ成規ニ從ヒ原裁判言渡中罰金ヲ附加セザリシ一部ヲ更正シ本院ニ於テ直チニ裁判言渡シヲ爲スノ左ノ如シ

相澤利八

前ニ辯明スル如クナルニ因リ刑法第二百十條ニ依リ五圓ノ罰金ヲ附加スルモノナリ
○第四百二十六號

判文〔度量衡規則犯〕明治十六年九月廿日上告
十七年十一月廿九日發付

廣島縣安藝國廣島區大分町平民
薪炭雜穀商

永井善助

明治十六年八月
五十年七月
右善助カ不定規ノ度量衡ヲ所持シタルノ被告事件ニ付明治十六年八月七日廣島輕罪裁判所

ニ於テ審理ノ末刑法第五條ニ基キ明治九年第十七號公布度量衡改定規則第四條第六條及明治十四年第七十二號公布第四條ニ依リ其品取上ケ罰金拾圓ニ處スト言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ檢察官兒玉利明ハ上告ヲ爲シタリ其要領第一ハ原裁判言渡書中ニ木村市郎右衛門カ定規ニ増減アリトノ鑑定ヲ爲シタル鑑定書ヲ掲ケテ原裁判官モ被告人カ懸紐ヲ變造シ定規ヲ増減シタルノ衡ヲ所有シタルノ事實ヲ認メタルヤ明カナルニ刑法第二百二十九條第一項ニ依ラスシテ前掲ノ如ク處斷シタルハ擬律錯誤ナリトノ事第二其言渡書ニ明カニ増減アルコトヲ掲ケサレハ増減アリト判定セシヤ否ナチ知リ難キモノトセハ是治罪法第三百四條ノ規定ニ背キ事實及ヒ法律ニ依リ其理由ヲ付セサルモノナリト云フニ在リ

對手人被告善助ハ之ニ答辯セズ
 大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルニ抑モ商賈農工タル者ハ定規ヲ増減シタル度量衡ヲ所持スルコトヲ得サル者ナレハ若シ之ニ違背スルニ於テハ上告論旨ノ如ク刑法第二百二十九條ノ制裁ヲ受クヘキハ論ヲ竣タス今原書類ヲ閱スルニ本案公訴ノ趣旨ハ不定規ノ權衡ヲ所持シタリトノ事件タルヤ明瞭ナル而已ナラス原判文ニ徵スルモ不定ノ衡ヲ所持シタル事件ノ公訴ヲ受ケ審問ヲ遂ル所トアルヲ以テ觀レハ承審官ニ於テモ該事件ノ公訴タルコトヲ詳悉シテ審判セシハ亦瞭然タリ而シテ該判文ノ事實判定ニ至リテハ被告人カ明治十六年三月中云々商業上ニ用ユル所ノ秤一挺其緒紐ノ切レタルヨリ擅ニ之ニ付替ヘ居タルコトハ云々證據明白ナリト單ニ緒紐ヲ擅マ、ニ付替タルコト而已ナ論定シテ定規増減ノ權衡ヲ所持シタル事項ニ至テハ毫モ事實ノ有無如何ヲ掲ケス此判決ヲ與ヘサ

ルハ即チ治罪法第四百十條第七項ニ所謂請求ヲ受ケタル事件ニ付キ裁判ヲ爲サ、ルモノニシテ此レ即チ違法ノ裁判ナリト判定ス
 右ノ理由ナルヲ以テ先ツ該事件ノ判定ヲ爲サ、ルニ於テハ未ダ擬律ノ適否ニ論及スルコト能ハス因テ治罪法第四百二十八條ノ成法ニ則リ原裁判言渡シノ全部ヲ破毀シ岡山輕罪裁判所ニ移シ更ニ審判セシムルモノ也

○第四百二十六十一號

判文(氏名詐稱)明治十七年三月廿二日上告
 同 年十一月廿九日發付

大坂府攝津國東成郡腹見村平民

荒物商

系 本 彌 吉

明治十七年三月
 二十一年三月

右彌吉カ被告事件ニ付明治十七年三月四日松山輕罪裁判所ニ於テ被告ハ明治十六年十月五日松山重罪裁判所ニテ處刑ヲ受ケ又明治十七年一月二十一日原裁判所ニ於テ處決ヲ受タル際本籍氏名ヲ詐稱シ爾來同様詐リ居リタルコト明瞭ナリト雖モ被告ハ郷里ニ老母ノ在ルカ爲メ是レノ聞エテ懼リ事竝ニ及ヒシモノニテ他毫モ意ナキ者ト認メ治罪法第三百五十八條ニ依リ無罪ヲ言渡シタリ同裁判所檢事補水澤正也ハ之レヲ不當トシ上告セリ其要旨ハ抑モ刑法第二百三十一條ニ所謂屬籍氏名詐稱云々トハ素ヨリ惡意ノ有無ニ依テ之レヲ論別スヘキ精神ニアラス況ンヤ本案被告ノ所爲ハ素ヨリ惡意ニ發生シタルモノナルニ於テチヤ何ト

ナレハ官署ニ對シ姓名ヲ詐稱スルハ善事ニ非ラサルヲ以テ刑法上之レカ制裁ヲ立テラレタ
レハナリ然ルニ原裁判所ニ於テ刑法第二百三十一條ニ依リ罰ス可キ所爲ニ非ラスト判定シ
タルハ越權不當ノ處分ナリト云フニ在リ
對手人被告系本彌吉ハ答辯書ヲ差出サス

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルノ左ノ如シ
刑法第二百三十一條官署ニ對シ文書又ハ言語ヲ以テ其屬籍氏名年齢職業ヲ詐稱シタル者ハ
云々本案被告ハ明治十六年十月中松山重罪裁判所ニ於テ重罪ノ刑ニ處セラレ次テ明治十七
年一月中輕罪ノ刑ニ處セラル、ニ際シ大坂府攝津國西成郡南堀江町産無籍系本清次郎ト詐
稱シ爾來僞名ヲ繼續シタルコトハ既ニ原裁判官カ認メタル事實ナリ然ラハ即チ刑法第二百三
十一條ノ犯罪者タルコト論ヲ待タス何トナレハ被告ハ官署ニ對シ身分ヲ詐稱シタル罪アルモ
ノナレハナリ然ルニ原裁判所ハ惡意ノ有無ニ論及シ無罪ヲ言渡シタルハ不當ニシテ擬律錯
誤ノ裁判ナリトス
右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十九條ニ照シ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ裁判ス
ル左ノ如シ

系本彌吉

原裁判所カ認メタル事實ニ據レハ被告ノ所爲ハ刑法第二百三十一條官署ニ對シ文書又ハ
言語ヲ以テ其屬籍身分氏名年齢職業ヲ詐稱シタル者ハ貳圓已上ノ罰金ニ處ス
トアルニ該當ス依テ該範圍内ニ於テ罰金五圓可申付所被告ハ前キニ無期徒刑ニ處セラレ

タルヲ以テ刑法第二百三十一條ニ照シ更ニ其罪ヲ論セサルモノトス

○第四千二百六十二號

判文(氏名詐稱)明治十六年九月七日上告
同十七年十一月廿九日發付

長野縣信濃國東筑摩郡島内村平
民農業

土屋今朝一郎

明治十六年八月
二十年十一月

右今朝一郎カ氏名詐稱被告事件ニ付明治十六年八月十六日長野輕罪裁判所松本支廳ニ於テ
審理ノ末刑法第二百三十一條ニ依リ貳圓ノ罰金ニ處スト言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ被
告今朝一郎ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ明治二年頃今朝一郎ヲ誠吾ト改メシ届ケヲ爲セシヤ
否及明治十三年二月同村土屋彦六ハ養子ノ約ヲ爲セシニ依リ送籍セシヤ否等ハ共ニ其當時
タル十七年四月ケ月ニシテ之レヲ熟知スルノ知能ヲ具ヘス又父ニ於テモ其事實ヲ自分ニ告知セ
シコトナキ旨證言シアルト其他ノ數證トニ依テ其之レカ事實ヲ知ラサルモノト原裁判官ニ於
テモ採用セラレシコトハ其判文ニ今朝一郎ハ誠吾ト改メシハ罪トナラストアリテ明カナリ既
ニ此證ヲ採用ノ誠吾ト稱セシハ詐リシモノニアラストセハ其名ト常ニ用テ俱ニスル川船ノ
氏モ亦詐リシモノニアラストスルハ勿論ナルニ名ハ詐リニアラストシ一方ナル苗氏ノミチ
詐リナリトセシハ事實ノ理由ニ齟齬アルトノ事第二原判文ニハ當時土屋家ノ養子タルコトヲ
確認セシ上ハ送籍濟ニ相成リシ事實ヲ知ラサルノ理由ナケレハ官署ニ對シ土屋某ト稱ス

〜キチ川船某ト詐稱シタル證憑充分ナルモノト認定ストノミアリテ何ニ據テ詐稱シタルノ事實ヲ認定セシヤ毫モ其理由ヲ付セス第三刑法第二百三十一條ノ精神ハ官署ニ對シテ稱スルカ故ニ罪タルヘキ性質ヲ具備スルモノナリ然レモ自分ノ所爲タル送籍濟ニナリタル事實ヲ知りタルモノトスルモ身未タ生家ニ在ルヲ以テ養家ノ姓ヲ冒サハ來客來信等ノ不都合アラントナ慮リ松本警察署ヘ届ケサル以前ヨリ生家ノ姓ヲ用ヒシトハ數證ニ依リテ明カナリ加之川船ヲ用ヒスシテ土屋ヲ用ユル時ハ演說ヲ爲ス能ハス又政黨ニ入ル能ハストノアアルニアラサレハ故ラニ詐稱セシモノニアラサルヤ勿論ナルニ前掲ノ如ク罰セラレタルハ治罪法第四百十條第九項ニ該當スルト云フニ在リ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ判決スルヲ左ノ如シ
抑モ氏名詐稱ノ罪タル元來己レニ一定ノ氏名アリテ故ラニ他ノ氏名ヲ詐稱シ以テ規避スル所ノ原因ナカルヘカラス故ニ假令原氏名ヲ稱フルモ故ラニ之レヲ詐稱スルノ意ナク又規避セントスルノ惡意ナケレハ該犯罪ヲ組成スヘキモノニアラス然ルニ今原裁判言渡書ヲ閱スレハ(前當時土屋家ノ養子タルヲ確認セシ上ハ從テ送籍濟ニ相成リシ事實ヲ知ラサル理由ナケレハ官署ニ對シ土屋某ト稱スヘキチ川船某ト詐稱シタル證憑充分ナル者ト認定ス)トアルノミニテ被告カ原氏名ヲ稱ヘタルハ果シテ詐稱スルノ故意ニ出テタルモノナルヤ又ハ如何ナル事ヲ規避スルノ意アリテ詐稱シタルモノナルヤ毫モ此等ノ事實理由ヲ付シアルヲナケレハ隨テ原裁判ノ當否ヲ判別スルニ由ナキ不法ノ裁判ニシテ上告論旨ノ如ク治罪法第四百十條第九項ニ該當スル破毀ノ原由アルモノトス既ニ此點ヲ以テ破毀スヘキ上ハ

他ノ上告趣旨ニ對シ一々其當否ヲ判明セス
以上ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ニ依リ原裁判ノ全部ヲ破毀シ甲府輕罪裁判所ニ移シ更ニ審判セシムルモノ也

○第四千二百六十三號

判文(傳染病豫防規則犯) 明治十六年九月七日上告
同 十七年十一月二十九日發付

愛知縣三河國幡豆郡今川村平民
醫學

中島淳太郎

明治十六年八月
三十九年一月

明治十六年八月十八日名古屋輕罪裁判所岡崎支廳ニ於テ右中島淳太郎ハ實布埜利亞性ノ患者ヲ診斷シ二十四時間患者所在ノ町村衛生委員又ハ警察署ニ通知セサリシ者ト判定シ明治十三年第三十四號布告第二條同第二十二條ニ照シ罰金三圓ニ處スル旨宣告セリ中島淳太郎ハ右ノ裁判ニ服セス上告ヲナシタル要旨ハ被告カ足立新十ノ二女「ユキ」ヲ病症ヲ診斷シ實布埜利亞性トナシタルハ必竟誤診ナリシトハ初メヨリ該患者ヲ治療シタル醫師村山龍甫カナシタル患者死亡届ヲ以テ明瞭ナリトス故ニ被告カ所爲ハ罪トナルヘキ理由ナキニ原裁判所前記ノ如ク判定シタルハ不當ナリト云フニ在リ

對手人檢察官原裁判所檢事補佐藤森久ハ原裁判相當ニシテ上告ノ原由ナキ旨答辯セリ
證憑ノ採擇事實ノ認定ハ原裁判所承審官ノ特權ニシテ越權其他法律ニ背キタル處分アルニ

非ラレ限リハ他ノ左右シ得ヘキ者ニ非ラス今原判文ヲ閱スルニ被告任意ノ口供足立新十ノ手續書ニ徴シ事實ヲ認定シタル者ニシテ毫モ不當トナス廉アルヲナシ然リ而シテ被告ハ醫師村山龍甫カナシタル患者ノ死亡届ヲ以テ實布控利亞性ト診斷シタルハ誤謬ナル旨論告スレハ原裁判所ハ被告カ任意ノ口供ト足立新十カ手續書ニ徴シ前記ノ如ク判定シタルハ相當ニシテ上告ノ要旨ハ治罪法第四百十條各項ニ定メタル原由ナキヲ以テ同法第四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スル者ナリ

○第四千二百六十四號

判文〔賭博〕明治十六年十一月十九日上告

同十七年十一月二十九日發付

大坂府下西區長堀南通三丁目平

民商

土堤内 市松

明治十六年十月

二十八年

愛媛縣讚岐國香川郡北古馬場町

平民商

多田 宇平

明治十六年十月

二十三年

右土堤内市松多田宇平ノ被告事件ニ付明治十六年十月二十二日松山輕罪裁判所高松支廳ニ於テ被告市松ハ賭場ヲ開張シテ利ヲ圖リタル者ト認メ刑法第二百六十條ニ照シ七月ノ重禁

錮ニ處シ三拾圓ノ罰金ヲ附加ス又被告宇平ハ財物ヲ賭シ現ニ博奕ヲ爲シタル者ト認メ刑法第二百六十一條ニ依リ二月ノ重禁錮ニ處シ貳拾圓ノ罰金ヲ附加スル旨言渡シタル處被告兩名ハ該裁判ニ服セス各上告ヲ爲シタリ其市松カ上告ノ要旨ハ抑モ樞機揚弓營業ハ被告ノ雇主ナル植田幸助カ公然官許ヲ得タル營業ニシテ菓子或ハ菓子ニ代用スル紙札ヲ賭ケ勝負ヲ試ミシムル方法ナレハ所謂飲食物ヲ賭スルモノニシテ法律ノ問フヘキ所爲ニアラサルニ原裁判所カ被告ヲ有罪トナシ刑法第二百六十條ヲ適用シタルハ畢竟事實ノ審問ヲ爲ス場合ニ於テ辯論ヲ爲サシメ或ハ證人トシテ訊問セラレタル巡查藤岡長綱外四名ニ法式ノ宣誓ヲ爲サシメサル等治罪ノ順序ヲ誤リ重要ノ手續ニ依ラサルニ原因スルモノニテ原裁判ハ擬律錯誤ノ裁判ニ付之カ破毀ヲ求ムト云フコアリ又宇平カ上告ノ要領ハ被告ハ山尾「ヒサ」宅ニ立寄り菓子切符數枚ヲ購求シ内五錢切符一枚ヲ賭ケ樞機揚弓ヲ以テ勝負ヲ試ミタルモ其賭ケタル切符ハ即チ菓子ノ代券ナレハ罪トナルヘキ理由ナシ假令罪トナル所爲トスルモ多ク勝手得レハ金ト交換スル積リニテ爲シタル迄ナレハ未タ犯罪ノ決意ト謂フヲ得ズ暫ク決意シタルモノトスルモ決意ハ法律ノ罰スヘキモノニアラサレハ被告ノ所爲ハ無罪ナルニ現ニ博奕ヲ爲シタル者ト認定セラレタルハ不當ニ付更ニ公明ノ裁判アラントテ請願スト云フニアリ

對手人檢事補竹岡丕伸ハ被告等ノ上告ハ事實ノ判定ヲ非難スルニ止リ治罪法第四百十條各項ノ原由ナキモノト信スル旨兩名ニ對シ貳通ノ答辯書ヲ差出シタリ又多田宇平ハ被告カ罪ノ有無ハ其賭シタル切符カ金錢ノ代券ナルカ將タ菓子ノ代券ナルカノ兩點ニアリテ所謂罪

ノ疑ハシキモノナルニ被告ノ利益トナル方ヲ捨テ他ノ一方ナル金錢ノ代券ナリト認定シタルハ法理ニ背戻セル誤判ナル旨ノ辯明書ヲ差出ダシタリ、大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ、土堤内市松カ上告ノ主旨ハ原裁判ハ治罪ノ規則ニ背戻シタルヨリ無罪ノ被告ヲ刑スルニ至リタルモノニテ擬律ノ錯誤ナリト云フニアルモ證人ニ法式ノ宣誓ヲ爲サシメサル等ノ如キハ法律上無効ノ記載ナキヲ以テ法ニ依リ異議ノ申立ヲ爲シタルニ非ラサレハ以テ上告ノ原由トナスヲ得サルノミナラス賭場ヲ開張シ利ヲ圖リタル者ト其事實ヲ判定シ之ニ相當ノ刑ヲ科シタル者ナレハ擬律錯誤ニ非ラズトス又多田宇平カ論疏スル主點ハ所爲ノ疑ハシキハ被告ノ利益トナルヘキ方ニ認定ヲ下スヘキコト否セシテ罪トナラサル被告ノ所爲ニ對シ刑ヲ科シタルハ法理ニ戻リタル誤判ナリト云フニ在ルモ各證據ニ據リ事實ヲ判定スルハ裁判官ノ權内ニ在リテ他ヨリ容喙スルヲ得サルモノナレハ之ニ不服ヲ唱フルモ亦以テ上告ノ原由トナスヲ得サルモノトス要スルニ本件二名ノ上告ハ治罪法第四百十條各項ノ場合ニ適合セサルヲ以テ同法第四百二十七條ニ依リ併セテ之レヲ棄却スルモノナリ

○第四百二十六十五號

判文(賭博)明治十六年十月十一日上告

同十七年十一月二十九日發付

岡山縣備中國阿賀郡上水田村平民

室 幸 八

明治十六年九月三十年

明治十六年九月二十四日高梁治安裁判所ニ開キタル岡山輕罪裁判所ニ於テ右室幸八カ賭博被告事件ヲ審理シ刑法第二百六十一條ニ依リ再犯ナルヲ以テ同第九十二條ニ照シ本刑ニ一等ヲ加ヘ六月ノ重禁銅ニ處シ貳拾圓ノ罰金ヲ附加スト言渡シタル裁判ニ對シ原裁判所檢察官岡山縣警部補田邊文藏カ上告シタルノ要旨被告ハ明治十三年一月十一日同年六月二十五日賭博ノ科ニ依リ高梁區裁判所ニ於テ處斷ヲ受ケ十四年五月二十四日賭博罪ハ十五年十月二十一日高梁治安裁判所ニ開キタル岡山輕罪裁判所ニ於テ處斷ヲ受ケ三次ノ犯罪ハ其ニ舊法ノ支配ニ屬シ再犯加重例ヲ用ユヘキモノニ非ラサルニ刑法第九十二條ヲ適用シタルハ擬律ヲ錯誤シタル不法ノ裁判ナレハ破毀シテ相當ノ判決アラントテ求ムト云フニ在リ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ判決ヲ爲スコ左ノ如シ、本案被告人カ三次ノ賭博ハ皆舊法ノ管轄ニ在テ犯シタルモノナレハ新法ノ再犯加重例ヲ適用スヘキモノニ非ラサルカ如シト雖モ原裁判官渡シテ閱スルニ被告ハ曩ニ賭博ノ科ニテ處斷セラレシ身分云々再犯ニ係ルニ付同第九十二條ニ照シ一等ヲ加ヘトアリテ其曩ニ犯シタル賭博罪ハ何レノ時ニアリシヤ年月日ヲ明記セサルヲ以テ舊法ノ管轄ニ屬スル犯罪ナル乎將タ新法ニ屬スル犯罪ナル乎ヲ知ル能ハス從テ再犯加重例ヲ適用シタルハ擬律錯誤ニ係ルヤ否ヲ監査スルニ由ナシ即チ治罪法第三百四條ノ成規ニ背キ事實ノ理由ヲ明示セサル不法ノ裁判ナリトス已ニ此點ヲ以テ原裁判官渡シテ破毀スヘキニ因リ上告論旨ノ如何ハ別ニ辯明ヲ要セサルナリ

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ノ成規ニ從ヒ原裁判言渡シノ全部ヲ破毀シ被告事件ヲ廣島輕罪裁判所尾道支廳ニ移シ更ニ審判セシムルモノナリ

○第四千二百六十六條

判文〔故殺〕明治十七年六月三十日上告
同 年十一月廿九日發付

滋賀縣近江國高島郡海津町平民
按摩業

馬淵常次郎

明治十七年六月三十一日

右常次郎カ被告事件ニ對シ明治十七年六月十一日大津重罪裁判所ニ於テ被告ハ憤怒ノ餘臨時持合セノ短刀ヲ以テ叔母「カノ」ヲ殺害シタル後忽然盜心ヲ發シ衣類等十六點ヲ竊取シタル者ト認定シ刑法第二百九十四條第三百六十六條第三百七十六條第百條ニ依照シ無期徒刑ニ處スト言渡シタル裁判ヲ不當トシ檢事補久保覺郎ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告カ怨恨相積テ「カノ」ヲ殺害シタルハ被告ノ白狀「カノ」ト口爭ノ際罵リタル語氣及ヒ殺害ノ時短刀ヲ携帶シ且ツ「カノ」ハ六十有餘ノ老嫗ニシテ當時畏懼シテ休マサル等ニ依リ其證據充分ナルニモ拘ハラス故殺罪ニ處シタルハ事實ノ理由ニ齟齬アル裁判ナリ又謀故殺罪ヲ斷スルニハ其殺意ノ生シタル場合ヲ明示セサルヘカラズ然ルニ其明示ヲ缺キタルハ事實ノ理由ヲ付セサル不法ノ裁判ナレハ破毀ヲ求ムト云フニ在リ
對手人被告馬淵常次郎ハ答辯書ヲ差出タラス

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事加納久宜ノ意見及ヒ被告代理人岡島宗三郎ノ辯明ヲ聽キ判決スルコト左ノ如シ

上告第一ノ論旨ハ被告ノ證據充分ナルニモ拘ハラス故殺罪ニ處斷シタルハ事實ノ理由ニ齟齬アル裁判ナリト云フニ在レモ治罪法第四百十條第九項ニ事實理由ノ齟齬アル時トアルハ原判文ニ掲ル事實ノ理由前後矛盾照應セサルノ謂ニシテ認定外ノ事實ヲ擧ケテ違法ト爲スヘキモノニ非ラス又第二論旨ハ殺意ノ生シタル場合ヲ明示セサルハ事實ノ理由ヲ盡サハル裁判ナリト云フニ在レモ原判文ニ「カノ」ニ於テハ却テ之ヲ憤リ其坐敷ノ柱ニ掛置キアル棕梠箒ヲ執テ打掛ラントシタルニ依リ被告ハ憤怒ノ餘臨時持合セシ短刀拔放チ云々該刀ヲ握ミ取ントシタルヨリ再ヒ「カノ」カ咽喉ニ突立テ終ニ同人ヲ殺害云々ト其理由ヲ付スル充分ナルモノトス要スルニ上告論旨ハ原裁判官ノ職權ニ屬スル探證及ヒ事實ノ認定ヲ非難シ覆審ヲ求ムルニ過キヌシテ上告ノ原由ナキモノト判定ス
右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ則リ之ヲ棄却スルモノナリ

○第四千二百六十七號

判文〔毆傷〕明治十七年三月廿九日上告
同 年十一月廿九日發付

長野縣信濃國東筑摩郡西條村増
田重平方借宅同國更級郡豆島村
百四十番地平民瓦職

小宮山長左衛門

明治十七年三月八日

明治十七年三月七日長野輕罪裁判所松本支廳ニ於テ右長左衛門カ毆打創傷被告事件ヲ審判シ被告カ犯罪ノ證據充分ナラサルヲ以テ治罪法第二百五十八條ニ依リ無罪ト言渡シタル裁判ニ服セス原裁判所檢事補中村茂八郎ハ上告セリ其要旨ハ醫師ノ鑑定等ニ依レハ被害者ノ負傷ハ被告ノ宅ニ於テ負傷セシモノタルコト明白ナリ而シテ其負傷タル被告ノ行爲ニアラサレハ自傷セシモノナリト雖モ自ラ負傷スルトノ推測ハ人情ニ背クニミナラス被告ト被害者トハ雇人ト主人トノ關係アルモノナレハ其雇人タル被害者カ勸解呼出狀ヲ持參セルヲ以テ被告ハ忽チ憤怒ヲ發シ毆打シタルモノナルコト充分見ルニ足レリ然ルチ原裁判所ハ單ニ證據不充分ナリトシ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ事實ノ理由ヲ付セサル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ對手人被告長左衛門ハ期限内答辯書ヲ呈出セス大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルニ上告論旨ハ被告カ毆打創傷ノ罪アル事ハ醫師ノ鑑定書等ニ據テ明白ナルニ無罪ヲ言渡シタルハ不法ナリト云フコト在レト醫師ノ鑑定其他ノ證據ヲ採擇シテ罪證ノ有無ヲ判定スルハ治罪法第四百六條末項ノ如ク事實承審官ニ任從スル所ナレハ之ヲ論難シテ上告ノ原由トナスヲ得サルモノトス而シテ原判文ニ熊三郎ノ負傷ハ果シテ被告ノ所爲ト認ムヘキ證據充分ナラスト事實ノ理由ヲ明示シタルモノナレハ上告趣旨ハ不立者トス右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ基キ本案上告ハ之ヲ棄却スル者也

○第四百二十六十八號

判文(毆傷)明治十七年三月廿二日上告
年十一月廿九日發付

山梨縣甲斐國西八代郡古關村平民

土橋與右衛門
明治十七年二月四十九年

同縣同國同郡同村平民

土橋甚右衛門
明治十七年二月三十一年

同縣同國同郡同村平民

土橋正作
明治十七年二月三十八年八月

明治十七年二月十五日甲府輕罪裁判所ニ於テ被告三名ハ明治十六年十一月二十八日內藤茂平ヲ監禁制縛シ尙ホ與右衛門ハ渡邊「フシ」及ヒ內藤茂平ヲ毆打創傷シタルモノト事實ヲ認定シ其所爲刑法第三百二十三條ニ該ル者トシ又與右衛門カ茂平ヲ毆傷シタルハ同法第三百二十四條ニ依リ同第三百一一條第三項ニ該リ尙「フシ」テ毆傷シタルハ同第三百一一條第三項ニ該ル數罪俱發スルヲ以テ同法第百條ニ照シ所犯情狀最重キ第三百二十三條ニ依リ處斷スヘキモノトス仍テ與右衛門ヲ重禁錮二月ニ處シ罰金三圓ヲ附加シ甚右衛門正作ハ憫諒スヘキ情狀アルヲ以テ同法第八十九條第九十條ニ依リ本刑ニ一等ヲ減シ各重禁錮一月十五日ニ

八四九

處シ罰金貳圓貳拾五錢ヲ附加スト裁判言渡シテ爲シタリ被告三名ハ右裁判テ不當ナリトシ各自ニ上告セリ被告與右衛門上告要旨ハ内藤茂平カ被告ノ長男重一ヲ誣告シタルヲ以テ同人ヲ自宅ニ招キ其始末ヲ問ヒ又ハ教戒ヲ加フル際動モスレハ其場ヲ逃走セントスルニ付軟弱ナル紐ヲ施シタルマテニテ監禁制縛ヲ爲シタルコトナシ又被告カ市川警察署ノ口供ハ事實ニ齟齬スルヲ以テ之ニ調印セサレハ無効ノ口供ナルニ之ヲ採用シタルハ越權ナリ又渡邊源二郎ハ被告與右衛門ノ親族ナルニ之ヲ證人トシタルハ治罪法第百八十條第二項ニ悖戾セルモノナリト云フニ在リ又土橋甚右衛門外一名上告ノ要領ハ土橋與右衛門ノ依願ニ依リ内藤茂平ヲ呼ヒ寄セタレト與右衛門ハ別ニ監禁制縛等ヲ爲シタルニ非ラス假リニ與右衛門ノ所爲法律ニ觸ル、モノトスルモ被告二名ハ之ニ加功又ハ幫助ヲ爲シタルニ非ラス然ルニ連帶被告トシテ處斷セラレタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在リ

對手人原裁判所檢事補若林爲三藏ハ被告等ノ上告一モ正當ノ理由ナシト答辯セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルコト左ノ如シ
抑モ被告等カ内藤茂平ヲ監禁制縛シタルト與右衛門カ茂平及ヒ渡邊「フシ」ヲ毆傷シタル事實ハ已ニ原裁判官ニ於テ各證據ヲ採擇シテ認定シタル所ナレハ之ニ對スル論告ハ相立タス何トナレハ本院ハ法律適用ノ當否ヲ鑑査スル所ニシテ事實ノ覆審ヲ爲ス所ニアラサレハナリ故ニ被告ノ内與右衛門カ上告第一點及ヒ被告甚右衛門正作カ上告スル所ハ要スルニ事實認定ノ非難ニ歸シ一モ上告ノ原由ナキモノトス而シテ與右衛門カ上告第二點ハ調印セサル口供ヲ採用シタルハ越權ナリト云フニ在レト公判廷ニ於テ警察署ノ調書ヲ朗讀スルニ際シ

曾テ該調書ノ不當ナルヲ論辯セサルノミナラス他ハ警察署ノ口供ノ通ナリト陳述シ已ニ該口供ノ正確ナルヲ認メタルコト公判始末書ニ徴シテ明白ナレハ今ニ至リ之ヲ不當ナリト云フヲ得フ又其第三點ハ被告ノ親族ヲ證人ト爲シタルハ無効ノ規則ニ背キタリト云フニ在レト警察署ノ訊問調書ヲ閱スルニ事實參考ノ爲メ訊問スル旨ヲ記載アレハ證人トシタルニ非ラズトス然レハ原裁判言渡書ニ證人ト記シタルハ全ク誤寫ニ出タルコト明瞭ナレハ是又破毀ノ原由ト爲スニ足ラサルモノトス因テ本案上告ハ總テ相立タサルモノト判定ス
右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ基キ該上告ヲ棄却スルモノナリ

○第四百二十九號

判文(過失傷) 明治十六年十月三日上告

同 十七年十一月廿九日發付

和歌山縣紀伊國名草郡黑江村平民

蠟燭器物商

栗生 武右衛門

明治十六年八月三十日

右武右衛門カ過失傷被告事件ニ付明治十六年八月二十九日和歌山縣輕罪裁判所ニ於テ審理ノ末刑法第三百十九條同第四百二十五條第三第四同第一百一條ニ依リ一ノ重キニ從ヒ罰金貳拾圓ニ處ス又民事原告人請求スル二十一日分ニ係ル休業日當金ハ被告ノ自認スル一日分金拾錢ヲ允當トシ合金貳圓拾錢又金貳圓九拾錢藥料及ヒ醫師ヘノ謝金貳圓總計金六圓三拾錢ハ負傷ニ起因スル費金ナルヲ以テ武右衛門ヨリ琴浦佐助ヘ辨償遂クヘシト言渡シタル裁判ヲ

不當ナリトシ被告本人ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ第一被告ハ自製ノ烟火ヲ居宅ヲ離ルハ
 數十間ノ山麓ニ揚發セシニ觀者群來シ或ハ危險ノ虞ナキコアラサルニ因リ繩張ヲ以テ觀者
 ノ注意ニ供シタリ茲ニ於テ第二回火ヲ點シタルニ發セサルヲ以テ之レヲ被告ノ傍ニ置キ第
 三回ノ烟火ニ着手スルニ當リ傍ニ置キタル烟火筒其火未タ全ク滅セカリシニヤ忽焉トシテ
 發火セリ然ルニ圖ラサリキ繩内ニ偶々人アリ火傷セシト蓋シ琴浦佐助ハ繩張ノ内外トナク
 縱橫奔走シ其繩域内ヲ横切り走ルキ烟火筒ニ蹉跌シ火爲メニ發感シ足蹠ヲ傷シタル事實ハ
 證人桑原清右衛門外二名カ公判廷ニ於テ爲シタル陳述ト吻合セシヲ以テ其負傷ハ自ラ招キ
 タルノ災ニシテ被告ノ過失コアラサルトノ事第二右ノ事實ニ對シ原裁判所ニ於テハ被告カ
 疎虞ノ過失アリト斷定シ其理由トシテ見物人ノ繩張内ニ入りアルヲ知テ制止ヲ遂ケス又火
 ヲ點シ感發セサルノ烟火筒ヲ該所ニ投棄シテ顧念セス又琴浦佐助ノ損害金ハ上告人ノ過失
 ニ起因スルヲ以テ之ヲ償フヘシト言渡サレタレトモ被告ハ繩域内ニ多人數ノ入り來リタル
 一ヲ知ラス又多人數ノ繩内ニ來リ在リシナレハ獨リ佐助ノ負傷ニシテ止ンヤ是事實理由ノ
 齟齬ナリ假リニ繩内ニ數人ノ侵入シアリトセン乎之レヲ以テ被告ノ疎虞ノ理由ト爲スニ足
 ラス何トナレハ侵入者ニ於テ繩裏ハ危險ノ場所ナルヲ知リナカラ身ヲ護スルノ利益ヲ棄テ
 以テ其境域ヲ超越シタルナレハ設ヒ其傷ヲ負フコアルモ彼等ハ自ラ招キタルノ災ナレハナ
 リ又火ヲ點シテ感發セサルノ烟火筒ヲ該所ニ投棄シテ顧念セカリシトアレハ右繩裏ハ觀者
 ノ入ルヘカラサルノ所トス然ラハ則チ其繩域外ニ安シテ以テ觀ル所ノ人ヲ害セサルヨリハ
 繩裏ニ於テ如何ナル技術ヲ演スルモ如何ナル烈火ヲ燒クモ被告ノ自由タルヘシ然ルニ其立

消シタル烟火筒ヲ置キタル場所ハ繩裏ナルカ故ニ被告カ疎虞ノ理由ト爲スニ足ラス又被告
 ニ於テハ以上詳論セシ如ク疎虞ノ過失ナシ然ラハ佐助ノ損害ハ被告カ過失ヲ以テ加ヘタル
 ニアラサルヲ以テ損害賠償ノ義務ナキコ灼然タリ然ルニ之レヲ過失ナリト斷定シタルハ事
 實ノ理由ヲ齟齬シタルモノニシテ治罪法第四百十條第九項ニ定メタル上告ノ原由アルモノ
 トノ事第三ハ判文中被告ノ自認ス云々ト恰モ被告カ損害要償ノ義務アリト是認セシモノハ
 如クナルモ決シテ自認シタルニ非ラス然ルニ被告カ言ハサルモノヲ言ヒシ如ク掲載シタル
 ハ越權ノ處分ナリ右ノ事由ナレハ被告カ疎虞ノ過失ナキコ明白ナルヲ以テ無罪ノ言渡シテ
 爲スヘキ者ナルニ刑法第二百十九條ヲ適用シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナルヲ以テ破毀ヲ求ム
 ト云フニ在リ

對手人原檢事補速水良明ハ原裁判相當ニシテ上告ノ理由ナキ旨ヲ答辯セリ
 大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ審理判決スルコト左ノ如シ
 被告カ上告ノ理由トナル所ハ前掲ノ如クニシテ要スルニ原裁判官ニ於テ職權ヲ以テ被告ハ
 官許ヲ得スシテ烟火ヲ製造シ人家稠密ノ場所ニ於テ濫リニ玩フノミナラス火移リセサル烟
 火ヲ其場ニ放擲シ置キ顧念セサルヨリ發火シタル者ナレハ是レ即チ疎虞ト云ハサルヲ得ス
 然レハ假令觀者ノ危險ヲ慮リ繩張ヲ爲シタルモ多人數繩張内ニ侵入シ其發火ノ爲メニ負傷
 セシ者ナレハ全ク被告カ規則ヲ遵守セサルニ起因セシ者ナルヲ以テ過失ノ責ハ免カルハ
 得ス從テ損害賠償ノ義務アル者ト認定シタル事實ニ對シ其當否ヲ難スルニ過キサレハ上告
 ノ原由トナスニ足ラス其第三ノ論點ニ付原判文ヲ閱スルニ(又民事原告人請求スル二十一

日分ニ係ル休業日當金ハ被告ノ自認スル一日分金拾錢ヲ允當トシ云々トアリテ損害賠償ノ義務ヲ自認シタリト記載シタルニ非ラサルハ瞭然タリ其他云々スル所ハ是亦原裁判官ノ職權内ニ侵入シ不服ヲ訴フルニ止マレハ治罪法第四百十條ノ項目外ニ涉ルヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス因テ上告ノ趣旨總テ相立タサルモノトス

○第四千二百七十號

判文〔強姦未遂及毆傷〕明治十六年六月八日上告
同 十七年十一月廿九日發付

岩手縣陸中國東磐井郡岩清水村

平民農業

小野 寺久吉

明治十六年五月

三十八年八月

明治十六年五月十一日盛岡輕罪裁判所警井支廳ニ於テ右小野寺久吉カ被告事件ヲ審判シ其強姦未遂ノ證據ハ不充分ナルヲ以テ治罪法第三百五十八條ニ照シ無罪ナルモ被告人カ被害者渡邊「ミツ」ヲ創傷シ二十日以上ノ疾病休業ニ至ラシメタルノ證據ハ充分ナリト判定シ刑法第三百一條第一項ニ照シ尙ホ第八十九條第九十條ニ從ヒ一等ヲ減シ重禁錮九月ニ處スト言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ原裁判所檢事補庄田金次郎ハ上告ヲ爲シタリ其要領第一原裁判言渡中第一ノ所爲ハ強姦未遂ヲ指シタルモノ、如ク果シテ然ラハ前キニハ證據充分ナリトシ後キニハ不充分ナリト言渡シ自家撞着亦甚シトノ事第二ハ言渡中ニ往還ヨリ脇ニ入

ル事二三間若シクハ十間以内ト曖昧ナル事實ヲ記載シ第二言渡中被害者ニ於テ暴行ヲ受ル者ナレハ故テニ人家遠キ場所ニ至ラサル前他ノ救護ヲ乞フ可キニ之レヲ乞ハス又被告人ニ於テモ口ヲ塞ク等ノ事ヲ爲サ、ルノミナラス却テ兩人共其攜帶品ヲ路傍ニ差置キタル等ノ形蹟ニ依レハ云々トシタルハ皆審理ヲ盡サ、ル裁判ナリ第四言渡中被害者ヨリ被告人ノ頭髪ニ絶リ又羽織ヲ引裂キタルモ被告人ハ抵抗セズ只痴情ノ止マサルヨリ被害者ノ陰部ヲ負傷セシメタル云々トアルモ證人ノ申立現場ノ形蹟等ニ依レハ被告人ヨリ暴行ヲ以テ被害者ヲ姦淫セントシタルモ其應セサルヨリ之レヲ負傷セシメタル者ニテ決シテ被害者ヨリ暴行ヲ爲シタル者ニ非ラス假リニ被害者ヨリ衣服ヲ毀壞スル等ノ暴行ヲ爲シタル者トセハ被告人ノ所爲ハ刑法第三百九條第三百十三條ニ依リ減等ヲ爲サ、ル可カラサルノミナラス却テ被害者ニ於テ暴行ヲ爲シタル者ナレハ附帶犯トシテ職權ヲ以テ之レカ處分ヲ爲ス可キニ茲ニ出テサルハ審理ノ粗漏ナリ要スルニ原裁判ハ審理不盡事實ノ齟齬及ヒ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在リ

對手人被告久吉ハ答辯書ヲ差出シ檢察官ノ上告ハ不當ナリト云ヒ尙ホ被告人ハ當初ヨリ創傷ノ意アルニ非ラス只痴情止ミ難キヨリ過テ差少ノ負傷ヲ爲サシメタル迄ニテ被害者ニ於テモ決シテ疾病休業ニ至リタルヲナシ假リニ疾病ニ係リタル者トスルモ過失ナルヲ以テ刑法第三百十九條ニ依リ處斷セラル可キ者ナルニ原裁判茲ニ出テサルハ不當ナリト云フニアリ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

テ不服ヲ訴フルモ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得サル者トス本案上告者ハ其趣旨ヲ前後八箇條ニ分チ反覆原裁判ノ不當ヲ論難スルモ原裁判言渡書ヲ視ルニ裁判官カ各證人ノ陳述醫師ノ鑑定書等ニ依リ被告カ強姦未遂ノ所爲ハ證憑不十分ナルモ被害者ノ陰部ニ負傷セシメタルハ充分ナリト事實ヲ認メ之ヲ法律ノ正條ニ照シ相當ノ刑ヲ言渡シタル者ナレハ毫モ事實ノ齟齬及審理不盡擬律錯誤ノ廉アルコトナク且上告趣意書中第一條ニ前キニハ證憑充分ナリト記載シ後ニハ不充分トシタルハ自家撞着ノ甚シキモノナリト云フニアルモ其不充分ト爲シタル點ハ強姦未遂ノ所爲ヲ指シタル者ニアラスシテ創傷セシメタル證憑ハ充分ナリト判定シタル者ナレハ撞着シタルニ非ラス又趣意書第七條ニ於テ被害者ヨリ衣服ヲ毀壞スル等ノ暴行ヲ爲シタル者ナレハ本案ノ附帶犯トシテ處分ス可キ者ナリトノ論旨ナルモ個ハ是本案ノ事實外ニ涉リ別ニ影響ヲ及ボサレハ是ヲ以テ破毀ノ理由ト爲スニ足ラス其他被告カ答辯書中ノ論旨モ亦原裁判官カ事實ノ判定上ニ侵入シタル者ニテ素ヨリ破毀ノ理由ト爲スヲ得ス依テ上告ノ趣旨ハ總テ相立タサル者ト判定シ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本案上告ヲ棄却スル者ナリ

○第四百二十七號

判文(重婚) 明治十六年九月廿六日上告
同 十七年十一月廿九日發付

愛媛縣伊豫國南宇和郡城邊村平
民農業山田鹿藏妻

金 繁 七 七 七

明治十六年九月
三十四年五月

右「セキ」カ被告事件ニ付明治十六年九月三日松山輕罪裁判所宇和島支廳ニ於テ審理ノ末重婚ヲ婚姻ヲナシタル證憑充分ナラストシ治罪法第三百五十八條ニ因リ無罪ト言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ檢察官三好素ハ上告ヲナシタリ其要領ハ被告「セキ」ハ夫鹿藏ノ將來ニ見込ナキ迎抱ニ實家ニ立歸リ夫鹿藏ヨリ再三歸リ吳レ度旨掛合及フモ之ヲ肯セズ明治十六年三月中澤近藤太郎仲人ニテ澤近磯治へ再嫁シタル事實ハ被告人ノ自白媒酌人藤太郎及ヒ磯治ノ手續書中ニ表面ハ雇女内間ハ妻云々トアリテ「セキ」カ引越ノ當夜磯治ニ於テ仲人及ヒ實兄善吉等ヲ招キ酒肴ヲ饗シ婚儀ヲ表シタルコト明白ナリ抑結婚ニ就テハ一定ノ成式ナキヨリ地方ニ於テ中等以下ノ者ハ其式區々ニシテ初婚ハ分ニ應シ相當ノ式ヲナスモ再婚即チ後妻ヲ娶ルハ尤モ略式ヲ用ユル土地ノ習慣ニテ其習慣ニ依リ仲人ヲ以テ彼我夫婦ノ交際ヲナシ隣佑親屬之ヲ夫婦ト認メタレハ則チ重婚トナサ、ルヲ得ス法律ハ事實ノ所爲ヲ罰スルモノナレハ舊法ニ於テモ假令未タ送籍ノ手續ヲ經サルモ親屬隣佑夫婦ト認メタル場合ハ夫婦ヲ以テ論スルノ例夥多アリ是表面ノ如何ヲ問ハス實際ヲ罰スル所以ナリ之ニ反シ公正ノ手續ヲ經サレハ重婚ヲ以テ論スルヲ得ストセハ重婚ノ罪ハ到底アラサルヘシ故ニ本件ノ如キ結婚ヲナセシ實アル者ハ重婚ヲ以テ論セサル可カラス然ルニ證憑不十分ナリトシ無罪ヲ言渡シタルハ理由ノ齟齬ナリト云ヒ破毀ヲ求メタリ

對手人被告「セキ」ハ答辯書ヲ差出サス

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ之ヲ審案スルニ

上告ノ理由トスル所重婚ノ事實ハ被告人ノ自白媒酌人藤太郎及ヒ磯治ノ手續書ニ明白ナルニ證憑充分ナラストシ無罪ヲ言渡シタルハ不法ナリト云フニアリト雖モ原裁判官カ法律上
任從セラレタル職權ヲ以テ重テ婚姻シタル證憑充分ナラサルモノト認定シタル事實ニ對シ
其當否ヲ論難シテ之ヲ左右セント試ムルニ過キサレハ治罪法第四百十條ニ定メタル各項ニ
適當スル上告ノ原由ナキヲ以テ其趣旨相立サルモノトス
以上ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スル者也

○第四千二百七十二號

判文(誣告)明治十七年三月廿四日上告
同 年十一月廿九日發付

青森縣陸奥國北津輕郡藻川村平
民農

高橋 永吉

明治十七年三月
三十八年七月

右永吉カ被告事件ニ付明治十七年三月五日弘前輕罪裁判所ニ於テ官吏財産ニ對スル件ハ證
憑充分ナラサルモ入監中書面ヲ以テ豫審官ニ自首セシハ乃チ高橋嘉七高橋卯一ノ兩人ヲ輕
罪ニ陷ラシムル爲メ誣告シタルモノト判定シ刑法第三百五十五條及ヒ同第二百二十條ニ照
依シ六月ノ重禁錮ニ處シ五圓ノ罰金ヲ附加スヘキ所明治十五年八月十五日投票偽證ノ科ニ
依リ輕禁錮二月罰金五圓ニ處セラレタルヲ以テ同第二百二十條ニ照シ之ヲ扣除シ剩ル重禁錮四
月ニ處スト言渡シタリ被告人ハ此裁判ニ對シ上告セル要領ハ被告ハ高橋嘉七高橋卯一ノ兩

名ト共ニ正數外ニ賦課金ヲ徵收シタルノ他ヨリ發覺セシテ恐レ自首シタルモノニシテ
毫モ右兩名ヲ陷害スル等ノ意思アルニアラサレハ決シテ誣告ニアラス然ルチ本案ノ如ク誣
告ノ罪アリト認メ處斷セラレタルハ不法ナルヲ以テ之レカ破毀ヲ求ムト云フニアリ尙追申
書ヲ以テ前趣意ヲ擴張セリ
對手人檢事補關進造ハ被告カ上告ハ治罪法第四百十條ニ規定セル原由ナキヲ以テ棄却アラ
シトテ求ムト答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事安藤源五郎ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如
シ
上告ノ理由トスル所被告ハ高橋嘉七高橋卯一ノ兩名ト共ニ正數外ニ賦課金ヲ徵收シタルノ
他ヨリ發覺セシテ恐レ自首シタルモノニシテ毫モ右兩名ヲ陷害スル等ノ意思アルコ
トヲサレタル誣告ノ罪アリト認メ處斷セラレタルハ不法ナリト云フルニアリテ徒ニ原裁判官カ
正當ノ職權ニ從ヒ判定セシ事實上ニ立入り不服ヲ訴フルニ過キサレハ乃チ治罪法第四百十
條ニ規定セル第一ヨリ第十一ニ至ル場合ニ適當セサルヲ以テ上告ノ原由ナキモノトス因テ
同第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スル者ナリ

○第四千二百七十三號

判文(誣告)明治十七年一月廿二日上告
同 年十一月廿九日發付

新潟縣北蒲原郡藏光寺村平民農

藤 間 龜 吉

八六〇
明治十六年十二月
二十四年九月

同縣同郡同村平民農

藤間長松

明治十六年十二月

四十四年九月

明治十六年十二月二十一日新瀉輕罪裁判所新發田支廳ニ於テ右藤間龜吉外一名カ誣告被告事件ヲ審理シ刑法第三百五十五條同第二百二十條第二項ニ依リ被告龜吉ハ重禁錮六月ニ處シ罰金四圓ヲ附加シ長松ハ重禁錮八月ニ處シ罰金拾五圓ヲ附加ス旨言渡シタル裁判ニ對シ被告龜吉外一名ハ上告ヲ爲シタリ其要領タル本件ノ立木ハ吉田權内ヨリ林地ト共ニ之ヲ買得シタルモノナルヲ以テ吉田岩藏ニ係リ告訴シタルハ決シテ誣告シタルニ非ラサルニ原裁判官ニ於テ強テ立木ヲ除クノ明文ナキ奇貨トシ杯ト附會シ誣告ノ事實ヲ示サスシテ刑ニ處シタルハ事實理由ノ齟齬スル不當ノ裁判ナリト云フニ在リ
同裁判所檢事補工藤勇ハ上告論旨ハ其理由ナキ旨答辯セリ
玆ニ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ踐行スルニ代言人山中道正ハ上告趣旨ヲ擴張シテ云ク本案林地ハ被告龜吉ニ於テ明治八年九月二日ノ約定ニ基キ明治十三年八月二十日ニ至リ之ヲ買受ケタルモノニシテ當時既ニ吉田岩藏ニ於テ其立木ヲ伐盡シ其價額ニ因リ一反歩ニ付金四圓ト定メシモノナルコトハ右約定證第三項ニ立木ヲ賣却シ其代價ニ因リ土地ノ價額ヲ取極ムルトノ明文アルニ依テ明確ナリ然ルニ原裁判官ニ於テ其立木ヲ扣除シタル明文ナキ奇貨トシ云々ト言渡サレタルハ事實理由ノ齟齬スル不當ノ判定ナリ又明治十

三年八月中林地讓受ケタル節ハ僅カニ柴木ノミ生立チアリテ立木ト稱スヘキモノハ更ニ之レナク今日ノ樹木ハ爾後生立チシモノナルコトハ現在該立木何レモ皆目通壹尺内外ナルヲ以テ之ヲ證スルニ足レリ如斯事實アルニモ拘ハラス原裁判官ニ於テ右岩藏ノ伐採セシ樹木ハ果シテ在來ノ立木ナリシヤ將テ賣買後柴木ノ成長セシモノナルヤヲ審究明示セサリシハ事實理由ノ不備ナル不法ノ裁判ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト立會檢事澄川拙三ハ上告論旨并ニ代言人ノ陳述トモ一モ其理由ナキ旨開陳セリ依テ之ヲ判決スルコト左ノ如シ
抑事實ノ認定ハ法律上裁判官ニ特任スル所ナレハ他ヨリ之ヲ論難スルヲ得サルモノト大然ルニ本案上告趣旨并ニ代言人カ論旨トモ之ヲ要スルニ原裁判官ノ之ヲ認メサル事實ノ點ヲ提起シテ以テ原判定ヲ非難スルニ過キスシテ一モ治罪法第四百十條各項ニ適合スル理由ナク且ツ原判文ヲ監査スルモ亦不法ノ點ナキヲ以テ同法第四百二十七條ニ從ヒ本案上告ハ之ヲ棄却スルモノ也

○第四千二百七十四號

明治十七年十月廿七日管轄定訴
判文(誣告教唆)同
年十一月廿九日發付

福島縣岩代國安積郡富田村平民
農

富田勝見

明治十七年十月
四十四年生月不詳

右勝見カ被告事件ニ付明治十七年十月八日福島輕罪裁判所白河支廳會議局ニ於テ豫審終結

ノ故障ニ對シ福島輕罪裁判所白河支廳へ移ストノ終結ヲ認可シタル判決ニ因リ檢事補安藤武吉ハ裁判管轄ヲ定ムルノ訴ヲ爲シタリ其要旨ハ會議局ノ判決ニ因リ之ヲ公判ニ付セントスルモ豫審又ハ會議局ノ判決ニ干預シタル裁判官ノ外之レヲ受理スヘキモノナキニ付治罪法第四百四十八條ノ原由アルモノナリト云フニアリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告書及ヒ檢事長渡邊驥ノ意見書ニ據リ判決スルノ左ノ如シ
茲ニ是レヲ案スルニ治罪法第四十七條ニ豫審ヲ爲シタル裁判官ハ其公判ニ干預ス可カラズ前ニ豫審又ハ公判ヲ爲シタル裁判官ハ哀訴及ヒ闕席裁判ニ對スル故障ヲ除クノ外其上訴ノ裁判ニ干預ス可ラス此規則ニ背キタル時ハ其言渡シノ効ナカル可シトアリテ豫審及ヒ其故障ニ對スル會議局ノ判決ニ干預シタルモノナレハ公判ヲ爲ス不能ハ勿論ナリ然ルニ他ニ之レヲ受理スヘキ公判判事ナキ場合ナルヲ以テ裁判管轄ヲ定ムルノ訴ヲ爲スヘキ理由充分ナリトス

右ノ理由ナルヲ以テ本案事件ハ福島輕罪裁判所ニ於テ之ヲ管理スヘキモノト定示スルモノナリ

○第四百二十七十五號

判文(竊盜)明治十六年八月廿二日上告
同十七年十一月廿九日發付

三重縣伊賀國名張郡長屋村平民
農

藤 永 乙 松

明治十六年八月

二十九年九月

明治十六年八月二日上野治安裁判所ニ開キタル安濃津輕罪裁判所ニ於テ右藤永乙松ガ被告事件ヲ審判シ被告人ハ竊盜ヲ爲サン爲メ實兄辻村彦造方ノ稻小屋ニ忍入り其事ヲ行ハサル前ニ取押ヘラレタル者ニシテ右ハ未ダ其目的タル物件ニ手ヲ下サル前ニ在テ發露シタル者ナレハ刑法上管理ス可キ限リニ非ラサルヲ以テ刑法第二條ニ照シ其所爲ヲ罰セスト言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ原裁判所檢察官三重縣警部堀萬興ハ上告ヲ爲シタリ其要領被告入ハ其實兄方ヘ忍入り盜業ヲ爲サント欲シタルニ誤テ物ニ躓キ倒レ爲メニ取押ヘラレタル者ニシテ即チ意外ノ障礙ニ因リ未ダ遂ケサル者ナレハ竊盜未遂犯ナルコト明瞭ナルニ原裁判官カ其所爲ヲ罰セスト言渡セシハ擬律ノ錯誤ナリ假ニ其所爲ヲシテ竊盜未遂ニ至ラサル者トスルモ夜間故ナク他人ノ家宅内ニ入りタル罪ヲ免カレサルモノナリト云フニ在リ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルニ
原裁判言渡書ニ記載スル事實ニ依ルニ被告人ハ竊盜ヲ爲スノ意思ヲ以テ其實兄宅ニ忍ヒ入リタルモ適マ躓倒レ爲メニ家内ノ覺知スル所トナリ遂ニ取押ヘラレタル者ナルコトハ明瞭ニシテ即チ竊盜ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ト謂ハサルヲ得ス然ルニ原裁判官ハ此事實ヲ認メナカラ未ダ物件ニ手ヲ附ケサル前ニ發露シタルニ因リ犯罪ノ構造セサル者ト斷定シタルハ上告論旨ノ如ク擬律錯誤ノ裁判ニシテ破毀ノ原由アルモノトス依テ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ裁判言渡シヲ爲スノ左ノ如シ

藤 永 乙 松

原裁判言渡書ニ明示シタル事實ニ依リ被告人ハ竊盜ヲ爲サントシテ未タ遂ケサル者ト確
認ス其所爲ハ刑法第三百六十六條ニ該當スルモ未遂犯ナルヲ以テ同第三百七十五條同第
百十二條ニ照シ本刑ニ二等ヲ減シ一月以上二年以下ノ範圍内ニ於テ一月ノ重禁錮ニ處シ
仍ホ同第三百七十六條ニ從ヒ監視六月ニ付スル者也

○第四千二百七十六號

判文(竊盜) 明治十七年二月廿五日上告
同 年十一月廿九日發付

愛媛縣伊豫國温泉郡末廣町平民
陶器燒繼工當時同町平民森佐七
方同居

宮内 孝八

明治十七年二月

三十二年生月不詳

明治十七年二月二日佐伯治安裁判所ニ開キタル大分輕罪裁判所ニ於テ右宮内孝八カ竊盜被
告事件ヲ審理シ刑法第三百六十八條同第三百六十七條同第三百七十六條ニ依リ重禁錮一年
半ニ處シ監視一年ヲ附加ス旨言渡シタル裁判ニ對シ被告人孝八カ上告ヲ爲シタル要領ハ原裁
判官ノ採用セラレシ巡查ノ告發書被害者ノ告訴狀等ハ皆各自ノ利益ヲ計リタルニ出テタル
モノニシテ固ヨリ被告人犯證ト爲スニ足ラス且ツ贓物ノ被告カ手ニ存在スルハ大内政次郎
ヨリ買得シタルニ係リ決シテ竊取シタルモノニ非ラサルニ原裁判官ニ於テ前記ノ刑ニ處セ
ラレタルハ不法ナリト云フニ在リ

同裁判所檢察官矢部太一郎ハ上告論旨ハ其理由ナキ旨答辯セリ

茲ニ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ公式ヲ履行シ判決スルヲ左ノ如シ
抑モ公判言渡シニ對シ上告ヲ爲サント欲スルモノハ治罪法第四百十四條ノ規定ニ從ヒ其言
渡シアリタルヨリ三日ノ期限内ニ之レカ申立ヲ爲サハル可カラズ然ルニ今ヤ本案裁判言渡
シハ明治十七年二月二日ニ在リテ而シテ被告カ上告申立ヲ爲シタルハ同月八日ナルトキハ
即チ右ノ期限ヲ經過シタルモノニシテ且ツ特別ノ場合アルニモ非ラサレハ治罪法第二十條
ノ制裁ニ依リ既ニ上訴ノ權ヲ失フタルモノナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄
却スルモノ也

○第四千二百七十七號

判文(竊竊) 明治十七年四月廿一日上告
同 年十一月廿九日發付

宮城縣陸前國仙臺區南材木町小
林仁右衛門方同居平民

島山 均八郎

明治十七年三月

二十三年

同縣同國名取郡岩沼本郷字南町
平民

横山 末次郎

明治十七年三月

二十三年十月

八六五

明治十七年三月二十七日仙臺輕罪裁判所ニ於テ被告均八郎ハ小林仁右衛門宅見世口ノ鎖鑰ヲ被告末次郎ニ開カセ置キ其便利ニ由テ直チニ忍入箆筒ノ引出ヨリ金貳百四拾壹圓四拾八錢風呂敷包ノ儘竊取シタル者被告末次郎ハ均八郎カ小林仁右衛門方ニ忍入金員竊取スルノ起念アルヲ豫知シテ密カニ見世口ノ鎖鑰ヲ開キ置キ其便利ヲ與ヘテ均八郎ノ犯罪ヲ容易ナラシメタル者ト事實ヲ認定シ均八郎ヲ刑法第三百六十八條同第三百六十七條ニ依リ重禁錮一年ニ處シ末次郎ヲ刑法第九條第七十條ニ依リ同第三百六十七條ノ刑期ヨリ一等ヲ輕減シ重禁錮九月ニ處シ尙ホ被告二名ヲ刑法第三百七十六條ニ依リ各監視六月ニ付スル旨各自ニ裁判言渡シテ爲シタリ被告二名ハ右裁判ヲ不當ナリトシ上告セリ其趣旨ハ各數條ニ別テ開陳スレバ其要點ヲ節約セハ均八郎ニ於テハ小林仁右衛門ト財產共通ナレハ仁右衛門ノ財產ヲ持出スモ自己ノ財產ヲ持出シタルト同様ナレハ竊盜罪ニ非ラスト云ヒ末次郎ニ於テハ事實均八郎ノ犯罪ヲ幫助シタルニ非ラサレハ更ニ從犯トナルコトナシ且警察署ノ口供ハ脅迫ニ因リ成立セルモノナリト云フニ在リ

原裁判所檢事補阿部克己ハ原裁判適法ニシテ上告ノ理由ナキ旨ヲ答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ

凡ソ諸般ノ證據ヲ採擇シテ事實ヲ判定スルハ治罪法第四百十六條末項ノ如ク一ニ承審官ニ任從スル所ナリ故ニ此認定上越權等不法ノ點アラサル限リハ本院ノ監査スヘキ所ニアラス今本案被告等カ竊盜罪ヲ犯シタルコトナシト云フカ如キハ即チ事實ノ判定ニ不服ヲ訴フルニ過キサレハ治罪法第四百十條ニ定メタル上告ノ原由ニ適當セサルモノトス又警察署ノ調書

ハ脅迫ニ成立セルモノナリト云フト雖モ警察署ニ斯ル不正ノ所置アルヘキ謂レナキノミナラス原裁判ハ單ニ警察署ノ調書ニ據リタルニ非ラス其判文ニ明示スル一切ノ證據ニ據テ判定シタルモノナレハ是又上告ノ理由ナキモノトス因テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本案上告ヲ棄却スル者也

○第四千二百七十八號

判文(竊盜) 明治十六年十月廿六日上告
同 十七年十一月廿九日發付

和歌山縣紀伊國西牟婁郡田邊字
花畑平民人力車曳業

佐々木竹藏

明治十六年九月
二十五年

右竹藏カ被告事件ニ付明治十六年九月十四日和歌山輕罪裁判所ニ於テ審理ノ末人ノ所有物ヲ拐帶シタル事實ナリト認メ刑法第三百九十五條同第三百九十條第三百九十四條ニ依リ四月ノ重禁錮ニ處シ四圓ノ罰金七月ノ監視ヲ附加スト言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ檢事補北川信從カ上告スル要領ハ本件被告人カ乘車シタル車夫岸九左衛門ヲシテ姓不詳千太郎ナル者ヲ呼ヒ來リ吳レト他所ニ遣シ其虛ニ乘シ人力車ヲ持去リタルハ原判文ニ明認シタル事實ニシテ即チ竊盜ノ所爲ニテ其車夫ヲ他ニ遣シタルハ盜業ヲ容易ナラシムルノ一手段ニ過キサルナリ之ヲ例セハ某家ニ於テ竊盜ヲナサントシテ近隣火ヲ失セリト疾呼シ家人ヲ騷擾シ其虛ニ乘シテ物品ヲ竊取スルト何ソソ擇バン夫レ詐欺取財及ヒ拐帶ノ加キハ騙瞞欺罔其

他ノ方畧ヲ設ケ人ナシテ其術策ニ陥リ財物ヲ己レニ取り又ハ授與セシムル等皆事主ノ承諾ヲ得タル所爲ナリ決シテ本件ノ如キ事實ニアラス然ルニ原裁判所ハ其竊盜ヲナスノ一手段ニ眩惑セラレ刑法第三百九十五條ニ依リタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト破毀ヲ要求セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルニ

上告ノ理由トスル所竊盜ノ事實ナルニ詐欺取財ヲ以テ論シタルハ不法ナリト云フニアリト雖モ原裁判所カ法律上特任セラレタル職權ヲ以テ各箇ノ證據ニ因リ認定シタル事實ニ對シ徒ラニ竊盜ノ所爲ナリト論辯シ事實ヲ左右セントスルニ過キサレハ治罪法第四百十條各項ニ定メタル上告ノ理由トナスヲ得ス因テ上告ノ趣旨相立タサルモノト判定ス

以上ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スル者也

○第四千二百七十九號

判文〔山林盜伐〕明治十六年八月廿二日上告
同 十七年十一月廿九日發付

三重縣伊勢國度會郡山田二俣町
平民

荻田 喜藏

明治十六年七月二十五日安濃津輕罪裁判所山田支應會議局ニ於テ右荻田喜藏カ原豫審終結言渡シニ對スル故障申立ヲ受理シ審理ノ末證人寺添新之丞坂口千代吉大西吉右衛門上村安兵衛等ノ證言及ヒ豫審中喜藏ヨリ新之丞へ更ニ代金三拾三圓ヲ付與シ私和シタル等ノ事跡ニ徵シ證據充分ナルヲ以テ豫審官ニ於テ該被告事件ヲ盜伐ナリト終結セシハ適當ノ處分ナ

リトシ故障ノ申立テ相立タサル旨判決ヲナシタリ荻田喜藏ハ右ノ判決ニ服セス上告ヲナシタル要旨ハ被告ハ始メ寺添新之丞ヨリ宇小橋谷山ニ成立スル樅木三百本ヲ買受ケ伐木ニ着手セシ處本數不足スルニ付尙新之丞立會談判ノ末隣山大橋谷山ニ成立シテ木地ニ使用シ得ヘキ樅木ヲ悉皆伐採スヘキヲ約諾シ其契約ヲ履行シタル者ナレハ盜伐シタル者ニ非ラス而シテ當時右追約書ヲ認メ新之丞カ實印携帶セサリシヲ以テ追テ調印交付スヘキ約定ニテ爾後等閑ニ付シ右調印ノ證書ヲ受取置カサレ其副本壹通ヲ所持スルヲ以テ事實ヲ證明スルニ足レリ然ルニ被告カ豫審中告訴代人ノ甘言ニ陥リ金三拾三圓ヲ送付シ私和シタル事跡ヲ以テ盜伐ノ罪證ナリトシ原豫審終結ノ言渡シヲ認可シタルハ不當ナリト云フニ在リ

對手人檢察官原裁判所檢事鶴岡隆ハ原判決相當ニシテ上告ノ理由ナキ旨答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事加納久宜ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

證據ヲ採擇シ事實ヲ認定スルハ原裁判官ノ特權ニシテ越權其他法律ニ背キタル處分アルニ非ラサル限リハ他ノ左右シ得ヘキ者ニ非ラス本案ノ如キ各證人ノ陳述豫審中被告ヨリ新之丞ニ更ニ代金三拾三圓ヲ付與シ私和シタル等ノ事跡ニ徵シ事實ヲ認定シ原豫審終結ヲ認可シタル者ニシテ毫モ不法トスル廉アルコトヲ被告上告ノ要旨ハ徒ラニ原判官ノ職權内ニ侵入シ事實ノ判定ヲ左右セント試ルニ過キササル者ニシテ治罪法第四百十條各項ニ定メタル上告ノ理由ナキ者トス因テ同法第四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スル者ナリ

○第四千二百八十號

判文〔山林盜伐〕明治十七年二月一日上告
同 年十一月廿九日發付

大坂府和泉國南郡三松村平民

南市松

明治十六年五月二十歲一月生

同府同國同郡同村平民

奥野奥太夫

明治十六年五月二十五歲二月生

同府同國同郡同村平民

南甚平

明治十六年五月三十一歲三月生

同府同國同郡同村平民

岸上鶴松

明治十六年五月廿五歲十一月生

同府同國同郡同村平民

西坂與三次

明治十六年五月三十二歲十月生

同府同國同郡同村平民

田畑榮次郎

明治十六年五月二十九歲生月不知

同府同國同郡同村平民

田端八助

明治十六年五月三十八歲六月生

同府同國同郡同村平民

南太左衛門

明治十六年五月二十歲七月生

同府同國同郡同村平民

杉村南左衛門

明治十六年五月二十六歲六月生

同府同國同郡同村平民

杉村乙吉

明治十六年五月二十歲二月生

同府同國同郡同村平民

岸本龜松

明治十六年五月二十四歲一月生

同府同國同郡同村平民

安倍忠雄

明治十六年五月三十二歲七月生
八七一

同府同國同郡同村平民

元山 仙太郎
明治十六年五月
十四歲生月不知

同府同國同郡同村平民

西田 六松
明治十六年五月
十四年生月不知

同府同國同郡同村平民

南 辰之助
明治十六年五月
十五歲十月生

同府同國同郡同村平民

中野 久左衛門
明治十六年五月
二十六歲生月不知

同府同國同郡同村平民

中野 五郎松
明治十六年五月
十四歲六月生

同府同國同郡同村平民

田所 寅松
明治十六年五月
十七歲九月生

同府同國同郡同村平民

本田 寅吉
明治十六年五月
十七歲六月生

同府同國同郡同村平民

奥野 吉兵衛
明治十六年五月
五十一歲六月生

同府同國同郡同村平民

南 秀太郎
明治十六年五月
二十八歲七月生

同府同國同郡同村平民

本田 久右衛門
明治十六年五月
五十六歲六月生

同府同國同郡同村平民

南 糸右衛門
明治十六年五月
五十六歲一月生

同府同國同郡清兒村平民

西 九郎平
明治十六年五月
五十歲十月生
八七三

同府同國同郡同村平民

行 伊三郎
明治十六年五月
三十四歲七月生

同府同國同郡同村平民

鹿野 佐次郎
明治十六年五月
三十四歲六月生

同府同國同郡同村平民

行 徳左衛門
明治十六年五月
四十三歲十一月生

同府同國同郡同村平民

行 彌右衛門
明治十六年五月
三十八歲生月不知

同府同國同郡同村平民

加納 源太夫
明治十六年五月
三十七歲五月生

同府同國同郡同村平民

北野 力藏
明治十六年五月
三十九歲七月生

同府同國同郡同村平民

藤井 佐一郎
明治十六年五月
四十一歲八月生

同府同國同郡同村平民

吉岡 岡次郎
明治十六年五月
二十七歲三月生

同府同國同郡同村平民

高井 爲次郎
明治十六年五月
五十歲六月生

同府同國同郡同村平民

南 重左衛門
明治十六年五月
四十九歲生月不知

同府同國同郡同村平民

行 安右衛門
明治十六年五月
四十一歲生月不知

同府同國同郡同村平民

田中 伊左衛門
明治十六年五月
二十六歲八月生

八七五

同府同國同郡同村平民

八七六

行

安兵衛

同府同國同郡同村平民

明治十六年五月
三十一歲生月不知

田中

磯兵衛

同府同國同郡同村平民

明治十六年五月
五十歲八月生

奧田

六左衛門

同府同國同郡同村平民

明治十六年五月
十八歲生月不知

行

武右衛門

同府同國同郡同村平民

明治十六年五月
十四歲生月不知

行

政右衛門

同府同國同郡同村平民

明治十六年五月
三十五歲生月不知

高井

文右衛門

明治十六年五月
四十五歲四月生

同府同國同郡同村平民

黒川

伊平

同府同國同郡同村平民

明治十六年五月
四十歲十二月生

專野

興右衛門

同府同國同郡名越村平民

明治十六年五月
四十歲生月不知

古谷

久次郎

同府同國同郡同村平民

明治十六年五月
三十三歲五月生

川岸

重右衛門

同府同國同郡同村平民

明治十六年五月
三十九歲生月不知

三宅

伊左衛門

同府同國同郡同村平民

明治十六年五月
五十歲八月生

溝口

喜平

明治十六年五月
十九歲生月不知
八七七

同府同國同郡同村平民

川岸 小三郎

同府同國同郡同村平民 明治十六年五月 二十四歲生月不知

三宅 六右衛門

同府同國同郡同村平民 明治十六年五月 三十五歲八月生

古谷 爲次郎

同府同國同郡同村平民 明治十六年五月 三十四歲七月生

南 半右衛門

同府同國同郡同村平民 明治十六年五月 二十二歲生月不知

南 若右衛門

同府同國同郡同村平民 明治十六年五月 三十六歲十一月生

川岸 伊右衛門

同府同國同郡同村平民 明治十六年五月 三十四歲八月生

同府同國同郡同村平民

前島 淺次郎

同府同國同郡同村平民 明治十六年五月 二十歲生月不知

川岸 太右衛門

同府同國同郡同村平民 明治十六年五月 三十歲生月不知

川岸 德松

同府同國同郡同村平民 明治十六年五月 九歲生月不知

古家 田久吉

同府同國同郡同村平民 明治十六年五月 十六歲生月不知

櫛 巳之藏

同府同國同郡同村平民 明治十六年五月 十四歲生月不知

三宅 音吉

同府同國同郡同村平民 明治十六年五月 十四歲生月不知 八七九

同府同國同郡同村平民

塔筋力松

同府同國同郡同村平民

古家鶴松

同府同國同郡同村平民

石橋磯次郎

同府同國同郡同村平民

三宅竹松

同府同國同郡同村平民

古家國貞

同府同國同郡同村平民

寺岡安次郎

明治十六年五月
十六歲生月不知

同府同國同郡同村平民

三宅作右衛門

同府同國同郡同村平民

南茂右衛門

同府同國同郡水間村平民

山本藤助

同府同國同郡同村平民

山本勝藏

同府同國同郡同村平民

山本榮次郎

同府同國同郡同村平民

山本兵四郎

明治十六年五月
三十九歲五月生
八八一

同府同國同郡同村平民

山本新次郎
明治十六年五月

同府同國同郡同村平民

古家安吉
二十八歲十二月生

同府同國同郡同村平民

山本音右衛門
明治十六年五月

同府同國同郡同村平民

山本楠右衛門
二十歲生月不知

同府同國同郡同村平民

山本權右衛門
明治十六年五月

同府同國同郡同村平民

山本權右衛門
三十歲三月生

本田七郎右衛門
明治十六年五月

同府同國同郡同村平民

山本新六
十九歲七月生

同府同國同郡同村平民

山本乙次郎
明治十六年五月

同府同國同郡同村平民

山本權左衛門
二十二歲一月生

同府同國同郡同村平民

山本權左衛門
二十五歲生月不知

同府同國同郡同村平民

石橋小三
明治十六年五月

同府同國同郡同村平民

金谷嘉平次
二十九歲八月生

同府同國同郡同村平民

山本藤七
明治十六年五月

山本藤七
三十四歲一月生

山本藤七
八八三

同府同國同郡同村平民

八八四

山本千太郎

明治十六年五月十三歲生月不知

小北安太郎

明治十六年五月十七歲二月生

山本勘松

明治十六年五月十九歲生月不知

小北米藏

明治十六年五月十四歲八月生

同府同國日根郡信達村平民當時

同府同國南郡水間村椀谷惣平雇人

氏不詳末吉
明治十六年五月十一歲生月不知

山本由松

同府同國同郡同村平民
明治十六年五月十五歲十月生

中野彌吉

同府同國同郡同村平民
明治十六年五月十八歲一月生

山本市太郎

同府同國同郡同村平民
明治十六年五月十八歲二月生

山本岩吉

同府同國同郡同村平民
明治十六年五月十六歲七月生

小北梅吉

同府同國同郡同村平民
明治十六年五月十五歲三月生

中谷吉松

同府同國同郡同村平民
明治十六年五月十二歲生月不知

八八五

樽谷 龜太郎 明治十六年五月十八歲一月生

同府同國同郡同村平民

山本 庄右衛門 明治十六年五月二十八歲一月生

同府同國同郡同村平民

山本 新六 明治十六年五月十九歲生月不知

同府同國同郡同村平民

川崎 茂市 明治十六年五月五十歲十一月生

同府同國同郡中村平民

南 六右衛門 明治十六年五月五十七歲十一月生

同府同國同郡同村平民

西上 梅太郎 明治十六年五月二十二歲十月生

同府同國同郡同村平民

山田 若太夫 明治十六年五月三十二歲八月生

同府同國同郡同村平民

西畑 德平 明治十六年五月二十一歲二月生

同府同國同郡同村平民

竹田 五郎兵衛 明治十六年五月三十一歲六月生

同府同國同郡同村平民

田中 豐松 明治十六年五月二十三歲二月生

同府同國同郡同村平民

永橋 紋治 明治十六年五月六十三歲十月生

同府同國同郡同村平民

根來 米松 明治十六年五月二十二歲生月不知

同府同國同郡半田村平民

林

藤吉

明治十六年五月二十五歲八月生

同府同國同郡同村平民

麻生

川藤兵衛

明治十六年五月三十二歲生月不知

右南市松外百八名カ被告事件罪ト爲ル可キ所爲ニ非サルヲ以テ免訴ストノ豫審終結言渡シ
 ナ不當ナリトシ民事原告人川崎磯八外十六名代人馬場恒基ヨリ申立テタル故障ニ對シ明治
 十六年十一月九日大阪輕罪裁判所會議局ニ於テ故障ノ主點ハ豫審判事カ該事件ノ被告人ハ
 無罪ナリト認メタル理由ノ不服ヲ鳴ラズニ止マリ越權ノ處分ト認ムヘキ處ナキ者トシ該豫
 審言渡シヲ認可ストノ判決ヲ爲シタリ右馬場恒基ハ其判決ヲ不法ナリトシ上告シタル要領
 タルヤ豫審判事ハ明治七年一月二十五日付ノ契約書及原被告カ證據トシテ提出シタル境界
 標ノアルニモ拘ハラス論山全部ヘ被告等カ入會スルノ權利アル者トナシタルハ雙方ノ契約
 ナ破リ被告一方ヘ偏頗ノ利益ヲ與ヘタルモノニ付越權ノ處分ニ之レアルナリ然ルニ會議局
 ハ其契約書ノ事實及ヒ標杭ノ原由等ヲ審究セズ漫ニ豫審終結ノ言渡シヲ認可シタリ抑モ會
 議局ハ豫審ノ控訴ヲ審判スヘキ處ニシテ猶公判ノ控訴ニ於ケルト一般事實及ヒ法律ニ關シ
 總テ覆審ヲ要スル所タレハ充分其事實ニ立入り審究スヘキ責任アルモノナリ今被告等ハ全
 山ニ立入ルノ權利ナク又其名越村人民ノ如キバ一切立入ルヲ能ハサルモノナリトノ趣意ヲ
 以テ故障ヲ爲シタレハ會議局ハ該契約書及ヒ標杭ノ果シテ被告等カ全部入會スルノ權利ナ

ク又名越村人民ハ一切立入ルヲ能ハサルヤ否ヤヲ覆審研究シ而シテ其理由ヲ付シ判決ヲ與
 フヘキ筈ナルニ之レニ論及セズシテ輒スシ判決シタルハ治罪法第四百十條第九項ノ原由ア
 ルヲ以テ破毀ヲ求ムト云フニ在リ

被告總代人古屋爲次郎ハ上告者カ盜伐抔トノ不實ノ告訴セシ山地ハ上告者タル三ヶ村人民
 ノ我カ十五ヶ村人民トノ間ニ所有權ヲ爭ヒ目下大坂控訴裁判所ニ於テ審理中ナレハ該裁判
 ニ據リ本件私訴曲直ノ如何ハ判明スヘキニ付本案上告ハ棄却アラソク願フ旨答辯ヲ爲シ
 タリ

本院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルニ本案ハ原裁判官カ
 正當ノ職權ニ從ヒ諸般ノ證據ヲ蒐集シ被告事件罪ト爲ルヘキ所爲ニ非ラスト既ニ其事實ヲ
 認メ免訴ノ言渡シヲ爲シタルモノナレハ以テ越權ノ處分ト爲ステ得ストナレハ事實ノ
 判定ハ法律上原裁判官ニ任從スル所ノ者ナレハナリ故ニ該上告ハ治罪法第四百十條第九項
 ハ勿論其他各項ニモ適當セサルヲ以テ同第四百二十七條ニ依リ之ヲ棄却スルモノナリ

○第四千二百八十一號

判文〔持兇器強盜〕同 明治十七年三月十二日上告 年十一月廿九日發付

廣島縣安藝國山縣郡海應寺村平 民農

堂

原喜三郎

明治十七年二月 四十八年十一月 八八九

同縣同國同郡大朝村平民農

龜田文助

明治十七年二月

四十五年

右喜三郎外一名カ被告事件ニ付明治十七年二月十三日廣島重罪裁判所ニ於テ被告喜三郎ハ共犯人中野喜代助等ト拔刀ヲ攜帶シ淺枝諦善ヲ脅迫シ金員ヲ強取シ又ハ強盜ノ贓物タル情ヲ知テ之レヲ寄藏シ文助ハ前原爲三郎外二名へ持兇器強盜ヲ誘導指示シテ俱ニ之レヲ犯シ又ハ監視規則ヲ犯シタルモノトシ喜三郎ノ所爲ハ刑法第三百七十八條同第三百七十九條第一項第二項同第四百四條及ヒ第三百九十九條ニ依リ再犯ナルヲ以テ同第九十二條ニ照シ一等ヲ加ヘ數罪ナルヲ以テ同第百條ニ依リ一ノ重キニ從ヒ有期徒刑十三年ニ處シ文助ノ所爲ハ同第三百七十八條同第三百七十九條第一第二項同第百九條及ヒ第百五十五條ニ該ル數罪ナルヲ以テ同第百條ニ依リ一ノ重キニ從ヒ重懲役九年ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ上告ヲ爲シタル喜三郎ノ要旨ハ強盜ヲ爲シタルヲナク佐々木實右衛門ニ於テ遺恨ヲ含ミ之ヲ晴サシカ爲メ且巡查ノ強訊ニ依リ申立タルモノニシテ其實右衛門カ公判廷ニ於テ是迄ノ申立ノ非ナルヲ悟リ上告人ハ共犯ニ非ラスト信實ノ申立ヲ爲シタリ又豫審終結言渡シニハ蠟燭ヲ照ラシ云々トアルモ公判言渡書ニハ瞭望シタルモノトセラレタリ是レ其無實ノ事ナルヨリ如斯齟齬ヲ來スハ自然ナリ然ルニ之レヲ強盜ノ共犯ナリト認定セシモ其事實理由ヲ明示セサル耳ナラス證據物件ヲ閱シ云々トアリテ如何ナルモノヲ證據トセラレタルヤ之ヲ明示セサルハ治罪法第三百四條ニ背キタル不法ノ裁判ニシテ同第四百十條第九項ニ該ルモノナリ

ト云フニアリ文助ノ要旨ハ強盜ヲ爲スヘキ犯所ヲ指示セシコナキニ實右衛門カ故意ヲ以テ爲シタル申立又ハ藤田豊三郎カ遺恨ヲ以テ陷害セントスルノ意ニ出テ之レヲ指示シタルカ如ク申立タルモ後之レカ非ナルヲ悟リ變更シタルニ前キノ申立耳ヲ偏信シタルハ事實理由ノ齟齬セシモノニシテ同第四百十條第九項ニ適スル不法ノ裁判ナリ將々中野喜代助外一名ハ監倉遁走ノ囚徒ナルヲ知テ藏匿セシテ是迄包藏シタルモ到底免カルヘカラサルヲ以テ吐露スト云フニアリ

原檢察官ハ尙レモ上告ノ理由ナキ旨答辯セリ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行スルニ代言人瀧澤信次郎ハ喜三郎ノ所爲ヲ強盜共犯ナリト認定セラレタルモ警察署及ヒ豫審調書等ヲ見ルニ何レニ依リタルモノカ之レヲ知ルニ由ナク而シテ公判廷ニ於テ喜代助其他ノ者ニ於テ前キノ申立ヲ變更シアレハ其豫審及ヒ公判ノ申立ハ何レカ信實ナルカ其事實ノ有無ヲ認定スヘキモノナルニ其據ル所即チ事實ノ理由ヲ明示セサルハ治罪法第四百十條第九項ニ適スル裁判ナリ又文助ニ對スル原裁判言渡書ヲ觀ルニ犯罪ヲ誘導指示シタルモノ、刑ニ處シタルモ其事實ヲ明示セス偶マ被告爲三郎喜代助實右衛門ハ明治十六年七月十一日午後十二時頃被告文助ヨリ犯所ヲ指示セラレ云々トアレハ喜代助等ニ對スル事實ノ理由トナルモ文助ニ對スル事實ノ理由ト云フヲ得ス然ラハ何ニ依リテ之レヲ認定セシカ其事實ナキモノヲ認定シ不能モノナレハ即チ其理由ヲ具備セサルニアル耳ナラス證據ヲ明示セサルモノナレハ同法第四百十條第九項ニ該ル不當ノ裁判ナルヲ以テ破毀ノ原由アルモノナリト云フニアリ

立會檢事加納久宜ハ上告趣旨及ヒ代言人陳述共ニ適法ノ原由トスルニ足ラサレハ棄却スヘキモノナリト陳述セリ因テ之レヲ判決スル左ノ如シ

被告喜三郎カ上告ノ論旨ハ要スルニ強盜共犯ノ所爲アルナシ然ルチ強盜共犯ナリト認定セラレタルモ原判文ニ其事實理由ヲ明示セサル耳ナラス證據物件ヲ閱シトアルモ如何ナル證據ニ依リタルカ之ヲ明示セザリシハ不法ナリト云フニ在レモ原告前項ニ被告前項爲三郎外四名ニ對スル事件ニ付證據物件ヲ閱シ檢察官ノ陳述相當官吏ノ作リタル調書ノ朗讀被告等ノ自白答辯辯護人ノ辯論ヲ聽キトアリテ後項ニ淺枝諦善方ニ到リ喜三郎實右衛門ハ瞭望シ爲三郎喜代助ハ拔刀ニテ家人ヲ威シ金八拾錢ヲ強取シ云々トアルヲ以テ視レハ原告官カ衆證ニ依リタルハ明白ニシテ事實ノ理由ヲモ示シアルコト充分ナリトス被告文助上告ノ要旨ハ犯罪人藏匿ノ所爲ハ免カルヘカラサルモ被告實右衛門外二名ヘ犯所指示セシコトナキニ右實右衛門等カ一應故意ヲ以テ申立タル廉ノミチ偏信シ犯所ヲ指示シ共犯ノ刑ニ處セラレタルハ不當ナリト云ヒ代言人ニ於テ其論旨ヲ擴張シ且判決文中被告爲三郎喜代助實右衛門ハ明治十六年七月十一日午後十二時頃被告文助ヨリ犯所ヲ指示セラレ云々トアルハ爲三郎等ニ對スル事實ノ理由ニシテ文助ニ對スル事實ノ理由トナスヲ得ス加フルニ證據ヲ明示セサルハ不法ナリト云フト雖モ代言人云フ如ク該判文中被告爲三郎喜代助實右衛門ハ云々被告文助ヨリ犯所ヲ指示セラレ安藝國山縣郡高野村下手岩吉方ニ到リ實右衛門ニ瞭望セシメ爲三郎喜代助ハ刀ヲ拔キ家人ヲ縛シ金五拾錢衣類物品拾五點ヲ強取シタルコトアルハ矢張被告文助ヨリ爲三郎喜代助實右衛門ヘ犯所ヲ指示シ四名共犯ノ事實理由ヲ併セ示シタル文

意ニシテ強チ爲三郎喜代助實右衛門耳ニ對スル事實理由ト云フヲ得ス又證據ヲ明示セスト云フモ原判文ノ前項ニ被告前項爲三郎外四名ニ對スル事件ニ付證據物件ヲ閱シ檢察官ノ陳述相當官吏ノ作リタル調書ノ朗讀被告等ノ自白答辯辯護人ノ辯論ヲ聽キ云々トアルヲ以テ證據ヲ舉示シアルコト充分ナリトス將タ犯罪人藏匿ノ點ハ原裁判所ニ於テ未ダ以テ認メサル事件ナレハ之ヲ採用スルニ由ナキモノトス其他ノ論點ハ裁判官ノ職權内ニ侵入シ事實判定ノ當否ヲ批難スルニ過キサレハ到底一モ上告ノ理由ナキモノトス因テ治罪法第四百二十七條ノ規則ニ從ヒ本案上告ヲ棄却スル者也

○第四千二百八十二號

判文〔持兇器強盜〕明治十六年十二月廿五日上告
同 十七年十一月廿九日發付

兵庫縣下八部郡駒ヶ村森四郎兵
衛方同居平民船乘業

杉岡清吉

明治十七年十一月

二十二年六月

明治十六年十一月廿七日京都重罪裁判所ニ於テ右杉岡清吉カ持兇器強盜及ヒ屬籍氏名詐稱被告事件ヲ審理シ刑法第三百七十八條同第三百七十九條同第六十七條同第二百三十一條ニ該ル數罪俱發スルヲ以テ同第三百條ニ照シ一ノ重キ強盜罪ニ從ヒ有期徒刑ニ處スヘキ所原諒スヘキ情狀アルヲ以テ同第八十九條同第九十條ニ照シ一等ヲ輕減シ十年ノ重懲役ニ處ス旨言渡シタル裁判ニ對シ被告清吉カ上告ヲ爲シタル要領ハ被告ニ於テハ明治十五年八月五日

ハ京都ニアラスシテ大坂ニ在リ又八月九日午前第二時頃ハ醉臥中ナルヲ以テ強盜ノ所爲アルヲナシ將タ屬籍氏名ヲ詐稱シタルハ一時ノ姑息心ニ出テタルモノニシテ別ニ惡意アリタルニ非ラス然ルニ原裁判官ニ於テ前記ノ刑ニ處セラレタルハ不當ナリト云フニ在リ
原裁判所檢事補鶴田朝ハ上告論旨ハ其理由ナキ旨答辯セリ
茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ代言人下村四郎ノ陳述并ニ立會檢事池上三郎ノ意見ヲ聽キ判決スルヲ左ノ如シ

抑モ事實ノ認定ハ法律上原裁判官ニ特任スル所ナレハ他ヨリ敢テ之ヲ非難スルヲ得サルモノトス然ルニ本案上告論旨タル唯單ニ原裁判官ノ職權内ニ侵入シテ其事實ノ判定ヲ論難シ以テ之ヲ動カサントスルニ過キスシテ一モ治罪法第四百十條各項目ニ適合スル理由アラサルノミナラス原判文ヲ監査スルニ亦毫モ不法ノ點アルヲナケレハ本案上告ハ相立タサルモノトス依テ同法第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却スルモノナリ

○第四百二十八十三號

判文(強盜殺人) 明治十七年九月十六日上告
同 年十一月廿九日發付

高知縣土佐國高岡郡橋原村平民
農

前田 幾一郎

明治十七年七月
三十九年七月

同縣同國幡多郡烏村平民農

中 平 與 市

明治十七年七月
三十年四月

同縣同國同郡大道村平民農

門 脇 津 矢

明治十七年七月
二十八年五月

明治十七年七月四日高知重罪裁判所ニ於テ右被告等カ持兇器強盜其他ノ被告事件ヲ審理シ被告幾一郎與市ハ持兇器強盜人ヲ死ニ致シタル者被告津矢ハ幾一郎等カ持兇器強盜決意後誘導指示ニ止マルモノト事實ヲ認定シ幾一郎ヲ刑法第三百八十條ニ依リ死刑ニ處シ與市ハ原諒スヘキ情狀アルヲ以テ刑法第八十九條第九十條ニ照シ刑法第三百八十條ノ刑ニ一等ヲ減シ同第六十七條ニ從ヒ無期徒刑ニ處シ門脇津矢ヲ刑法第九十條同第三百七十八條同第三百七十九條第一項第二項同第六十七條同第二十二條ニ依照シ重懲役九年ニ處スト裁判言渡シヲ爲シタリ

原裁判所檢事筒井明俊ハ右被告ノ内門脇津矢ニ對スル裁判ヲ不法ナリトシ上告ヲ爲シ被告前田幾一郎中平與市モ各亦其裁判ニ對シ上告セリ檢事筒井明俊上告ノ趣旨ハ一件書類ニ徵スルニ門脇津矢カ發言ニ依リ門脇彦平方ヘ強盜ニ押入ル事ニ決定セシ事實ナレハ持兇器強盜教唆ノ罪タル明白ナルニ原裁判茲ニ出テス從犯トナシ刑法第九十條ニ依リ判決シタルハ越權ノ處分ト云フヘシ擬律ノ錯誤ト云フヘキモノニテ治罪法第四百十條第十項第十一項ニ定メタル理由アル者ナルヲ以テ上告ニ及フト云フニ在リ被告前田幾一郎上告ノ要旨ハ原裁

判言渡書ニハ單ニ被告等カ司法警察官檢察官豫審廷及ヒ本廷ノ調書ニ對シ爲シタル供狀云々證人門脇相藏外三名云々其證憑充分ナリトストアルノミニテ其何々トアルノ陳供ハ本案判定ヲ爲スヘキノ事實理由アリ又其何ノ某カ孰レノ場所ニ於テ何々ト申述セシモノヲ以テ上告人カ如何ナル行爲ヲ證スル事實アリ理由アリト一々其理由ヲ附セラレタル上之ヲ明示シ裁判宣告セラルヘキハ理ノ將ニ然ルヘキモノナルニ其指のナキヲ以テ上告人ハ如何ナル事實證憑ニ依リ之カ充分ナル判定ノ基礎ナルヤ否ハ都テ之ヲ知ルニ由ナシ以上第一第二ノ兩點ハ實ニ緊要ノ條件ナルニ一々其事實證憑ニ理由ヲ付セス僅カニ總體ノ狀況ヲ一括シテ此重大ナル案件ヲ處斷セラレタルハ治罪法第四百十條第九項ニ適合スル不法ノ判決ナリト確信スト云フニ在リ被告中平與市上告ノ主旨ハ與市ハ前田幾一郎梯橋嘉太彌等ト共ニ門脇彦平方ニ於テ持兇器強盜ヲ爲シタル者ニシテ其彦平方夫婦ヲ殺害シタル者ハ前田幾一郎ナリ然シテ與市ニ於テハ其事ニ關與シタル者ニモ非ラス又豫メ殺害ヲ爲サント欲スルノ協議ヲモ爲シタル者ニアラサルヲ各證憑ニ依テ明白ナルニ刑法第三百八十條ヲ適用シ處斷アリシハ不法ナリト云フニ在リ

被告門脇津矢ハ原裁判適當ニシテ檢察官ノ上告ハ其原由ナキ旨ヲ答辯シ檢事筒井明俊ハ前田幾一郎中平與市ノ上告ハ共ニ治罪法第四百十條ノ各項ニ適當ナラサル旨答辯セリ
茲ニ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行シ立會檢事池上三郎ノ意見代言人加藤祚胤ノ辯論ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ
被告前田幾一郎上告要旨ハ原判文ニ被告等カ司法警察官檢察官豫審廷及ヒ本廷ノ調書ニ對

シ爲シタル供狀云々證人門脇相藏外三名云々其證憑充分ナリトアルモ其何々トノ陳述ハ被告ノ犯罪ヲ證スルモノナルヤ一々之レヲ明示セサルハ事實ノ理由ヲ付セサル不法ノ裁判ナリト云フニ在レ其事實理由ハ原判文ニ記載スル如ク必スシモ其陳述中採用スル所チ一々明記セサルモ據テ以テ犯罪ノ事實ヲ知り得タルモノヲ掲クレハ充分ナリトス又中平與市ニ於テハ門脇彦平方夫婦ヲ殺害シタルハ前田幾一郎一人ニシテ與市ハ之ニ關與セスト云フト雖モ現ニ兇器ヲ携ヘ共ニ強盜ヲ犯シタルノミナラス其共犯者ノ一人カ人ヲ殺害シタル以上ハ刑法第三百八十條ノ刑ヲ免レサル者トス其他被告等カ論告スル所ハ要スルニ事實ノ判定ニ不服ヲ訴フルニ過キサレハ一モ治罪法ニ定メタル上告ノ原由ナキモノトス而シテ原檢察官上告ノ要領ハ被告幾一郎等カ彦平方ニ押入り強盜ヲ爲シタルハ被告津矢ノ發言ニ因テ決定シタルモノナレハ津矢ハ即チ其犯罪ノ教唆者ナリト云フニ在レ抑モ教唆者ヲ罰スルニハ其犯罪ノ發意決心實行共其教唆ニ因リタルヲ要ス今ヤ原裁判所カ認メタル事實ニ徴スルニ前田幾一郎カ芝庫次方ニ押入強盜ヲセント發言シ與市嘉太彌祐太郎ハ忽チ同意シタリ然ルニ偶々雪アリ積テ三四尺ニ及フヲ以テ幾一郎カ該地ニ赴クハ頗ル困難ナラント云フ場合被告門脇津矢ニ於テ幡多郡大道村門脇彦平方ハ聞ク所ノ庫次同様ナル貪慾家ニシテ蓄財モ多ク云々同人方ニ押入金圓及ヒ證書類ヲ奪取リテハ如何ト誘勸シタリトアレハ其強盜ノ發意ハ前田幾一郎ニ在リテ津矢ノ言ニ因リタルニアラス要スルニ被告津矢ハ彦平方ニ押入りテハ如何ト衆議ニ問ヒシ迄ニシテ自己ニ於テモ猶ホ決定セサル言ナレハ之ヲ教唆ト云フヲ得サルモノトス因テ原裁判所カ從犯ヲ以テ處分シタルハ允當ノ裁判ナリトス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ本案上告ハ總テ棄却スルモノナリ
○第四千二百八十四號

判文(遺失物取扱規則犯)明治十七年三月廿五日上告
年十一月廿九日發付

福井縣越前國敦賀郡結城町士族
熊太郎弟無職業

熊

谷次郎

明治十七年三月四日敦賀治安裁判所ニ開キタル福井輕罪裁判所ニ於テ右熊谷次郎カ遺失物

ヲ拾得テ官私ニ送ラサル被告事件ヲ審理シ其證憑充分ナラサルヲ以テ治罪法第三百五十八條ニ依リ無罪且放免スト言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ原裁判所檢事代理警部補心得巡查西池重真カ上告ヲ爲シタル要領タルヤ原裁判官ニ於テ犯罪ノ性質如何ヲ審究セス徒ラニ被告カ犯罪ヲ辯護スル申立ノミヲ判文ニ掲載シ而シテ罪トナル可キヤ否ヤノ事實ヲ認メス擅ニ證憑充分ナラストシ如何ナル點ニ依レハ犯罪ノ證憑充分ナラサルヤヲ明示セズ又如何ナル法律ニ依リ無罪ノ判決ヲ爲シタルヤ其理由ヲモ付セサルハ治罪法第四百十條第九項ノ所謂事實及ヒ法律ニ依リ言渡シノ理由ヲ付セサル不法ノ裁判ナルノミナラス本件ノ事實タル被告ハ寺町百太郎ト兩人ニテ壹個物ヲ拾得シ所有主ニ還付セス又官署ニ申告セサル者ナレハ無論刑法第三百八十五條ニ問擬セサルヲ得ス又假リニ被告人ノ陳述ヲ信ナラシムレハ遺失物取扱ヒ規則ニ依リ其手續ヲ爲カ、ル物件タルヲ知テ預リ居リタル者ナルヲ以テ刑

法第四百一條ニ詐欺取財其他ノ犯罪ニ關シタル物件云々トアルニ依リ處斷ス可キモノナルニ原裁判此ニ出テサルハ事實ノ審問ヲ遂ケサル不法ノ裁判ニシテ即チ治罪法第四百十條第十項ニ所謂擬律ノ錯誤ニ出タルモノナリト云フニアリ

對手人被告次郎ハ原裁判言渡シハ允當ニシテ本案上告ハ却テ其理由ナキ旨答辯セリ
茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告并ニ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之レヲ判決スルヲ左ノ如

シ
本案上告ノ趣旨タル原裁判ハ事實及ヒ法律ノ理由ヲ付セス且擬律錯誤ニ出テタリト云フニアレ其歸スル所ハ皆承審官ノ職權内ニ立入り其探證及ヒ事實認定ヲ非難スルモノニ過ラシテ一モ上告ノ原由ト爲スニ足ラサルノミナラス原判文ヲ監査スルニ事實及ヒ法律ノ理由ヲ明示シアリテ毫モ間然スル所ナキヲ以テ同法第四百二十七條ニ從ヒ本案上告ハ之ヲ棄却スルモノ也

○第四千二百八十五號

判文(詐欺取財)明治十七年四月十一日上告
年十一月廿九日發付

京都府下京區第三十一組七軒町
平民

寺田熊吉

明治十七年三月
四十一歲四月生

同府同區第二十七組上堀詰町平

民

九〇〇

中西梅吉

明治十七年三月
三十八歲十一月生

同府同區第二十七組構前町平民

賴兼寅吉

明治十七年三月
四十三歲五月生

右三名カ詐欺取財被告事件ニ付明治十七年三月十八日京都輕罪裁判所ニ於テ刑法第二條ニ依リ三名ハ無罪梅吉寅吉ハ直ニ放免スト言渡シタル裁判ニ對シ同裁判所檢事補谷口重輝カ上告シタル要旨ハ價格ノ低キモノヲ高キ品ト詐リタル事實ヲ認メテ判文ニ掲ケナカラ物質ヲ變セシ等ノ偽計ナシトセシハ言渡シノ理由ノ齟齬スル者ニシテ又之ニ刑ヲ言渡サ、ルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニアリ被告三名ハ之ニ對シ答辯セス大審院ニ於テ專任判事ノ報告并ニ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審察スルニ原判文前段ニ（被告寺田熊吉中西梅吉賴兼寅吉ハ明治十六年三月三十日價格ノ高キ日月星ト稱スル萬年青ニ摸擬シタル價格ノ低キ古今輪ト稱スル萬年青ヲ日月星ト詐言シ服部庄三郎ニ對シ金三百圓ニ賣渡シ尙中西梅吉賴兼寅吉ハ明治十六年十二月五日日前同様ノ萬年青ヲ日月星ト詐言シ中村孫兵衛ノ所持シタル富士原龍縮緬司伊丹司等ト稱スル萬年青三鉢ト交換シタル事實ハ云々其證據充分ナリ云々）ト掲ケ詐欺取財ノ事實ヲ認メナカラ其後段ニハ（其物質ヲ變シ若シハ分量ヲ偽ル等ノ偽計ヲ以テ買主等ヲ欺罔シタル所爲ニ非ラサルヲ以テ詐欺取財ヲ以テ論ス可キ限リニ非ラストス）ト

記載シ詐欺取財ニアラスト判定シタルハ即チ前後ノ理由相齟齬スル裁判ニシテ爲メニ擬律ノ適否如何ヲ監査スルニ由ナシ是即チ治罪法第四百十條第九項ニ適スル破毀ノ原由アルモノニ付同法第四百二十八條ニ法リ之カ全部ヲ破毀シ更ニ至當ノ裁判ヲ受ケシムル爲メ本件ヲ大坂輕罪裁判所ニ移ス者也

○第四百二十八號

判文(詐欺取財) 明治十七年二月一日上告
同 年十一月廿九日發付

山口縣周防國吉敷郡嘉川村住無

職業

伊藤國平

明治十六年十二月
三十三年二月生

右伊藤國平外二名ノ被告事件ニ對シ明治十六年十二月二十日山口輕罪裁判所ニ於テ國平等ハ共謀シテ米金若干ヲ詐取セシモノト認メ刑法第三百九十條第三百九十四條ニ依リ重禁錮一年罰金拾五圓監視六月ニ處スト言渡シタル裁判ヲ不法ナリトシ被告國平ハ上告ヲ爲シタル其要領ハ第一共謀シテ杉本伊八ヲ欺キ金圓ヲ詐取シタル覺エナシ唯伊藤卯之助ノ委任ヲ受ケ代人トシテ貸金請求ヲ爲シタルニ伊八ノ申スニハ此ノ借用證書ハ請人平川團藏等ハ質物并ニ印影ヲ貸與ヘタルモノニシテ自分ノ借用セシモノニ非ラス故ニ右請人ヨリ金子受取リ卯之助方へ返辨致スヘシ様依頼セシニ付其意ニ任セ團藏等ヨリ金三拾五圓ヲ伊八へ返辨致サセ又伊八ノ實印ヲ預リ居タルノ證ヲ取リテ伊八へ相渡シタリ依テ手數料トシテ約定ノ

九〇一

通り伊八ヨリ金子受取タルコアレ正ノ金ヲ取リシニ非ラス第二自分ト進藤桂一ト同腹
シテ桂一ヨリ伊八へ宛タル誤證書ヲ自分火中シタリト云ハル、モ是皆證人等カ不實ノ陳述
ヲ偏信シ證據充分トセラレタルナリ且癸ニ豫審廷ニ於テ證人三名ノ喚問ヲ願置キタルニ採
用セサルハ不當ナルヲ以テ原裁判ハ破毀セラレシコトヲ希フト云フニ在リ
對手人檢事補嶋亮ハ上告ノ趣意タル悉ク事實ニシテ治罪法制限外ナルヲ以テ速ニ棄却ア
ラシコトヲ希望スル旨答辯書ヲ差出シタリ

本院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルニ上告ノ要旨ハ共謀
シテ金圓ヲ詐取シタルコトナシト云フニ過キサレハ原裁判官カ正當ノ職權ニ從ヒ爲シタル事
實ノ判定上ニ立入り其當否ヲ論訴スルニ外ナラスシテ治罪法第四百十條各項ニ定メタル原
由ナキモノトス依テ同法第四百二十七條ニ照シ本件上告ヲ棄却スル者也

○第四百二十八十七號

判文(詐欺取財)明治十六年七月五日上告
同十七年十一月廿九日發付

札幌縣廳振國室蘭郡札幌通平民

雜業

丸山能助

明治十六年六月
二十七年四月生

大坂府東區北久寶寺町三丁目平
民雜業

喜多見利七

明治十六年六月
二十五年七月生

右能助利七カ被告事件ニ付明治十六年六月五日大坂輕罪裁判所ニ於テ審理ノ未被告人等ハ
物品ヲ買取ルト詐リ運搬ノ後虛辯ヲ構ヘ騙取セシ事實アリト認メ刑法第三百九十九條同第三
百九十四條ニ依リ各重禁錮八月ニ處シ罰金三拾圓監視十月ヲ附加スト言渡シタル裁判ヲ不
當ナリトシ上告セリ能助カ上告趣意及辯明書ノ要領ハ物品賣買ハ雙方熟議上ニシテ決シテ
詐取シタルニアラス代價ノ約定期限ニ調ハサルヲ以テ延期ヲ依頼シ承諾ノ上西京へ立越金
策中拘引セラレタリ其出京セルコトハ止宿所龜井昌太郎カ豫審廷ニ於テ上申セシ通無斷ニ立
去リタルニアラサルハ明瞭ナリ而シテ其物品ノ所有權已ニ移リタルハ利七ノ申スニ任セ延
金ニテ讓渡シ證書ヲ取置タリ然ルニ原裁判所ハ推測ヲ以テ共謀シ詐取シタリト斷定シ又豫
審ノ際證人ノ喚問ヲ採用セラレサルヲ以テ公判廷ニ於テ理由ヲ伸暢セン爲メ豫審調書ノ謄
本ヲ請求セルニ之ヲ擯斥シ治罪法ニ背馳シ且ツ利七ト共謀ナリト判定シナカラ私訴辨償ノ
義務ヲ被告一名ニテ負擔スヘシト言渡シ又六月十一日上告趣意書ヲ差出スニ檢事ノ答辯書
ハ同月十八日付ニテ書記局ヨリ同月二十一日送達アリ是規則ニ違背スルヲミナラス同月五
日裁判アリタルヲ答辯書ニ同月八日ト記載シ實ニ輕躁ノ處置ニテ不法ノ裁判ナレハ破毀ヲ
要求スト云フニ在リ利七カ上告趣意及辯明書ノ要領ハ申合セ物品ヲ詐取シタリト判定セラ
レタルモ決シテ共謀シタルニアラス能助ト同行シ岡田悌次郎店先ヲ通行ノ際能助ニ於テ物
品賣買ヲ取組タレトモ被告人ハ其場ニテ立別レ後同人カ止宿所ニ至リ見ルニ物品運搬シテ

賣主居合セ代價ノ日延證ヲ渡ス折柄故其金額ハ承知シタルマテニテ素ヨリ賣主ニアツテ被告へ賣渡サ、ル旨陳述シ共謀セサルヤ明瞭ナルヲ共ニ申合セ詐取シタリト判定セラレタルハ不法ナリ又上告趣意書ヲ六月十一日ニ差出シタルニ檢事ノ答辯書ハ同月二十一日送達アリ斯ク時日ヲ經過スルハ違法ナリ因テ破棄ヲ求ムト云フニ在リ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽クニ被告等カ所爲ハ物品ヲ買受ル約ニテ止宿所へ運搬セシメ後種々虛辯ヲ構ヘ代金ヲ渡サス云々トアリテ其虛辯ハ果シテ詐欺ノ手段トスルニ足ルヘキヤ或ハ一時ノ遁辭ナルヤ是等ノ事實ヲ視ルニ由テ事實理由ヲ附セサル不法ノ裁判ナリ又利七ハ詐欺取財ノ罪ヲ構成スル所爲ニ乏シキモノ、如シ因テ原裁判ノ破毀ヲ求ムト附帶ノ上告ヲ爲シタリ

茲ニ之ヲ審案スルニ

上告ノ趣旨ハ共謀シ物品ヲ詐取シタリトアルモ決シテ共謀詐取シタルニアラス能助ニ於テ熟議上ノ賣買ナリト云ヒ其他論訴スル所アルモ先ツ附帶上告ニ付辯明セシ原裁判言渡書ニ(前)兩人ハ共ニ申合火鉢外拾六品ヲ買取ルト詐リ手附金ヲ渡シ殘金ハ物品引取ノ上渡スヘクト假約シ止宿所マテ運搬セシメ種々虛辯ヲ構ヘ代金ヲ渡サスシテ其物品ヲ引取リ他ニ賣却シ云々)トアリテ其虛辯ハ果シテ詐取スル念慮ニ出テタルモノヤ將タ金調ナラサルヨリ一時猶豫ノ爲メノ遁辭ナルヤ是等ノ意思如何ヲ明示セス且ツ共ニ申合セトアルモ果シテ然ルヤ否ヤ之カ事實理由ヲ明示セサレハ裁判ノ當否ヲ見ルニ由テ治罪法第三百四條ニ違背シ事實理由ノ備ハラサル裁判ナリト判定ス既ニ附帶上告趣旨ニヨリ破毀ノ原由アリト認メ

タレハ他ノ上告趣旨ニ付其辯明ヲ要セス

以上ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ニ依リ原裁判言渡シヲ破棄シ適法ノ裁判ヲ受ケシメン爲メ京都輕罪裁判所へ移スモノ也

○第四千二百八十八號

判文(詐欺取財)明治十六年八月廿八日上告
同 十七年十一月廿九日發付

大分縣豐前國宇佐郡野山村平民

末 松 貞 五 郎

明治十六年八月

三十四年四月

右貞五郎カ詐欺取財ノ被告事件ニ付明治十六年八月三日大分輕罪裁判所中津支廳ニ於テ審理ノ末第一ノ犯罪ハ刑法實施以前ニ在ルヲ以テ刑法第三條ニ依リ新舊法ヲ比照シ輕キ舊法雜犯律不應爲條及名例律犯罪自首條ニ依リ其罪ヲ免スヘキモノトス第二ハ刑法第三百九十三條同第三百九十四條同第三百九十四條同第七十四條ニ照シ本刑ニ一等ヲ減シ一月二十日ノ重禁錮ニ處シ三圓ノ罰金六月ノ監視ニ付スト言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ檢察官伴政埤ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ被告カ宇佐分署ニ自首スル以前ニ在テ被害者安部積造ヨリ重抵當タルノ情ヲ欺隱シテ借用シタル所ノ金八圓六拾錢ヲ返還シテ自首シタルモノナレハ刑法第八十六條ニ依リ自首減等ノ外仍ホ本刑ニ二等ヲ減スヘキモノナルニ原裁判玆ニ出テス前掲ノ如ク處斷シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニ在リ

對手人被告貞五郎ハ之ニ答辯セス

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ之ヲ審案スルニ
 今原裁判言渡書ヲ閱スレハ被告人カ第二ノ所爲ニ付キ自首以前ニ在テ贓物全部ヲ被害者ニ
 還付シタルヤ否ヤ事實明認シナキヲ以テ之ヲ知ル能ハスト雖モ原裁判官カ證據ノ具ニ供シ
 タル自首狀又ハ其他ノ調書ニ依ルニ被告カ太田秋豊へ抵當典物トナシタルヲ欺隱シテ安部
 磧造ヨリ金八圓六拾錢ヲ借受ケタルモ事發覺前之カ全部ヲ償却シテ官ニ自首シタルヤ明カ
 ナリトス果シテ然ラハ上告論旨ノ如ク刑法第八十六條ニ依リ自首減等ノ外仍ホ本刑ニ二等
 ナ減スヘキモノナルニ自首減等ノミヲ適用シ處斷シタルハ治罪法第四百十條第十項ニ該當
 スル破毀ノ原由アルモノト判定ス
 因テ治罪法第四百三十一條ニ依リ原裁判ノ一部ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ裁判スルヲ左ノ
 如シ

末 松 貞 五 郎

以上ノ理由ナルヲ以テ原裁判官カ認メタル事實ニ依レハ被告カ第二ノ所爲ハ已ニ抵當典
 物ト爲シタル不動産ヲ欺隱シテ他人ニ重ネテ抵當典物ト爲シテ金員ヲ詐取シタルモ事發
 覺前之カ全部ヲ被害者ニ償却シテ官ニ自首シタルヤ明カナリ因テ之ヲ法律ニ照スニ
 刑法第三百九十三條第二項ニ自己ノ不動産ト雖モ已ニ抵當典物トナシタルヲ欺隱シテ他
 人ニ賣與シ又ハ重ネテ抵當典物トナシタル者亦同シ
 同第三百九十條ニ人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ證書類ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財
 ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

同第三百九十四條ニ前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付
 ス

同第八十五條ニ罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ニ一等ヲ減
 ス云々

同第八十六條財産ニ對スル罪ヲ犯シタル者自首シテ其贓物ヲ還給シ損害ヲ賠償シタル時
 ハ自首減等ノ外仍ホ本刑ニ二等ヲ減ス云々トアルニ依リ通シテ本刑ニ三等ヲ減シ十五日
 以上一年以下ノ重禁錮壹圓以上拾圓以下ノ罰金トナル

因テ被告貞五郎ヲ二十日ノ重禁錮ニ處シ二圓ノ罰金六月ノ監視ニ付スルモノ也
 ○第四百二十八十九號

判文(詐欺取財) 明治十六年七月九日上告
 同 十七年十一月廿九日發付

東京府京橋區南鞘町平民水菓子
 渡世

村 上 佐 太 郎

明治十六年六月
四十二年六月生

右村上佐太郎カ被告事件ニ付明治十六年六月一日東京輕罪裁判所ニ於テ審理ノ末被告人ハ
 深澤一信等ト謀リ彦坂「サク」ヲシテ屬籍氏名等ヲ詐稱セシメ娼妓鑑札ヲ受ケ委任狀等ヲ偽
 造行使シ金員ヲ騙取シタルモノト認メ刑法第二百十四條第二百十條第三百九十條第三百九
 十四條ニ依リ數罪俱發スルヲ以テ同第百條第三項ニ照シ情狀重キ同第三百九十條ニ從ヒ重

禁錮十月ニ處シ罰金拾貳圓監視一年ヲ付加スヘキ處明治十五年十月十三日詐欺取財ノ罪ニ依リ重禁錮二月罰金五圓監視六月ノ處斷ヲ經ルヲ以テ同第百二條ニ照シ前發ノ刑ヲ後發ノ刑ニ通算シ重禁錮八月ニ處シ罰金七圓ヲ附加シ監視六月十二日ニ付スト言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ被告本人ハ上告ヲ爲シタリ其趣意書及ヒ辯明書ノ要領ハ第一中村銀次郎妻「コマ」カ偽籍ヲ小林梅吉ニ托セシ「アルモ深澤一信等ト彦坂」サ「ク」チシテ屬籍氏名等ヲ詐稱セシメ送籍シ娼妓鑑札ヲ受ケサセ證書委任狀ヲ偽造シ金員ヲ騙取シタル覺之ナク素ヨリ深澤一信等ハ一面識モナキモノナリ彦坂「サ」長澤「キン」ト詐稱シタリトハ何等ノ證據ニ依リ明認セラレタルヤ其證人及物件ノ如キハ一ツモ犯罪ノ證據トナスニ足ラズ又參考人タル彦坂竹次郎等モ曾テ知ラサルモノニシテ參考トナルヘキモノニアラス假リニ偽籍ノ「ナ」托シタルモノトスルモ刑法第二百十四條ヲ適用スヘキヲ推測ヲ以テ證書偽造金員騙取シタルモノト斷定シタルハ事實齟齬擬律ノ錯誤ナリ其第二數罪俱發ヲ以テ處斷スルニ其情ノ重キハ刑法第二百十條ニシテ同第三百九十條第二項ニ照スモ其第二百十條ニ依ラサルヘカラス然ルニ同第三百九十條ヲ重キトシ處斷シタルハ理由ノ齟齬アル裁判ナリ其第三前發ノ刑ノ處斷ヲ受ケタルハ明治十五年十月十二日ナルヲ十三日トシ前監視六月ヲ通算シ扣除スレハ六月九日ナルヲ六月十二日ノ監視ニ付シタルハ理由ノ齟齬且越權ナリ其第四本案上告中明治十六年一月十三日ノ犯罪ニ付同年八月一日重禁錮五月罰金五圓ニ處セラレタルハ擬律ノ錯誤ナリ何トナレハ本件ハ明治十五年一月十二日ノ犯罪ニシテ其處斷ヲ受ケタルハ明治十六年六月一日ナレハ同時ニ發覺スレハ數罪俱發ヲ以テ論スヘキモノニシテ上告事件

確定セサレハ刑ノ言渡シハナシ得ヘキモノニアラサレハナリ以上ノ理由ニ付原裁判ヲ破毀シ公明ノ裁決ヲ仰クト云フニアリ

原裁判所檢事鹽野宜健ハ本案上告ハ理由ナキモノト思料スル旨答辯セリ
 大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルニ
 上告第一ノ理由ハ事實裁判官ノ探證ヲ非難シ其事實ノ適否ヲ論訴スルモ事實ノ判定ハ原裁判官ノ權内ニ屬スルモノニシテ他ヨリ侵入スルヲ得サルハ治罪法第百四十六條第二項ノ規定アレハナリ又事實ニ齟齬擬律錯誤ナリト云フモ訴訟書類ニ徵スルニ毫モ事實ノ齟齬アルヲ見サレハ上告ノ原由トナスヲ得ス第二各證據ニ依リ數罪俱發ナリト認メ各刑ヲ適用シ其犯罪ノ性質情狀ノ輕重ヲ判斷スルハ是亦事實裁判官ノ職權ニシテ詐欺取財ノ所爲ヲ重キト認メ刑法第百條第三項ニ照シ處斷シタルハ敢テ不當ニアラサレハ理由ノ齟齬ト云フヲ得ス第三前ニ處斷ヲ受ケタルハ十月十二日ナルヲ十三日トナシタリト云フモ一片ノ證佐ナク只口頭ニ止マリ原裁判官カ證據ニ依リ認メタル事實ニ對シ口實ヲ以テ輒スク動カシ得ヘキ者ニアラス又前監視ヲ通算スレハ六月九日ナルヲ六月十二日ニ付シタリト云フト雖モ原判文ヲ閱スルニ（上）監視一年ニ付スヘキ所明治十五年十月十三日詐欺取財ノ罪ニ依リ重禁錮二月罰金五圓監視六月ノ處斷ヲ受ケタル者ナルヲ以テ第百二條ニ照シ前發ノ刑ヲ以テ後發ノ刑ニ通算シタル重禁錮八月ニ處シ罰金七圓ヲ附加シ監視六月十二日ニ付シトアリテ其監視一年ノ内前監視六月ヲ扣除スレハ殘ル監視六月ナリ然ルニ監視六月十二日ニ付スト言渡シタルハ通算ヲ誤リ擬律錯誤ヲ免カレサル不當ノ裁判ナルヲ以テ此一部ハ破毀ノ原由アル

モノトス第四ノ理由ハ本案判決後ノ處分ニ係ル裁判ノ當否ヲ論スルモノニシテ本件上告ノ原由ト爲スニ足ラス以上ノ理由ニ依リ治罪法第四百三十一條ノ成規ニ從ヒ原裁判言渡中監視ノ一部ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ裁判言渡シヲ爲ス左ノ如シ

村上佐太郎

原裁判所カ認定シタル事實ニ依リ刑法第三百九十四條ニ從ヒ監視一年ヲ附加スルモノ也但前ニ處斷ヲ經タル監視六月ハ之ヲ通算ス

○第四百二十九號

判文(詐欺取財)明治十六年八月廿一日上告
同 十七年十一月廿九日發付

兵庫縣丹波國多記郡川西村平民

原田宗左衛門

明治十六年七月
四十八年

明治十六年七月十八日神戸輕罪裁判所ニ於テ右原田宗左衛門ハ證書ヲ偽造シ金圓ヲ詐取シタル所爲アリト判定シ刑法第二百九十條ニ依リ重禁錮三月ニ處シ罰金四圓ヲ附加シ監視六月ニ附スル旨宣告セリ原田宗左衛門ハ右ノ裁判ニ服セス上告ヲナシタル要旨ハ被告ハ團野德二郎及ヒ原田宗四郎ノ兩人ニ欺カレ波多野竹藏ヨリ差入アリシ米穀預證ノ已ニ無効ニ歸シタル者ヲ右兩人ニ相渡シタルヲアリト雖モ證書ヲ偽造シ金圓ヲ騙取シタル所爲アリシニ非ラス然ルテ原裁判所ハ被告事件ノ證據ヲモ明示セス事實ノ理由ヲ附セス前記ノ刑ヲ言渡シタルハ事實ノ齟齬擬律ノ錯誤ナリト云フニ在リ

對手人檢察官原裁判所檢事補大井田義路ハ原裁判相當ニシテ上告ノ原由ナキ旨答辯セリ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事池上三郎ノ意見ヲ聽クニ上告ノ論旨ハ一モ其理由ナシト雖モ本案被告事件ハ證書ヲ偽造シ印影ヲ盜用シ金圓ヲ騙取シタル數罪ナルニ原裁判ハ詐欺取財ノ刑ノミヲ適用シ證書偽造及印影盜用罪ノ刑ハ置テ之ヲ問ハサルハ擬律錯誤ナルヲ以テ不當ノ部分ヲ破毀シ直チニ判決アラントナ望ム旨附帶上告ヲナシタリ依テ判決スル左ノ如シ

證據ノ採擇事實ノ認定ハ原裁判官ノ特權ニシテ越權其他法律ニ背キタル所分アルニ非ラサル限リハ他ノ左右シ得ヘキ者ニアラス今原判文ヲ閱スルニ被告事件ノ事實ヲ證明スヘキ證據ヲ列記シ前記ノ如ク判定シタル者ニ不法トナス廉アルヲナク被告上告論旨ハ徒ラニ事實ノ認定ニ對シ不服ヲ訴フルニ過キサレハ上告ノ原由ナキ者トス然レモ本院檢事附帶上告ノ如ク本案被告カ所爲タル原判文ニ被告宗四郎宗左衛門宅ニ共謀シ宗左衛門宅ニ於テ同人カ曾テ波多野竹藏ト米取引殘餘ノ證書ヲ所持スル迎該證竹藏名下ニ實印ヲ押捺シタル箇所ヲ截斷シテ更ニ竹藏カ米預リノ證書ヲ偽造シ云々トアリ此事實ニ依レハ證書ヲ偽造シテ金圓ヲ騙取シタル者タルヲ明カナリ而シテ其印影ハ盜用シタルニアラスシテ被告カ曾テ收受ノ證書ニ押捺シタル印影ヲ截斷シテ竹藏カ米預リノ證書ヲ偽造シタルモノナレハ則チ證書偽造ト詐欺取財トノ二罪併發シタルモノトス然ルニ原裁判所ハ只詐欺取財ノミニ刑ノ適用ヲナシ證書偽造ノ所爲ヲ論セサリシハ不法ノ裁判ナルヲ以テ破毀ノ原由アルモノトス因テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ被告上告ハ之ヲ棄却シ本院檢事附帶上告ニ基キ治罪法第四百二

十九條ニ從ヒ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ裁判スル左ノ如シ

九二二

原田宗左衛門

右ハ原裁判所カ認メタル事實ニ依リ之ヲ法律ニ照スニ證書偽造ノ罪ハ刑法第二百十條賣買貸借贈遺交換其他權利義務ニ關スル證書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ヲ附加ストアルニ該リ金圓騙取ノ罪ハ同第三百九十條人ヲ欺罔シ云々財物若クハ證書類ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財ノ罪トナシ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ヲ附加ストアルニ該ルヲ以テ同第百條第一項及ヒ第三項ニ照シ情狀最重キ第二百十條ニ依リ重禁錮四月ニ處シ罰金四圓ヲ附加シ仍ホ同第二百十二條ニ照シ監視六月ニ附スル者也
但偽造ニ係ル米預證書一通ハ刑法第四十三條ニ依リ沒收ス
○第四千二百九十一號

判文〔詐欺取財〕明治十六年十月十日
同 十七年十一月廿九日發付

三重縣伊勢國一志郡須賀瀬村平
民中買商

宮下芳松

明治十六年九月
三十一年五月

明治十六年九月十四日安濃津輕罪裁判所ニ於テ右宮下芳松ガ被告事件ヲ審理シ刑法第二百九十三條第一項同第三百九十條ニ依リ未遂犯ナルヲ以テ同第二百九十七條同第百十二條ニ

照シ本刑ニ一等ヲ減シ二月ノ重禁錮ニ處シ拾圓ノ罰金ヲ附加シ仍ホ同第二百九十四條ニ照シ六月ノ監視ニ付ス其芳兵衛方ニ於テ買入レタル藥種ノ引渡方ヲ差留タル所爲ハ法ニ正條ナキヲ以テ刑法第二條ニ照シ無罪ト言渡シタル裁判ヲ服セ大被告人カ上告シタルノ要旨ハ藥種二十六叭ヲ田中林助支店へ送りタルハ都合ニ依テ送りタルモノニシテ前田佳三郎へ送致ノ品トハ混淆セサル様爲シ置キタリ佳三郎カ田中林助方へ送致品ノ請取證ヲ以テ告訴ヲ爲シタルハ林助方へ送りタル品ヲ佳三郎へ送ルヘキ品ト證認シタルト曩ニ佳三郎へ賣付タル藥種七拾石ニ付テハ未タ計算相濟マス佳三郎ニ於テハ三百五六拾圓程ノ損失ヲ受ルノ情實アルニ因ルナリ被告人ハ決シテ犯罪ノ所爲ナキニ有罪ノ處斷セラレタルハ不當ノ裁判ナレハ破毀シテ相當ノ判決アラフヲ請願スト云フニ在リ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ檢事澄川拙三ノ意見ヲ聽クニ上告ノ趣旨ハ事實點ノ論辯ニシテ相立タスト雖モ原判官カ認定シタル事實ニ據レハ被告人ノ所爲ハ受託物費消罪ノ豫備中ニ在テ無罪ノ言渡シヲ爲スヘキモノナルニ冒認罪ノ未遂トシテ處斷シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナレハ破毀ヲ求ムル爲メ附帶ノ上告ヲ爲スト陳述セリ仍テ判決ヲ爲スヲ左ノ如シ

原裁判言渡書ヲ閱スルニ藥種ヲ佳三郎方ニ送致スルニ際シ車夫前川常三郎外數名ニ對シテ自分所有ノ姿ニ偽リ關林支店ニ運搬セシメタル後弟捨次郎ヲ該支店ニ遣シ右藥種ヲ典賣シテ金七拾圓ヲ借受ケントシタル者ト判定ストアリテ其既ニ佳三郎ニ引渡シタル藥種運搬ノ際車夫ヲ囑着シテ擅ニ田中林助方ニ運搬セシメタルコトハ明白ナリト雖モ其如何ナル所爲カ

冒認ト見做スヘキモノナリヤ又如何ナル手續ヲ以テ典賣セシヤ其事實ヲ明示セサルニ由リ
 被告人ノ所爲ハ果シテ冒認罪ヲ構造セル者ナル乎若シハ受託物費消ノ罪ナル乎又其所爲ハ
 未遂犯タル乎豫備ノ行爲ニ止マルモノナル乎判別スル能ハス從テ擬律ノ當否如何ヲ
 鑑査スルニ由ナキモノニシテ即チ治罪法第四百十條第九項ノ理由ニ該當スル不法ノ裁判ナ
 リトス既ニ此點ニ付原裁判ヲ破毀スヘキヲ以テ被告人ノ上告及ヒ檢察官ノ附帶上告趣旨ノ
 當否如何ハ別ニ辯明ヲ要セサルナリ
 右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ノ成規ニ從ヒ原裁判言渡シノ全部ヲ破毀シ被告
 事件ヲ名古屋輕罪裁判所ニ移シ更ニ審判セシムルモノナリ

○第四百九十二號

判文〔詐欺取財〕明治十六年九月八日上告
 同 十七年十一月廿九日發付

東京府日本橋區蠣壳町二丁目鹽
 澤鍊之助同居士族

山本正修

明治十六年七月

四十九年

明治十六年八月二十八日東京輕罪裁判所ニ於テ右山本正修ハ古澤「ミ」方ニ下宿シ宿料ヲ
 拂ハス同家ヲ逃走シタル所爲アルモ一時其義務ヲ通レント欲スルノ手段ニ過キスシテ初メ
 ヨリ宿料ヲ拂ハサルノ意思ニ出テタル詐欺ノ所爲ナリト認定スヘキ證據充分ナラサルヲ以
 テ治罪法第三百五十八條ニ照シ無罪ノ言渡シヲナシタリ

檢察官原裁判所檢事補川淵龍起ハ右ノ裁判ニ服セス上告ヲナシタル要旨ハ被告カ古澤「ミ」
 「方」方ヲ逃走シタルハ宿料ヲ拂フノ意思ナク詐欺ノ所爲ニ出テタル「ハ」夜中宿主ニ斷リナ
 ク逃走シ爾後淺草宗圓寺ニ潜匿シ居タルト司法警察官ノ作リタル訊問書ニ巡查奉職志願中
 追々貧窮ニ迫リ遂ニ不良心ヲ生シ三圓四拾錢ノ止宿料ヲ拂ハス去ル五日逃走云々トアルト
 或ハ區役所雇書記トナリ其日給ヲ宿料ニ充ツルト云ヒ前後申立テノ齟齬スル等其他詐欺ノ
 證アル「ミ」明瞭ナルニ原裁判所ハ證據充分ナラストナシ無罪ノ言渡シヲナシタルハ不當ナリ
 ト云フニ在リ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事堀田正忠ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
 證據採擇事實ノ認定ハ原裁判官ノ特權ニシテ越權其他法律ニ背キタル處分アルニ非ラサル
 限リハ他ノ左右シ得ヘキ者ニアラス本案ノ如キ原判官ニ於テ一時其義務ヲ通レント欲スル
 ノ手段ニ過キサル者ニシテ當初ヨリ宿料ヲ拂フノ意思ナキ詐欺ノ所爲ニ出テタル者ト認定
 スヘカラスト其理由ヲ掲載シ無罪ト判定シタル者ニシテ毫モ不當トナス廉アルヲ視テ上告
 ノ要旨ハ原判官ノ職權内ニ侵入シ事實ノ判定ヲ左右セント試ムルニ過キサレハ治罪法第四
 百十條各項ニ定メタル上告ノ理由ナキ者トス因テ同法第四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却ス
 ルモノ也

○第四百九十三號

判文〔詐欺取財〕明治十七年六月四日上告
 同 年十一月廿九日發付

東京府神田區岩本町平民小山榮

太郎長男

小山 勘吉

明治十六年三月十八年四月

右勘吉カ詐欺取財被告事件ニ付明治十六年三月三十一日東京輕罪裁判所ニ於テ刑法第三百九十四條ニ依リ八月ノ監視ニ付ス其自首スルモ事發覺後ニ係ルヲ以テ減等ノ例ヲ用ヒスト言渡シタル裁判ニ服セス被告勘吉ハ上告ヲ爲シ立會檢事加納久宜モ亦附帶上告ヲ爲シタルニ付本院ニ於テ之ヲ審判シ本年五月廿八日上告ノ趣旨總テ相立タサルモノトシ本案上告及ヒ附帶上告ハ共ニ之ヲ棄却スト言渡シタル裁判ニ對シ被告勘吉カ哀訴ヲ爲シタル要旨ハ第一本件上告ノ公判開廷ノ際專任判事カ朗讀シタル報告書結末ニ本件ハ上告ノ原由ナキモノ云々果シテ然ルヤ否トノ意見ヲ加ヘラレタルハ治罪法第四百二十二條第二項但書ニ背悖シタルモノナリ第二該宣告ハ著明ナル事實ノ理由ヲ付セサル而已ナラス公廷ニ於テ代言人カ斷然取消ヲ申立タル刑法第八十六條ノ點ニ裁判ヲ與ヘタルハ所謂要メサル點ニ侵入シ裁判ヲ爲シタルモノト思考ス因テ治罪法第四百三十七條第一項ニ據リ哀訴シテ該宣告ノ破却ヲ願フト云フニ在リ

本院檢事長渡邊驥カ答辯ノ要旨ハ專任判事ノ報告ニ云々トアルモ是意見ヲ付シタルニアラサレバ治罪法ノ公式ニ違フモノト云フヲ得ス仍テ本訴ハ不相立ト云フニ在リ
 茲ニ大審院ニ於テ治罪法第四百三十七條末項ノ規則ニ依リ同法第四百二十五條ノ法式ヲ履

行スルニ被告代言人岡島宗三郎ニ於テハ哀訴ノ趣旨ヲ辯明シ立會檢事加納久宜ニ於テハ刑法第八十六條ノ點ヲ取消シタリトノ事ハ當時聽得サルノミナラス公判始末書ニモ斷然云々ノ事柄ヲ見ルベキナリ又該條ノ點ニ向ヒ判決ヲ爲スハ當然ナリト論述セリ茲ニ之ヲ判決スル左ノ如シ

本訴ノ第一點ハ專任判事ノ報告書ハ治罪法第四百二十二條ノ但書ニ背クト云フニ在ルモ其報告書末尾ニ(本件ハ上告ノ理由ナキモノ、如シ果シテ然ルヤ否ヤヲ審究スヘキモノト考量ス)トアルハ只上告事件ノ審理點ヲ查覈審明シタル迄ニシテ該條ニ所謂意見ヲ附シタルモノト謂フヲ得ス又第二點ハ前開廷ノ際刑法第八十六條云々ノ上告點ハ取消スト申立テタルニ此點ヲモ裁判セシハ不法ナリト云フニ在ルモ其公判始末書中(代言人云々代言人ハ第二ノ自首ノ點ハ之ヲ省キ云々)ト記載アルニ依テ之ヲ視レハ代言人ハ第二ノ上告點ハ別ニ擴張辯明セストノ趣旨ヲ陳述シタルヘシトハ推知シ得ルモ全ク此上告點ヲ取消ストノ申立ヲ爲シタリトハ認メ難シ殊ニ該宣告書ニハ事實及ヒ法律ニ依リ判決ノ理由ヲ明示シアルカ故ニ理由ヲ附セサル宣告ト云フヲ得サル而已ナラス治罪法第四百十條ノ諸項ハ上告ニ付定メタル規則ニシテ固ヨリ哀訴ノ原由ヲ示シタルモノニアラサレハ今假ニ該條第九項ニ適スル條件アリトスルモ之ヲ以テ哀訴ノ原由トスルヲ得ス況ンヤ理由ノ完備セル判決ナルモノナヤ然ラハ則チ本訴ノ趣旨一モ相立タサルニ付治罪法第四百二十七條ノ規則ニ遵ヒ之ヲ棄却スル者也

○第四千二百九十四號

判文〔詐欺取財〕明治十七年三月廿七日上告
同年十一月廿九日發付

佐賀縣肥前國東松浦郡半田村平民
麻生龜太郎
年齡不詳

同縣同國同郡原村平民

濱田德太郎
明治十七年二月二十五年

明治十七年二月二十九日唐津治安裁判所ニ開キタル佐賀縣輕罪裁判所ニ於テ被告等カ滿島貸
坐敷營業山下理三郎方ニ登樓シ酒肴代金并娼妓揚代等ヲ拂ハスシテ逃走シタルハ金策ノ爲
メニ出テタルモノニテ詐欺ノ念ナキモノト認定シ刑法第二一條ニ依リ無罪ヲ言渡セリ原裁
判所檢察官警部阿部卯太郎ハ右裁判ヲ不當ナリトシ上告ヲ爲シタル要旨ハ被告等ハ壹錢ノ
蓄ヘナクシテ貸坐敷ニ登樓シ數日酒色ニ流連シ樓主ヨリ該代金ヲ請求スルニ際シ金ハ親元
ヨリ送り來レハ心配ナシト無實ノ遁辭ヲ以テ樓主ヲ欺罔シ終ニ該代金ヲ拂ハス逃走シタル
モノナリ而シテ被告等ハ金策ノ爲メ逃走シタル辯解スレモ彼ノ酒色ニ沈溺シ放蕩ヲ盡ス者
ノ如キハ金錢浪費ノ極終ニ不良心ヲ生スルハ常ナレハ被告等ノ如キモ詐欺ノ念慮ヨリ逃走
シタルヤ明カナリ然ルニ原裁判所ニ於テ無罪ヲ言渡シタルノミナラス拘留ヲ受ケタル濱田
德太郎ニ對シ放免ノ言渡シヲ爲サハ旁不當ノ裁判ナリト云フニ在リ

對手人被告ノ内濱田德太郎ハ原裁判適當ニシテ檢察官ノ上告ハ理由ナシト答辯セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルニ上告第一點ハ被
告等カ金錢ヲシテ貸坐敷ニ登樓シ數日流連ノ末其代金ヲ拂ハスシテ逃走シタルハ詐欺取
財ノ罪アリト云フニ在レモ已ニ原裁判所ニ於テ正當ノ職權上被告人ノ陳述其他ノ證據ニ據
リ金策ノ爲メニ出テタルモノニシテ詐欺ノ念ナキモノト事實ヲ認定シタル上ハ他ヨリ輒ス
ク動カズト得サルモノトス故ニ上告第一點ハ正當ノ理由ナシト雖モ被告人ノ内濱田德太
郎ハ拘留ヲ受ケタルモノナレハ治罪法第三百五十八條ニ則リ併セテ放免ノ言渡シヲ爲スヘ
キモノナルニ原裁判茲ニ出テサリシハ上告趣旨ノ如ク擬律錯誤ノ裁判ナリトス因テ治罪法
第四百三十一條ノ規則ニ從ヒ其一部ニ對シ本院ニ於テ直チニ言渡シヲ爲ス左ノ如シ

濱田德太郎

原裁判所ニ於テ被告ノ行爲ハ罪トナラサルモノト判定シ無罪ヲ言渡シタルニ付治罪法第
三百五十八條末項ニ依リ直チニ放免スル者也

○第四百二十五號
判文〔詐欺取財〕明治十七年三月三十一日上告
同年十一月廿九日發付

栃木縣下野國那須郡東戶田村平民

關谷和生
明治十七年三月三十一日
九一九

明治十七年三月四日栃木輕罪裁判所宇都宮支廳ニ於テ右和市(外二名)カ身代限財產藏匿詐欺取財及ヒ詐欺取財未遂ノ被告事件ヲ審判シ刑法第三百八十八條第二項刑法第三百九十條刑法第三百九十四條刑法第一百十二條等ヲ適用シ刑法第百條ニ照シ一ノ情狀重キ第三百九十四條第三百九十四條ニ從ヒ關谷和市ハ八ヶ月ノ重禁錮貳拾圓ノ罰金ニ處シ六ヶ月ノ監視ニ付スト言渡セリ被告關谷和市上告ノ要旨ハ第一原判文ニ沼田定平カ身代限ヲ差出サントスルニ際シ關谷和市同重三郎等ト謀リ云々トアレモ上告人カ定平へ金員ヲ貸與へ其證書ヲ受領シタルハ明治十五年一月十四日ニシテ定平カ身代限ヲ差出シタルハ明治十五年二月中旬ナルヲ以テ其間若干日アリ然ルチ原裁判所ハ身代限ヲ差出サントスルニ際シ云々トシタルハ事實理由ノ齟齬ナル者ナリ第二上告人カ定平ヨリ受取置タル借用金證書ハ兵長ノ公證アル嚴整ナル契約ナルニ上告人ニ對シテハ義務者ナル定平并ニ郡司拾遺等ノ片言及ヒ自首ヲ以テ證據ト爲シ無辜ノ上告人ヲ犯罪視シ刑ヲ科セシハ擬律錯誤ノ裁判ナリ第三本件ハ假リニ被告三人カ謀テ虛偽ノ負債ヲ増加シタルモノトスルモ貸付金ノ實數ヨリ餘分ノ配當金ヲ得タルト云フチ以テ刑法第三百九十條第三百九十四條ニ依リ處斷シタルハ不法ナリ何ントナレハ餘分ノ金ヲ得タルハ不正ノ契約ニ關スルカ故ニ法律カ干涉シテ保護ヲ與フルノ限リニアラサレハナリ因テ原裁判破毀アラソコチ請願スト云フニ在リ

原裁判所檢事鈴樹忠告カ答辯ノ趣旨ハ被告カ上告チ一々辯駁シ原裁判適法ナリト答辯セリ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行ス立會檢事安藤源五郎附帶ノ上告ヲ爲セリ曰ク原裁判ハ數罪ノ内一トシテ其犯罪ノ年月日ヲ明示セサルハ理由ノ不備ナルモノトス

何トナレハ其年月日ハ判文上缺クヘカテサル必用點ナレハナリ故ニ此點ニ依リ原裁判破毀アルヘキモノト思考スル旨論述セリ代官人森條右衛門ハ其附帶上告ニ同意ヲ表シ且ツ上告ノ趣旨ヲ擴張セリ茲ニ之ヲ審案スルニ

原判文ハ本院檢事上告ノ趣旨ノ如ク被告等カ犯罪ノ年月日ヲ記載セズ抑年月日ハ判文上缺クヘカテサル必要點ナルニ原裁判所ニ於テ之ヲ判文ニ掲ケサリシハ治罪法第三百四條ノ成規ニ違背シタルモノニテ治罪法第四百十條第九項ニ適當ナル上告ノ理由アルモノトス但此點ニ付原裁判ハ其全部ヲ破毀スヘキモノト認ムルヲ以テ被告人上告ノ點ニ對シテハ一々辯明ヲ付セス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ニ基キ關谷和市ニ係ル裁判ノ全部ヲ破毀シ浦和輕罪裁判所ニ移シ更ニ審判セシムルモノナリ

○第四百二十九十六號

判文〔詐欺取財〕明治十七年五月九日上告
同 年十一月廿九日發付

東京府京橋區靈岸島銀町一丁目
六番地平民米商

金子倉吉

明治十六年二月

明治十七年四月廿五日本院ニ於テ右金子倉吉カ詐欺取財被告事件ノ上告一件ヲ審理シ原裁判言渡シハ允當ニシテ被告ノ上告ハ其理由ナキヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ之ヲ棄

却スト言渡シタル判決ニ對シ被告倉吉カ哀訴ヲ爲シタル要領タルヤ第一本院判文中(上告人ニ於テ牧野金七等へ切手ヲ振出シタル行爲ハ惡意アリテ爲シタルニアラサレハ罪トナラスト論スレト本案被告ノ所爲タル他人ニ害ヲ加フルノ意ニ出テタルモノナル事ハ原裁判官ノ認定シタル所ナレハ今ヤ其認定上ニ侵入シ之カ當否ヲ批難スルモ以テ上告適法ノ原由トナスヲ得ス)トアルハ法律ニ違背スルノミナラス被告カ申立テタル上告ノ條件ニ付キ判決ヲ爲サ、ルモノナリ何トナレハ法律ハ何等ノ所爲ト雖モ正條ナキヲ罰スルヲ得ス又犯罪ノ意ナキ者ヲ罰スルヲ得ス又證據ノ不充分ナルヲ罰スルヲ得サル事ハ刑法第二條同第七十七條治罪法第二百二十四條同第三百五十八條同第四百三十五條等アリテ歴然タル所ニシテ而シテ皆裁判官ノ擅横ヲ防キ刑罰ヲ慎マシムルモノナレハ裁判官カ隨意ニ無罪者ヲ指シテ有罪者ト認定スルカ如キハ法律ノ決シテ許サ、ル所ナリ今ヤ本案被告事件ノ如キハ被告ハ勿論證人及ヒ其他ノ證據ニ依ルモ騙取スルノ惡意アリシ事ヲ徵シ得ヘキモノナリ又原判文ニ所犯情狀重シトセラレタル牧野金七ノ件ノ如キモ金七所有ノ米ヲ引出シタルニハアラスシテ被告所有ニ係ル抵當米ヲ引出シタルモノナレハ其所爲ハ罪トナラサルモノ又假リニ罪トナル可キモノトスルモ罪證絶テナキノミナラス金七ノ如キハ既ニ棄權ノ申立テアリ其他被告ノ利益トナル可キ騙取ニアラサル反證等アルヲ以テ到底被告ハ刑法第二條同第七十七條及ヒ治罪法第二百二十四條ニ依リ處分セラレヘキモノナルニ原裁判官ニ於テ此等ノ法律ニ依ラヌノ刑法第三百九十條ヲ適用シタルハ擬律ノ錯誤ニ出タル者ナルヲ以テ曩キニ本院ニ對シ上告ノ際原裁判官ハ擬律ノ錯誤ニ出テタル旨其趣意書ヲ以テ申立テタルニ本院ニ於テ其

擬律錯誤ノ點ニ付判決ヲ爲サ、ルノミナラス却テ法律ハ承審官へ勝手ニ無罪者ヲ有罪ト認定スルコト許サレタルモノ、如シ判示セラレタルモノナレハナリ第二又本院判文ニ(原判文カ監査スルニ被告ニ於テ無効ノ切手アルヲ奇貨トシ之ヲ有効ノモノト詐リテ金七外五名へ振出シ米及ヒ有効ノ爲換券ヲ騙取シタル理由ヲ明示シアレハ毫モ治罪法第二百四條ニ抵觸スル所ナシトス)トアレト被告カ銀行ニ正金ヲ送ラスシテ小切手ヲ振出シタルモ七郎兵衛カ被告ニ正金ヲ送ラスシテ爲換券ヲ振出シタルモ共ニ正金ニ換ハラサルモノナレハ其不換券ノ故ヲ以テ無効トスル時ハ彼此同一ノ理ナル可キニ被告ノ振出シタル小切手ノミ無効ナリトシ七郎兵衛ノ振出シタル爲換券ヲハ之ヲ有効ナリトセラレタルハ乃チ同一ノ裁判言渡シニ付三箇ノ條件相齟齬シタルモノナリト云フコアリ

本院檢事長ハ答辯書ヲ差出タサス
 玆ニ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ公式ヲ履行スルニ代言人元田肇ハ哀訴第一ノ趣旨ヲ擴張スルニ方リ向キニ原裁判官ハ越權ノ處分アリトノ申立ヲ爲シタル點ニ付キテモ亦判決ヲ與ヘラレストノ趣旨ヲ辯明シ立會檢事澄川拙三ハ被告人ノ哀訴ハ勿論代言人辯論ノ趣旨共ニ其理由ナキヲ以テ棄却アラソコト望ム旨陳述セリ依テ之ヲ判決スル左ノ如シ
 哀訴第一ノ趣旨ハ曩キニ原裁判官ハ越權且ツ擬律ノ錯誤アリト申立テタル條件ニ付判定ヲ爲サスト云フニアレト抑モ被告カ原裁判官ヲ以テ越權ナリ擬律錯誤ナリトスルノ理由ハ被告ノ所爲ハ罪ヲ犯スノ惡意ナリ且ツ其證據ナキニ有罪ノ處分ヲ下サレタルハ即チ越權且ツ擬律錯誤ナリト云フニアリテ即チ皆承審官ノ職權内ニ立入り其認定シタル事實ヲ動カシ覆審ヲ

求ムルニ過キサルヲ以テ本院ニ於テハ其論旨ニ對シ既ニ承審官ニ於テ惡意アリトノ認定ヲ下シ相當ノ處分ヲ爲シタル上ハ其認定上ニ侵入シ之カ當否ヲ非難スルモ上告適正ノ理由トナスヲ得スト判決ヲ與ヘタルモノナルヲハ其判文ニ依リ明瞭ナル上ハ假令越權又ハ擬律錯誤ノ文詞ヲ掲ケサルモ之ヲ以テ申立テタル條件ニ付判決ヲ爲サスト云フヲ得サルヲハ多言ヲ俟スシテ明カナリトス而シテ又其第二ハ同一ノ裁判言渡シニ付二箇ノ條件相齟齬シタリト云フニ在レ庄是又被告ハ法律ヲ誤解シ判決ヲ了得セサルコト出タル論說ニシテ採用スルコト足ラサルモノトス何トナレハ本院先キノ判文ニ無効ノ切手アルヲ奇貨トシ之ヲ有効ノモノト詐リテ金七外五名へ振出シ米及ヒ有効ノ爲換券ヲ騙取シタル云々トアルハ被告カ曩キテ其判文ニ事實ノ理由トシテ掲記シタル所ノモノヲ直チニ掲載シ來リ原裁判ハ理由ヲ付セサルノ瑕瑾ナキヲ辯明スルノ具ニ供シタルニ過キスシテ乃チ原裁判官ノ事實認定上ニ係ルモノナレハ之ヲ以テ直チニ本院ノ言渡シニ對シ二箇ノ條件齟齬シタリト云フ可キモノニアラサレハナリ況ヤ果シテ原裁判官ノ認メタル事實ニ齟齬アルモノトセハ曩キノ上告ニ於テ之ヲ論告ス可キハ當然ナルニ當時此點ニ付何等ノ申立テモナシテ之ヲ以テ本案哀訴ノ理由ト爲サントスルカ如キハ其理由アルヲ見サルニ於テチヤ依テ本案哀訴ハ到底相立タサルヲ以テ之ヲ棄却スルモノナリ

○第四千二百九十七號

判文(詐欺取財未遂) 明治十六年八月十七日上告
同 十七年十一月廿九日發付

福岡縣筑後國三池郡江ノ浦村士族

山崎 貞次郎

明治十六年七月
四十年四月

同縣同國山門郡奥洲町士族

白井 勇夫

明治十六年七月
二十五年

明治十六年七月十七日福岡輕罪裁判所ニ於テ右山崎貞次郎白井勇夫カ詐欺取財被告事件ヲ審判シ刑法第三百九十九條第三百九十四條ニ依リ其未遂ナルヲ以テ同第三百九十七條第一百九十九條ニ照シ三等ヲ減シ勇夫ヲ重禁錮八月罰金拾圓監視八月ニ處シ貞次郎ハ從犯ト爲シ同第三百九十九條ニ照シ仍ホ一等ヲ減シ重禁錮六月罰金七圓五拾錢監視八月ニ處スト言渡シタル裁判ニ服セズ被告人兩名ハ上告ヲ爲シタリ其要領貞次郎ハ曾テ故紙中ヨリ他人ノ印影押捺シアル白紙數葉ヲ發見シ之ヲ所持セシヨリ勇夫ヨリ印影照合ノ爲メ入用ナルニ付一時借用シ度トノ願談ニ因リ其白紙ヲ貸與シタルモ固ヨリ何人ノ印影ナルヤ確知セサル者ニシテ勇夫カ詐欺ノ情ヲ知テ之ヲ貸與シ犯罪ヲ容易ナラシメタル等ノ所爲アルコト非ラス又勇夫ハ小野五一郎ヨリ貞次郎ノ所持スル印影押捺ノ白紙ヲ受取り吳レ度トノ委頼ヲ受ケ相當ノ謝金ヲ受ク可キ約定ヲ以テ貞次郎ヨリ借用シ之ヲ渡シタル者ニテ特ニ其白紙ニ金額宛名等ヲ記入セシハ前ニ預リ金證書ナルヲ五一郎へ語りタルニ因リ前言ト齟齬スルヲ恐レ之ヲ記入セシモ

決シテ欺罔シテ金圓ヲ騙取セントスルノ意ニ出テタル者ニ非ラス且ツ言渡書ニ警察署ノ調書共犯人證人ノ申立トアルモ右調書ハ事實ニ相違スル者ナリ證人等ノ申立ハ皆以テ證據ト爲スニ足ラス然ルニ原裁判官カ有罪ノ判定ヲ下シタルハ事實ノ齟齬擬律ノ錯誤及ヒ越權ノ處分ナリト云フニ在リ。

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行シ判決ヲ爲ス左ノ如シ
原裁判所カ山崎貞次郎ニ對スル言渡書中ニ曾テ所持スル雜紙中小野五郎亡父玄哲等カ實印押捺シアル白紙數葉發見シ明治十六年一月中白井勇夫ニ該白紙ヲ貸與シアルヨリ同人ニ於テ麥生幸右衛門ヨリ玄哲ニ對スル預金ノ證アリトテ五一郎ヨリ金員ヲ詐取セン爲メ同人宅ニ至リ之カ催促ヲ爲シタル末金六百七拾圓ノ證書ヲ偽造シ被告ハ白紙ヲ勇夫ニ貸與シ犯罪ヲ容易ナラシメタル事實云々トアリ白井勇夫ノ言渡書ニ明治十六年一月中五一郎宅ニ至リ玄哲ニ於テ麥生幸右衛門ヨリ金六百七拾圓ヲ預リタル證書有之旨詐言シタル末貞次郎ヨリ該白紙ヲ借り受ケ金六百七拾圓ノ偽證ヲ詐爲メ五一郎ヨリ金員ヲ詐取セントナシタル事實云々トアリテ共ニ證書偽造ノ罪アリト認メタルモノ、如シ然ルニ其偽造ノ罪ヲ問ハサリシハ蓋シ未ダ證書ヲ行使セサルヲ以テナリ果シテ然ラハ被告人勇夫ノ所爲ハ小野五一郎ニ對シ金員預リ證書アリト詐言シタルニ止マリ此所爲ノミヲ以テ詐欺取財未遂ノ罪アリト斷定スルヲ得サルモノニシテ被告人等カ擬律ノ錯誤アリトノ上告論旨或ハ其當ヲ得タルモノ、如シ之ヲ要スルニ言渡書ニ掲載セシ事實ノ理由明瞭ナラサルニ因リ從テ法律適用ノ當否如何ヲ監查スルニ由シナシ即チ治罪法第二百四條ノ定式ニ違犯セシ不法ノ裁判ナリトス

已ニ此點ヲ以テ原裁判ヲ破毀スヘキニ因リ上告論旨ノ當否ハ一々辯明スルヲ要セサルナリ右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ノ成規ニ從ヒ原裁判言渡シノ全部ヲ破毀シ被告事件ヲ佐賀輕罪裁判所ニ移シ更ニ審判セシムルモノナリ

○第四千二百九十八號

判文(詐欺取財及竊盜) 明治十七年三月十三日上告
年十一月廿九日發付

福井縣越前國吉田郡郡村平民農

小 櫻 松右衛門

明治十七年二月三十三年

同縣同國阪井郡阪井港錦町平民

政吉妹

小 幡

明治十七年二月二十三年

右松右衛門外一名カ被告事件ニ付明治十七年二月二十日福井輕罪裁判所ニ於テ被告等ハ明治十七年一月二十六日旅籠渡世川崎彌平方へ一宿ノ心得ニテ投シタル處三宿ト相成持合ノ金子不足スルヨリ其拂方ニ差支へ同月二十九日午後第七時頃下駄及ヒ提燈ヲ借受ケ入湯ニ赴ク迎立出タル儘歸宿セサリシハ最初ヨリ詐欺ノ念慮アリテ事茲ニ至リタルヲ證憑充分ナラサルモ松右衛門ハ同月二十四日旅籠渡世乘京又三郎方へ「キノ」ト共ニ止宿シタル際中内清右衛門ト變稱シ又「キノ」ハ前キニ竊盜ノ科ニ因リ重禁錮ノ處斷ヲ受ケタルニ尙ホ又明治

十六年七月中花房和吉所持ノ金子壹圓三拾錢程入レアル懷中物ヲ竊取シ發覺ノ後其懷中物ト金壹圓トヲ返却シ并ニ右彌平及ヒ又三郎方ニ於テ松右衛門妻「ナカ」ト詐稱シタル者ト判定シ松右衛門カ氏名ヲ詐稱シタルハ福井縣違警罪目第十一項ニ依リ金壹圓五拾錢ノ科料ニ處シ又「キノ」ハ刑法第一百一條ニ照シ一ノ重キ竊盜再犯ノ罪ニ從ヒ同第三百六十六條同第九十二條ニ依リ本刑ニ一等ヲ加ヘ重禁錮二月十五日ニ處シ尙ホ同第三百七十六條ニ依リ監視六月ニ付スト言渡シタリ檢事補吉田勝吉ハ此裁判ヲ不當ナリトシ上告セル要領ハ被告等カ旅籠渡世川崎彌平方ヘ投宿ノ際其飲食代價ヲ拂ハスシテ立出タルハ最初ヨリ之ヲ詐欺スルノ念慮ニ出タルヲ其身分ヲ詐稱シテ投宿シタルト入浴ニ赴クト詐ハリ下駄提燈ヲ借受ケ立出テ後之ヲ投棄シテ跡ヲ湮滅シタルトニ依リテ明カナリ然レハ詐欺取財ノ罪ヲ構造セシモノナルニ本案ノ如ク證據充分ナラスト判定セラレシハ不當ナリ將又證據充分ナラスト認ムル上ハ治罪法第三百五十八條ニ依リ無罪ヲ言渡サ、ルヲ得ス然ルニ原裁判ノ玆ニ出テサリシハ乃チ擬律ヲ錯誤セシモノナレハ旁以テ原裁判ノ詐欺取財ノ罪ニ關スル一部ヲ破毀シ更ニ相當ノ判決アラントヲ求ムト云フニアリ

對手人被告小櫻松右衛門外一名ハ答辯セス
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事堀田正忠ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルニ本案上告ノ被告等カ川崎彌平方ヘ投宿シ其飲食料ヲ拂ハスシテ立去リタルハ其初メヨリ之ヲ詐取スルノ念慮ニ出テタルモノナルニ原裁判所ニ於テ證據充分ナラスト認定セシハ不當ナリトノ論旨ハ徒ラニ事實上ニ立入り原裁判ヲ非難スルニ過キサレハ上告ノ原由ナキ者ト

然レモ證據充分ナラスト看認メタル上ハ被告松右衛門ニ對シテハ治罪法第三百五十八條ニ據リ無罪ノ言渡シヲ爲スヘキニ原裁判ノ玆ニ出テサリシハ上告論旨ノ如ク擬律錯誤タルヲ免カレズ因テ該一部ハ治罪法第四百十條第十項ニ相當スル違法ノ裁判ナリトス
右ノ次第ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ノ被告小櫻松右衛門ニ係ル部分ヲ棄却シ其被告小櫻松右衛門ヘ對スル法律點ノ論旨ニ基キ同法第四百二十九條ニ依リ原裁判言渡シノ輕罪ニ關スル一部ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ裁判言渡シヲ爲スコト左ノ如シ

小櫻松右衛門

原裁判所カ認メシ事實ニ據ルニ被告カ川崎彌平方ヘ投宿シ其飲食料ヲ拂ハスシテ立出テタルハ初メヨリ詐欺ノ念慮ニ出テタルノ證據充分ナラスト因テ治罪法第三百五十八條ニ依リ無罪且ツ放免ノ言渡シヲ爲ス者也

○第四千二百九十九號
明治十六年七月六日上告
判文〔詐欺取財及竊盜〕同 十七年十一月廿九日發付

福岡縣筑前國福岡區材木町士族
無職業

深江正士

明治十六年六月二十四年

右正士カ被告事件豫審終結ノ言渡シコ對シ檢察官カ故障申立ヲ爲シタルニ付明治十六年六月四日福岡輕罪裁判所會議局ニ於テ審理ノ末豫審終結ノ言渡シヲ認可スト判決ヲ爲シタル

ニ之ヲ不當ナリトシ檢察官大崎利三郎ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ被告人カ福岡縣等外二等
 出仕ニテ會計課主計科奉職中金圓ヲ詐取セントシ官簿タル電信料假拂帳ニ多餘ノ金額ヲ書
 記シ第十七國立銀行ヨリ之ヲ騙取シ尙ホ又同縣廳金庫ノ金圓ヲ竊取セント會計課へ忍ヒ入
 リ鍵六箇ヲ竊取シタル所爲ニ對シ豫審判事ハ竊盜及詐欺取財ニ對スル刑法ノ各條ヲ適用シ
 詐取スルニ當リ己レカ管掌スル官文書偽造ノ所爲ヲ不問ニ措クヲ以テ故障申立ヲ爲シタル
 ニ原會議局モ亦之ヲ認可シタリ然ルニ其認可セラル、所ノ理由ノ第一ハ帳簿タル被告カ管
 掌ニアラストセラレタレ何等ノ點ヨリ斯ク推定サレタルモノナルヤ被告カ曩ニ福岡警察
 署ニ於テ爲シタル調書又ハ一等屬那須均カ證人トシテ會議局ノ取調ニ對セシ陳述ニ依テ見
 ルモ主任ノ帳簿ナルコト明カナルニ管掌ニアラスト認メタルハ所謂無因ノ推定架空ノ認定ナ
 リ又其第二那須均ノ押印ヲ得テ効ノ初メテ生シタルモノナレハ偽造トスルニ充分ナラスト
 ハ會議局ノ意見眞僞ノ間ニ彷徨スルカ如クニシテ趣意曖昧ナリ良シ偽造ニアラスト斷定シ
 タルモノトスルモ素ト所爲ハ偽造ニ成立ツモノナレハ犯後他人ノ所爲ニ因リ罪質ノ變更ス
 ヘキ謂レアラソヤ殊ニ偽造ニ因テ生スル害ハ均ニアラストシテ官廳ニ在ルヲ以テ旁々偽造ト
 云ハサルヲ得ス又其第三帳簿ニ多餘ノ金額ヲ記シタルハ敢テ欺罔ノ手段トシ不問ニ措キタ
 ルハ是亦何等ニ原因シタルモノナルヤ假令手段ナリトスルモ文書偽造ノ一罪構成セシモノ
 ナルニ何ソ之レヲ不問ニ付スルコトヲ得ヘケンヤ若シ之レヲ不問ニ付セハ刑法第三百九十條
 第二項ハ徒法ニ屬スト云ハサルヲ得ス故ニ原會議局ノ判決ハ治罪法第四百十條第十項ニ該
 當スト云フニ在リ

對手人被告正士ハ管掌ノ責アルニアラサレハ詐欺取財ヲ以テ論セラル、相當ナリト答辯セ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事澄川拙三ハ原判文ヲ閱スルニ本件受理ノ理由
 及判決ノ趣旨ヲ掲ゲナカラ毫モ犯罪ノ事實即チ被告カ偽造シタリト云フ帳簿ノ性質及ヒ被
 告カ其帳簿ニ如何ノ關係ヲ有スルヤヲ明示セサルハ治罪法第四百十條第九項ノ法文ニ抵觸
 スルモノト思考セリ依テ附帶上告シテ原判文ノ破毀ヲ求ムト開陳セリ因テ判決スルコト左
 如シ

原判文ヲ閱スルニ(前檢事補大崎利三郎ハ被告人他餘ノ金員ヲ帳簿ニ書記シタルハ管掌ノ
 文書ヲ偽造セシ者ナリト故障アリタルニ付其趣意書及ヒ答辯書其他訴訟書類ニ由リ云々)
 ト其受理シタルノ理由ヲ付シナカラ其偽造シタリト云フ帳簿ノ性質即チ私文書ナルヤ官文
 書ナルヤヲ詳明セス又(管掌セサル所ノ官ノ帳簿ヲ偽造セシカト云フニ那須均ノ押印ヲ得
 テ効ノ初メテ生シタルモノナレハ是亦偽造トスルニ充分ナラスト如クナレハ帳簿ニ他餘
 ノ金額ヲ書記セシハ欺罔ノ手段マテナリト斷セサルヲ得ス)ト判決シテ何ノ故ヲ以テ他人
 ノ押印ヲ要スレハ假令他餘ノ金額ヲ書記スルモ欺罔ノ手段ニ止マリテ偽造トスルニ足ラサ
 ルヤ其理由ヲ明示セサルハ本院檢察官附帶上告論旨ノ如ク事實理由ノ不備アル判決ナリト
 ス既ニ此點ヲ以テ破毀スヘキ上ハ他ノ上告點ニ對シ別ニ辯明ヲ要セス
 以上ニ辯明スル理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ニ依リ原判決ノ全部ヲ破毀シ熊本輕
 罪裁判所會議局ニ移シ更ニ審判セシムルモノ也

判文(詐欺取財及委託金費消)明治十六年八月廿二日上告
同十七年十一月廿九日發付

愛知縣尾張國名古屋區住吉町平

民板木彫刻職

安藤吉兵衛

明治十六年七月

四十五年

右吉兵衛カ詐欺取財及委託金費消被告事件ニ付明治十六年七月三十一日名古屋輕罪裁判所ニ於テ審理ノ未被告カ所爲ハ罪ト爲ラサルモノトストシ無罪ヲ言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ同裁判所檢事補青木素ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ被告カ明商講ト稱スル講會ヘ加入シ一口ノ半口ヲ佐藤肇ヘ譲リ爾來月掛金ヲ己レニ費消シタル而已ナラス當籤ノ際尙ホ未タ當籤セサル體ニ倣シ毎月該掛金ヲ詐取シタルノ所爲ハ委託金費消及詐欺取財ノ罪アルト明白ナリ殊ニ原判官ニ於テモ其實事ヲ認メナカラ被告ハ最初ヨリ欺罔シタルモノニ非ラサレハ其所爲ハ民事上ノ責任ニ止リ又佐藤肇ハ公然加入シタルニ非ラサレハ該講會ニ對シ毫モ責任ナク其掛金ヲ講會ヘ送付スルト否トハ被告ノ權内ニ在レハ委託金費消ト云フヲ得サルモノトシ無罪ヲ言渡シタルハ擬律ヲ錯誤シタル裁判ナリト論告スルニ在リ
對手人被告吉兵衛ハ答辯セズ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事安藤源五郎ハ本案上告論旨ハ原裁判ハ擬律ノ錯誤ト謂フニ在レハ未タ擬律ノ當否ヲ論シ得ヘキモノニ非ラサレハ其上告ハ相立タルモノ

ノナルモ其判文中其後モ引續キ明治十四年十二月迄同人ヨリ月々掛金五拾錢宛受取りタルモ自己ノ掛金ト共ニ世話掛リノ者ヘ送付セス云々トアル而已ニテ其意思ノ如何ト其金員ハ保存セシカ將タ費消セシヤチ明示セサルノミナラス其掛金ヲ講會ヘ送付スルト否トハ單ニ被告人ノ權内云々トノ判文ヲ降シタルハ理由ノ不備ニシテ又理由ノ齟齬セシモノト謂ハサルヲ得ス蓋シ意思ノ如何ニ因リテハ費消受寄財産又ハ詐欺取財ノ一罪ハ得テ免カル可キモノニ非ラサルナリ一步ヲ譲リ其瑕瑾アラサルモノト假定スルモ尙ホ未タ原裁判ハ正當ト認ムルヲ得ス因テ其理由ヲ辯論センニ原裁判ニ認定セル事實ニ據レハ被告ハ前顯ノ如ク其名義ヲ以テ加入セシ金百圓ノ講一口ヲ佐藤肇ト示談上ニテ組合ヒ且ツ滿會マテ抽籤セサルノ契約ヲ爲シ置キナカラ其契約ニ背キ中途ニシテ擅ニ抽籤シ其金ヲ得タルモ之ヲ肇ヘ分與セズ全ク自己ノ費用ニ供シタルト明瞭ナリ果シテ然ラハ被告ノ所爲ハ有罪タルヲ免レ能ハサルモノトス何ントナレハ右肇カ被告ト組合ヒタルハ滿會ニ至リ該講會ヲ所得セント欲スルノ目的ニ出テタルモノニシテ該講會ハ兩人間ニテ分割シ其半額ハ肇ノ所有ニ屬ス可ケレハ被告ハ必ズ之ヲ引渡サルハ得サル義務アルノミナラス暗諾上ノ依託ニ係リ融通使用ヲ止メタルモノト見做スヘキハ理ノ當ニ然ラシムル所ナレハナリ然ルニ原裁判所ハ被告ニ無罪ヲ言渡セシハ頗ル不當ノ處斷ト云ハサルヲ得ス而シテ被告カ其委託金ヲ擅用スルニ付肇ニ對シ詐欺ノ所爲アリタルヤ否ノ事實ハ原裁判ノ證明外ニ涉レハ隨テ是レカ刑法第三百九十五條前項ニ所謂費消罪ナル乎將タ同條末項ニ依リ詐欺取財ヲ以テ論スヘキモノ乎明瞭ナラズ抑モ其事實如何ヲ判定スルハ獨リ事實裁判官ノ職權ニ任從スヘキモノニシテ大審院ノ管

理外ナリトス依テ本院ニ於テハ原裁判ヲ破毀シ更ニ他ノ同等裁判所ニ移シ審判セシメラレ
ンコト望ム右ハ本案上告ニ付意見ヲ開陳シ併テ附帶ノ上告ヲ爲スト爰ニ審理ヲ遂ケ判決ス
ルコト左ノ如シ

治罪法第四百十六條第二項ニ規定スル如ク事實ノ判斷採證ノ當否ハ承審官ノ職權ニ任從ス
ヘキモノナレハ假令契約ニ違背シタル所爲アルト云フト雖モ承審官ガ其所爲罪トナラサル
モノトシ其實理由ヲ付シ判決シタル以上ハ之ヲ非難スルヲ得サルハ勿論擬律ヲ誤リタル
モノト爲スヲ得ス抑モ刑法第三百九十條第三百九十五條ノ罪タルヤ俱ニ惡意アリテ犯シタ
ル所爲ニ非ラサレハ該條ヲ以テ罰スヘキモノニ非ラス今原判文ヲ閱スルニ(之ヲ審案スル
ニ被告安藤吉兵衛ハ云々竟ニ金四拾圓餘ノ損失ヲ蒙ムラシメタルモノト認定ス)トアル
ヲ以テ此事實ヲ訴訟書類ニ照應スルニ聊カ不法ノ認定ト認ムヘキ廉ナク殊ニ佐藤肇ト組合
分ノ如キハ他ノ負債ノ爲メ講會ニ於テ當籤トナシ其負債ノ爲メ引去ラレタルモノナレハ強
チ惡意ヲ以テ被告自カラ費消シタル者ト爲スヲ得ス故ニ原判官ハ該事實ヲ察知シ(被告ハ
佐藤肇ニ對シ滿會迄抽籤セサルトノ契約ニ違背シタルモ最初ヨリ同人ヲ欺罔シタルモノニ
非ラサレハ云々委託金ヲ費消シタルト云フヲ得ス)トノ理由ヲ明示シアリテ其所爲惡意ナ
キモノト認定シタルヤ知ルヘキナリ然ラハ則チ之ヲ以テ惡意ノ有無及事實理由ノ不備且ツ
阻礙アルモノト爲ス可カラス以上ノ理由ナルヲ以テ原檢察官ノ上告及ヒ本院檢事附帶上告
論旨ハ俱ニ其理由ナクハ渾テ相立タサルモノト判定ス
右ニ依リ本案上告ハ治罪法第四百二十七條ニ則リ之ヲ棄却スルモノ也

○第四千三百一號

判文(恐喝取財) 明治十七年四月二日上告
同 年十一月廿九日發付

大坂府和泉國南郡池尻村四十四
番地平民

稻本秀次郎

明治十七年三月
三十七年八月生

明治十七年三月十一日堺治安裁判所ニ開キタル大坂輕罪裁判所ニ於テ吉田伊三郎并ニ右秀
次郎カ恐喝取財ノ被告事件ヲ審判シ吉田伊三郎ハ丸瀬源九郎ヲ恐喝シテ金圓ヲ騙取シ被告
秀次郎ハ右恐喝スルノ情ヲ知テ河内ノ筆屋ト詐リ源九郎ノ祈禱ヲ受ケ伊三郎ノ犯罪ヲ幫助
シタルト認定シ刑法第三百九十條ヲ適用シ秀次郎ハ豫備ノ所爲ヲ以テ伊三郎ノ犯罪ヲ容易
ナラシメタル者ニ付刑法第九條ニ照シ從犯ト爲シ正犯ノ刑ニ一等ヲ減シ其刑期ノ範圍内
ニ於テ被告稻本秀次郎ヲ重禁錮一月十五日罰金三圓ニ處シ刑法第三百九十四條ニ照シ六月
ノ監視ニ付スト言渡シタル裁判ヲ不法ナリトシ被告稻本秀次郎カ上告ノ趣旨ヲ節約セハ秀
次郎ハ吉田伊三郎カ丸瀬源九郎ニ對シ恐喝シテ財ヲ得ルノ情ヲ知テ其犯罪ヲ幫助ナシタル
譯ニ之レ無ク畢竟秀次郎ハ吉田伊三郎ニ會テ家相方位ヲ占ヒ賞ヒタルヲアルモ貧窮ニシテ
謝儀ヲ爲ス能ハサルヨリ身ニ適フテモアラハ報酬ノ爲メ之ヲ爲ント云ヒシ處丸瀬源九郎ナ
ル者陰ニ吉凶禍福ヲ占ヒ居ル趣キニ付幸ヒ筆墨行商ノ荷物アレハ之レヲ携帶シ筆墨商人ト
身ヲ裝ヒ源九郎方ニ罷越其實否ヲ窺ヒ吳レ度トノ依頼ニ依リ右囑託ニ應シタルマテニ源

九郎へ對シ河内ノ筆屋ト詐稱セシ事秋毫モ之レナキニ裁判言渡書ニ被告人云々河内ノ筆屋ト詐リ云々ト認定シタルハ事實理由ノ齟齬ナルモノナリ且ツ又伊三郎カ得ル所ノ金額幾分ヲ配當受ルノ契約アルニ非ラス而シテ伊三郎ニ於テモ是等ノ點ヲ自白セシナケレハ被告秀次郎ハ犯罪ノ憑據ナキモノニテ免訴ノ言渡シヲ受クヘキモノナルニ刑ヲ言渡サレタルハ擬律ノ錯誤ナル裁判ナレハ破毀ノ上更ニ至當ノ裁判ヲ請求スト云フニ在リ
原裁判所檢察官警部補宮本專一郎ハ被告カ上告ノ趣旨ハ不當ニシテ原裁判至當ナル旨答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決ヲ爲ス左ノ如シ
上告第一ノ論旨ハ原裁判ハ事實理由ノ齟齬アリト云フニアルモ其事實理由ノ齟齬トハ判文上明載シタル事實及ヒ法律ノ齟齬アルモノナリ云フニアリテ被告カ事實ナリト云フ所ト判文ニ明記スル所ト齟齬アルナリ云フニアラサレハ第一ノ論旨ハ治罪法第四百十條第九項ノ理由ニアラサルモノトス上告第二點ハ犯罪ノ憑據ナキヲ以テ免訴ノ言渡シヲ爲スヘキモノト云フニアルモ凡ソ諸般ノ憑據ヲ取捨監別シ事實ノ認定ヲ爲スハ特リ事實裁判官ノ職權ニ任從シタルモノナルヲ治罪法第四百十六條第二項法文ノ如クナレハ其裁判官ニ於テ有罪者ト認定シタル事實ニ立入之ヲ批難シテ上告ヲ爲スヲ得サルヲ治罪法第四百十條ノ各項目ニ適當ナラサルヲ以テ明白ナレハ第二論旨モ亦相立タサルモノトス
右ノ理由ナルヲ以テ上告適當ノ原由ナキモノト判定ス仍テ治罪法第四百二十七條ニ基キ之ヲ棄却スルモノナリ

○第四千三百二號

判文(冒認)明治十七年二月十六日上告
同 年十一月廿九日發付

秋田縣羽後國南秋田郡川尻村平
民農

佐藤與太郎

明治十七年一月
三十一年一月

右與太郎カ板藏冒認被告事件ニ付明治十七年一月十四日秋田縣輕罪裁判所會議局ニ於テ檢事補小澤新太郎カ爲シタル豫審終結ノ故障ニ對シ原言渡シヲ取消シ被告事件ヲ秋田縣輕罪裁判所ニ移スト言渡シタルニ被告人ハ之ニ對シ尙ホ上告ヲ爲シタリ其要領第一ハ佐藤左吉ハ被告カ先代與太郎ノ爲メ板藏ヲ建築シテ養蠶ヲ助成シタルモノナレハ固ヨリ其恩惠ナルヲ知ルヘキニ原會議局ニ於テ右ノ事實ヲ認メナカラ左吉カ口供中板藏ヲ與太郎ニ惠與シタルト認ムヘキ廉ナシト判決シタルハ事實ノ推測ヲ誤リタルモノナリ第二ハ被告ハ明治十六年四月十四日ニアリテ左吉ノ使高垣純造ノ口述ヲ信シ明治十五年一月附ノ板藏預リ證書ヲ押印シタルモノニテ該證書ノ正當ニ成立タサルヲハ同時左吉ニ差入レタル借用金證書ト紙質筆迹等符合スルニ依リ明ラカナルニ原會議局ニ於テ反對證據ノ見ルヘキナシト言渡サレタルハ是レ片定ナリ第三ハ明治十二年四月二十八日秋田縣甲第八十一號布達ニ本年甲第六十七號ヲ以テ地方稅規則相定候ニ付右戶數割ニ可相用各戶ノ個數取調候條本年五月一日現在ノ各戶宅地ノ地價建物ノ坪數雇人ノ員數等右規則ニ依リ取調同月十日限リ戶長役場へ届出今

後増減出入アル時ハ年々六月十四日十二月十四日兩度ニ役場へ可届出此旨布達候事トアルニ據レハ秋田縣ハ建物ニ稅ヲ課セシテ待タサルニ原會議局ニ於テ此布達アルニ拘ハラヌ未タ家稅賦課ノ規定アラサレハ該板藏ニ對シテ諸稅ノ係ルヘキ筈ナシト判定セラレタルハ不當ナリ因テ原判決ノ破毀ヲ求ムト云フニアリ

對手人檢事補小澤新太郎ハ原判決ハ相當ナリトノ趣旨ヲ答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事池上三郎ノ意見ヲ聽キ之レヲ判決スル左ノ如シ

上告第一第二ノ論旨ハ徒ラニ事實ノ判定ヲ非難スルニ過キサレハ固ヨリ上告ノ原由ナキ者トス然リ而シテ其第三點ニ於テ秋田縣ハ明治十二年甲第八十一號布達ヲ以テ家屋ニ稅ヲ課セシモノナルニ原會議局ニ於テ未タ家稅賦課ノ規定アラサレハ該板藏ニ對シテ諸稅ノ係ルヘキ筈ナシト判定セラレタルハ不當ナルカ如ク論告スルモ其明治十二年秋田縣甲第八十一號布達ニ戸數割ニ可相用云々トアリテ唯地方稅賦課ノ義ニ付戸數割ニ用フヘキ爲メ現在ノ各戸宅地ノ地價其他建物ノ坪數等ヲ取調ヘ戸長役場へ届出ツヘキ旨ヲ達シタル迄ニテ家屋稅賦課ノ方法ヲ規定シタルニアレハ其論旨モ相立タス因テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スルモノナリ

○第四百三十三號

判文(委託物費消)明治十六年十月廿五日上告
十七年十一月廿九日發付

山口縣周防國吉敷郡上小鯖村平

民農業

杉山國太郎

明治十六年九月十六年十一月

右國太郎カ被告事件ニ付明治十六年九月十二日山口輕罪裁判所ニ於テ審理ノ未委託物費消ノ事實アリト認メ刑法第三百九十五條同第三百九十四條ニ依リ二十歳未滿ニシテ且情狀ヲ酌量シ同第八十一條同第八十九條同第九十條ニ照シ二等ヲ通減シ一月ノ重禁錮ニ處シ貳圓ノ罰金六月ノ監視ヲ附加スト言渡シタル裁判ヲ不法ナリトシ檢事補柴崎尙善ハ上告セリ其要領ハ本案ノ事實ハ被告國太郎カ山桃行商ノ際中屋仁藏方ニテ未タ一面識モナキ石川丈吉ヨリ鱒及ヒ太刀魚ヲ被告ノ近傍ナル田中與吉方ニ送達ノ依頼ヲナシタルモノニテ被告人ハ之ヲ送達セス自宅ニ持歸リ喰費シタルヲ兩三日ヲ經テ依託者ヨリ先キニ依頼セシ物品ハ如何ナシ吳レシヤト尋テラレタルヲ先方へ送達シタルト詐リシモ到底貫ク能ハス翻テ費消シタルト答ヘタル事ハ被告及ヒ藤井九一郎石川丈吉等ノ調書ニ明瞭ニシテ毫モ詐欺ノ所爲アルヲ認メサルナリ而シテ先方へ達シタルト詐リタルハ委託物費消ノ犯後ニ在テ一時其責ヲ免レントノ遁辭ニ出テタル明白ニテ之ヲ以テ初ヨリ詐欺ノ所爲アリトハ判定シ得ラレサルナリ依テ被告人ノ所爲ハ刑法第三百九十五條前項ヲ以テ處斷スヘキモノナルニ同第三百九十四條第三百九十四條ヲ適用シタルハ擬律錯誤ナリト原裁判ノ破毀ヲ求メタ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルニ

抑刑法第三百九十三條末項ニ云フ詐欺取財ヲ以テ論センニハ豫メ詐術ヲ設ケ人ヲシテ其術策ニ陥ラシメ財物ヲ騙取シ若シ拐帶スル等ノ所爲アル者ニシテ單ニ寄託物ヲ費消シタルノミニテハ未ダ刑法第三百九十條ヲ以テ論ス可カラズ是同法第三百九十五條初項ノ規定アル所以ナリ今原裁判言渡シテ視ルニ(中)畧并太刀魚若干ノ囑託ヲ受ケ歸途届先キテ遺忘シタルヲ以テ之ヲ與吉ニ送達セス又囑託者丈吉ニ返戻セスシテ歸宅ノ上割烹飲食シ仍ホ囑託者丈吉カ被告ノ宅ニ來リタル節正ニ送達シタリト詐言シタル所爲ハ云々ト其認メタル事實ハ毫モ欺罔ノ手段ニ出テタリト見ルヘキ點ナク當ニ囑託セラレタル物品ノ届先キテ忘レタルヨリ之ヲ食費シタル者ニテ其囑託者ニ對シ送達シタリト詐言シタルハ該品費消後其犯罪ヲ辯護スルノ手段ニシテ之ヲ以テ直チニ詐欺取財ノ所爲ナリトスルヲ得ス故ニ本件ハ刑法第三百九十五條前項ニ依リ處斷スヘキ者ナルニ原裁判玆ニ出テサルハ上告論旨ノ如ク治罪法第四百條第十項ノ原由アルモノト判定ス

以上ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十九條ニ依リ原裁判ヲ破毀シ直チニ裁判スルヲ左ノ如シ

杉山國太郎

原裁判言渡シニ掲ケ認メタル事實ノ理由ハ刑法第三百九十五條受寄ノ財物借用物又ハ典物其他委託ヲ受ケタル金額物件ヲ費消シタル者ハ一年以上二年以下ノ重禁錮ニ處ストアルニ擬スヘキ犯罪ナリトス而シテ犯時二十歳未滿ナルヲ以テ刑法第八十一條ニ依リ一等ヲ減シ尙ホ同第八十九條同第九十條ニ照シ一等ヲ酌減シ通シテ二等ヲ減シ十五日以上一年以下ノ範圍内ニ於テ被告國太郎ヲ二十日ノ重禁錮ニ處スル者也

○第四百二十四號
 判文(委託物費消)明治十六年九月十四日上告
 同十七年十一月廿九日發付

福井縣越前國南條郡武生柳町四十八番地平民東京芝區愛宕町三丁目六番地醫院雇看病人

山田

明治十六年八月四十七年九月

明治十六年八月二十日東京輕罪裁判所ニ於テ右山田「シ」カ被告事件ヲ審判シ刑法第三百九十五條後項ニ依リ同第三百九十條第三百九十四條ニ照シ重禁錮二月罰金四圓監視六月ノ刑ヲ言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ原裁判所檢事補永井次郎ハ上告ヲナシタリ其要旨ハ被告ハ他ヨリ委託ヲ受ケタル金錢ヲ擅ニ費消シタル所爲ハ言渡書ニ明示シタル所ナレハ宜シク刑法第三百九十五條前項ニ依リ處斷スヘキニ裁判官ハ此事實ヲ認メナカラ詐欺取財ヲ以テ論シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在リ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルニ

原裁判言渡書ヲ閱スルニ被告人ハ他ヨリ看病人一同へ分配シ吳レ可キ旨ヲ以テ委託シタル金壹圓ヲ受取り看病人ノ内田中「ヨシ」河合「サヨ」ノ二名ヘノミ各金拾錢ヲ分配シ殘金ハ悉皆自己ニ於テ費消シタル者ナリトアリテ委託金ヲ費消シタル所爲ナルヲ明瞭ニシテ裁判官

モ亦認メタル事實ナリ然ルニ擬律ニ至リ刑法第三百九十五條末段ヲ適用シ詐欺取財ヲ以テ論シタルハ上告論旨ノ如ク擬律錯誤ノ裁判ニシテ破毀ノ原由アル者トス依テ治罪法第四百二十九條ノ成規ニ從ヒ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ裁判言渡シテナスコ左ノ如シ

山田

原裁判言渡書ニ明示シタル事實ニ依リ被告人ハ委託ヲ受ケタル金員ヲ費消シタル者ト確認ス其所爲ハ刑法第三百九十五條ニ受寄ノ財物借用物又ハ典物其他委託ヲ受ケタル金額ノ物件ヲ費消シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ストアルニ當ルヲ以テ被告人ヲ重禁錮二月ニ處スル者也

第四千三百五號

明治十六年十月廿六日上告

同十七年十一月二十九日發付

山口縣長門國豐浦郡今出村平民 農

中島 三藏

明治十六年九月 四十二年

同縣周防國吉敷郡山口今市町士 族無職業

河崎 七郎

明治十六年九月 四十九年

右三藏七郎カ被告事件ニ付明治十六年九月二十六日山口輕罪裁判所ニ於テ審理ノ末被告人共ハ委託金費消證書偽造委任狀變換行使ノ事實アリト認メ刑法第三百九十五條同第二百十條同第二百十二條ニ依リ仍ホ河崎七郎カ新法實施前ノ犯罪ハ新舊法ヲ比照シ舊法ニ於テハ雜犯律費用受寄財産條坐贓ヲ以テ論シ贓金五圓以上懲役十日新法ニ於テハ刑法第三百九十五條ニ該ルニ付舊法ノ輕キニ從ヒ懲役十日ニ處スヘシ右數罪俱發スルヲ以テ刑法第百條ニ照シ證書偽造罪ニ從ヒ各重禁錮四月罰金拾圓監視六月ニ付スト言渡シタル裁判ニ服セス被告人等ハ上告セリ三藏カ上告趣意及辯明書ノ要領ハ委託ヲ受ケタル金員ノ内六拾圓四拾錢ハ西田彌左衛門等カ債主ヘ返濟期日マテ借用セシモノニシテ百四拾圓ノ返リ證ヲ渡ス際故障ヲ爲サハルノミナラス訟廷ニ於テモ金額ノ相違ヲ申立テ大返濟延期ヲ請願セルヲ以テ明許シタルヲ知ルヘキナリ又證書ヲ偽造シタルトアルモ右債主ヨリ證書書換ノ督促ヲ受ケ精算ノ上記入セン爲メ證書ニ金高ヲ記載セス西田彌左衛門等調印シ之ヲ受取七郎ヘ渡スニ擅ニ金額ヲ記入シタルヲ以テ同人ニ迫リ百四拾圓ノ返證ヲ取り渡シ置キタリ假令延期書ヲ交付スト欺クモ借用證書ナレハ之ニ調印スルノ理アラシク是偽造ニアラサルヤ明カナリ然ルニ原裁判所ハ推測ヲ以テ犯罪者ナリト斷了セテレタルハ擬律錯誤ノ裁判ナレハ破毀ヲ求ムト云フニアリ七郎上告趣意及辯明書ノ要領ハ其證書ヲ偽造セサルトノ趣旨ハ中島三藏ト同シク其他會テ渡シ置キタル二百五拾圓餘ノ證書ヲ同人ノ依頼ニ應シ井關六兵衛代理ト記入シ百四拾圓ノ證書ニ書換遣シタルモ當時二百五拾圓餘ノ證書タリシコハ勸解廷ヘ提供シ檢印アルヲ以テモ費消セサルハ明カナリ又金額ヲ記入シタルハ上告者ニアラス吉岡忠吉カ筆蹟

ニシテ委任狀變換ノ承諾上ナルハ其貼紙ニ西田彌左衛門等ノ押印アレハナリ假ニ變換シタ
 リトスルモ既ニ五百七拾五圓ノ證書ニ書換タル上ハ無効ニシテ反古紙ナリ然ルニ原裁判所
 ハ被告カ利益ナル證據ハ一ツモ之ヲ採ラス其理由ヲ明示セサルノミナラス薄弱ナル證言現
 在ノ證書ニ據リ推測ヲ以テ有罪者ト斷定シ加之數罪俱發ヲ以テ處斷シタルニ私書偽造ハ委
 託金費消ヲ掩ハン爲メナレハ即チ從ニシテ金員費消ハ主ナリ其從タル私書偽造罪ヲ重シト
 ナシタルハ擬律錯誤且越權ノ處分ナレハ原裁判ヲ破毀アラントチ要求スト云フコアリ
 大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルニ被告人カ上告趣
 旨ハ證書委任狀等ハ熟議上ノ成立ニシテ偽造シタルニアラス委託金員モ亦承諾上借受或ハ
 費消シタルモノナリト其他論議スル所アルモ要スルニ事實裁判所カ特有スル權内ニ侵入シ
 其認定セシ事實ニ對シ探證ノ當否ヲ論難スルニ過キサレハ破毀ヲ求ムル原由トナストチ得
 ス何ントナレハ治罪法第四百六條第二項ノ規定アレハナリ而シテ七郎カ探證取捨ノ理由
 ヲ明示セスト云フモ證據取捨ニ付一々理由ヲ詳記スヘキ命令法アルニアラサレハ之ヲ指シ
 テ違法ト云フチ得ス殊ニ原判文ニ其事實ヲ掲ケ證據ヲ明示シアレハナリ又假リニ證書變換
 シタリトスルモ證書ヲ書換タレハ無効ナリト云フモ既ニ權利義務ニ關スル證書ヲ變換シ授
 受シタル上ハ其所爲ノ消滅スヘキ者ニアラス又數罪俱發ヲ以テ斷了シナカラ其所爲ノ從タ
 ル私書偽造ノ犯罪ヲ重シトシ判定チ下タシタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニアルモ其犯罪情
 狀ノ輕重ヲ以テ判斷シ其一ニ從フハ刑法第百條明文ノアルアリテ其罪ノ主客ヨリ論定スヘ
 キモノニアラサレハ是又違法ナリト云フチ得ス因テ上告ノ趣旨總テ相立タサルモノト判定

ス以上ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スルモノ也
 ○第四千三百六號

判文(因公科斂) 明治十七年一月廿二日上告
 同 年十一月廿九日發付

廣島縣備後國沼隈郡水呑村平民
 古着商

和田 吉三郎

明治十六年十月
 五十二年十月

同縣同國深津郡新涯村平民農

大 瀬 石 太郎

明治十六年十月
 三十八年

右吉三郎石太郎カ被告事件ニ對シ明治十六年十二月十四日廣島縣輕罪裁判所尾道支廳ニ於テ
 被告吉三郎ハ戶長奉職中筆生石太郎ト共謀シ正數外ノ徵收ヲ爲シタルモノト認メ新舊法ヲ
 比照シ其輕キ舊法受贓律因公科斂條并ニ例第二十三條ニ依リ官吏私罪贖例圖ニ照シ吉三郎
 ハ贖罪金七圓五拾錢石太郎ハ共犯罪分首從律ニ依リ且酌量減等シテ贖罪金三圓ニ處スト言
 渡シタル裁判ヲ不法ナリトシ右兩名ハ各上告チ爲シタリ吉三郎上告第一ノ要旨ハ明治十三
 年度前半期ノ協議費ハ村會議ノ正式ヲ履マスシテ議決セシモ戶長其任ノ過失ニ止マリ行政
 上懲戒ノ處分ヲ受クヘキモノニシテ刑法ノ支配ス可キモノニ非ラス是該裁判ハ越權ノ處分
 アリト云フ所以ナリ第二ハ前條ニ陳辯スルカ如ク私罪ニ非ラスシテ職務上ノ過失ニ止リ刑

法ニ正條ナキヲ以テ無罪ナルニ刑ヲ言渡シタルハ擬律ノ錯誤ナリ又明治十四年第八十一號
 布告第一條第十二條ニ依リ新舊法對比ニ付罰金ノ刑名ニ變スヘキハ論ヲ竣タサルニ否ラサ
 リシハ亦擬律ノ錯誤ナリ第三私訴裁判費用ヲ連帶シテ負擔スヘシト言渡シタルモ本訴ニ附
 帶セシ私訴アルヲ聞カス是請求ヲ受ケサル事件ニ付キ判決ヲ爲シタルナリ故ニ治罪法第四
 百十條第七第十第十一ニ依リ上告スト石太郎カ上告ノ要旨ハ協議費ノ成議案ニ超過シタル
 ト探藻費金ヲ徵收シタルトハ正數内タル明カナルモ村會議ノ式ニ依ラサル變則ノ集會ニ出
 テタルヲ以テ其議決ヲ採ルト採ラサルトハ行政官ノ處分ニ屬スヘキモノナレハ該裁判ハ行
 政權ニ濫入シタル越權ナリ又行政ノ處分タル上ハ刑法第二條ニ依リ無罪ヲ言渡スヘキニ刑
 ノ言渡シヲ爲シタルハ即チ擬律ノ錯誤ナリ假リニ一步ヲ讓リ有罪ナリトスルモ被告ハ筆生
 ニシテ戸長ノ命ヲ奉シテ爲シタルモノナレハ刑法第七十六條ニ依リ無罪タルヤ論ヲ竣タサ
 ルナリ故ニ治罪法第四百十條第十項第十一項ニ因リ上告スト云フニ在リ
 對手人檢事補深町直壯ハ被告兩名ノ上告ハ治罪法第四百十條ノ各項ニ適當セサルヲ以テ棄
 却スヘキ者ト考量スル旨答辯ヲ爲シタリ
 本院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルコト左ノ如シ
 和田吉三郎上告第一ノ理由ニ對シテハ假リニ該協議費ノ賦課法ヲ議シタリト爲スモ會議ノ
 法式ヲ履マヌ又縣令ノ認可ヲ受ケタルニモ非ラサレハ其効ナキノミナラス正數外ノ徵收ヲ
 爲シタルモノト認定シタル上ハ其罪ヲ斷スルハ裁判官ノ職權ナレハ以テ越權ノ處分ト云フ
 ナ得ス第二ニ對シテハ其所爲タル私罪ニシテ公罪ニ非ラサルノミナラス有心故造ニ出テタ

ルモノト既ニ原裁判言渡シニ認メタル事實ナレハ刑法ノ制裁ヲ免カル可カラヌ第三私訴裁
 判費用云々ノ廉ハ原檢察官答辯ノ如ク公訴裁判費用ノ誤寫ナルコト明白ニシテ其他ハ被告カ
 誤解ニ出テシ論旨ナルモノトス何トナレハ其贖罪金ニ處シタルハ新法實施前ノ犯罪ナルヲ
 以テ刑法第三條第二項ニ照シ舊法ノ輕キニ依リ處分スヘキ者ナレハナリ大瀨石太郎カ上告
 ノ要旨ハ右吉太郎カ第一第二ノ理由ト同一ナルニ依リ別ニ辯明セス被告ハ筆生ニシテ戸長
 ノ命ヲ奉シテ爲シタル云々ニ至テハ已ニ原裁判所カ從犯ヲ以テ論シタル上ハ徒ラニ事實ノ
 判定ヲ非難スルニ過キサレハ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ヌ之ヲ要スルニ治罪法第四百十條
 各項目ニ適合セサルニ依リ同第四百二十七條ニ照シ該上告ハ總テ棄却スル者ナリ
 ○第四千三百七號

判文(盜賊故買) 明治十六年十月八日上告
 同 十七年十一月廿九日發付

茨城縣常陸國河内郡芝崎村二百
 十八番地平民彌惣兵衛長男

有 阪 子 之 助

明治十六年七月
 二十年一月生

明治十六年九月十五日東京輕罪裁判所ニ於テ右有阪子之助カ被告事件ヲ審理シ盜賊ヲ故買
 シ又ハ其牙保ヲ爲シタル所爲アリトシ刑法第三百九十九條ニ依リ二罪俱發スルヲ以テ同第
 百條ニ照シ犯情最重キモノニ從ヒ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三拾圓以下ノ
 罰金ヲ附加スヘキ所犯時十六歲以上二十歲未滿ナルニ因リ同第八十一條ニ照シ本刑ニ一等

減シ六月ノ重禁錮ニ處シ拾圓ノ罰金ヲ附加シ仍ホ同第四百條ニ依リ十月ノ監視ニ付スト
 言渡シタル裁判ニ服セス被告人カ上告シタルノ要旨被告人ハ盜賊ニ係ル古金銀ヲ賣却シタ
 ルコナク又衣類賣買ノ周旋ヲ爲シタルコトアルモ其盜賊タルノ情ヲ知リタルニ非ラズ然ルニ
 原裁判所カ警察官ノ檢證調書巡査ノ告發書被告人ノ自陳金原常吉ノ陳述ヲ以テ證據充分ナ
 リトスルハ探證法ニ違フト云ハサルヘカラス何トナレハ被告人ハ公判廷ニ於テ盜賊ノ情ヲ
 知リタルト自陳シタルコトナク警察官ノ調書ハ拷訊ニ出テ任意ノ白狀ニ非ラサレハナリ又判
 文中其盜犯ノ誰タルヲ明示セスシテ盜賊ナリト定メ及ヒ濧中文七八被告人ノ知ラサル者ナ
 ルニ公判廷ニ於テ賣却ノ手續ニ付之ヲ喚問セズ輒スク有罪ノ判定ヲ爲シタルハ審理ヲ盡サ
 ス且事實ノ理由ヲ明示セサル不法ノ裁判ナレハ治罪法第四百十條第九項ニ基キ上告スト云
 フニアリ

原裁判所檢事鹽野宜健カ附帶上告ノ趣旨被告人ハ大木多三郎ト共ニ菊地忠平方ニ於テ土藏
 戸前ヲ切リ忍入衣類古金銀等ヲ竊取シ賣却シタルノ事實ハ證據充分ナルヲ以テ刑法第三
 百六十八條第三百六十九條ヲ犯シタル者ト爲シ公訴ヲ提起シタルニ單ニ其賊ヲ賣捌タルノ
 所爲ニ就テ之ヲ判決シ本案公訴ノ要旨タル其賊ハ被告人カ竊取ニ係ルノ點ニ至テハ之ヲ漠
 然ニ付セリ是レ請求ヲ受ケタル事件ニ付判決ヲ爲サル不法ノ裁判ナレハ破毀シテ相當ノ
 判決アラントヲ求ムト

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ判決ヲ爲ス左ノ如シ
 本案公判始末書ヲ閱スルニ其公訴ハ竊盜事件ニ付提起シタルモノタルコト明白ナレハ宜ク此

公訴ノ趣旨ニ基キ審理判決ヲ爲スヘキハ當然ナルニ原裁判所カ竊盜所爲ノ有無如何ニ付テ
 ハ何等ノ判斷ヲ爲サス却テ盜賊ヲ故買シ又ハ其牙保ヲ爲シタル所爲アリトノ事實ヲ認定シ
 刑ヲ言渡シタルハ檢察官附帶上告趣旨ノ如ク請求ヲ受ケタル事件ニ付判決ヲ爲サス即チ治
 罪法第四百十條第七項ノ原由ニ該當スル不適法ノ裁判ナリトス已ニ此點ヲ以テ原裁判ヲ破
 毀スヘキニ因リ被告人カ上告趣旨ノ當否ハ別ニ辯明ヲ要セサルナリ
 右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ノ成規ニ從ヒ原裁判言渡シノ全部ヲ破毀シ被告
 事件ヲ橫濱輕罪裁判所ニ移シ更ニ審判セシムルモノナリ

○第四百三十八號

判文(贓物故買) 明治十七年三月十七日上告
 同 年十一月廿九日發付

東京府神田區美土代町三丁目五
 番地平民人力車挽

内 沼 儀 助

明治十七年三月

三十六年八月

明治十七年三月一日東京輕罪裁判所ニ於テ被告ハ曩キニ竊盜ノ科ニ依リ重禁錮六月監視六
 月ニ處セラレ主刑滿期ノ後植松萬吉方ニテ監視中安川嘉市ヨリ盜賊タルコトヲ知テ唐銅ノ茶
 釜壹個ヲ買取シ又ハ無斷ニ家出シ小松巳之八方へ三泊シタルモノト判定シ其巳之八方へ宿
 泊セシ所爲ハ監視規則ヲ犯シタルニアラサレハ刑法第二條ニ依リ治罪法第三百五十八條ニ
 基キ無罪ナリト雖モ盜賊ヲ買取リタル所爲ハ刑法第三百九十九條ニ依リ第九十二條ニ照シ

重禁錮二月罰金五圓ニ處シ仍ホ同第四百條ニ從ヒ監視八月ニ付スト言渡シタル裁判ヲ不法トナシ同裁判所檢事補澤野一兵ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ本案被告ニ於テハ安川嘉市カ盜賊ヲ故買シ已ニ判決ヲ經タル後該故買ノ物件ナルヲ知リ之ヲ買取セシ事實ニシテ即チ故買犯ニ因リ得タル物件ヲ該故買者ヨリ買取シタルモノナレハ所謂犯罪ニ關シタル物件ナリ故ニ刑法第四百一條ニ依リ處分スヘキモノナルニ同第三百九十九條ヲ適用シタルハ擬律錯誤ノ裁判ニ付破毀ヲ求ムト云フニアリ

對手人被告儀助ハ答辯書差出サス

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ式ヲ履行シ之ヲ審案スルニ上告ノ要旨ハ盜賊故買者ヨリ其故買ノ情ヲ知リ物件ヲ買取シタルハ所謂犯罪ニ關スル物件ニシテ刑法第四百一條ニ依リ處斷スヘキニ原裁判ノ此ニ出テサルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニアリ然レモ刑法第三百九十九條ハ特ニ強竊盜ノ賊物ナルヲ知了シ之ヲ受テ若クハ寄藏買取スル者等ニ適行スヘキモノナレハ假令其賣買ニ付賊物ハ盜犯ト直接ニ授受セサルモ既ニ盜賊タルヲ知了シ之ヲ買取セルニ於テハ敢テ買取者ノ間接ナルヲ問フヲ要セス故ニ原判文上被告ハ安川嘉市ヨリ盜賊タルヲ知テ唐銅茶釜壹個ヲ代金七拾錢ニ買取セルモノト判定シアレハ敢テ瑕瑾ノ點ナキモノトス何トナレハ盜賊タルヲ知了シ之ヲ買取セシ理由ヲ明示シアレハナリ畢竟原裁判ハ法律ノ適用ヲ誤リタルニアラサレハ上告趣旨ハ其効ナキモトス因テ治罪法第四百二十七條ニ則リ本案上告ハ之ヲ棄却スル者也

○第四百三十九號

判文(贓物故買) 明治十六年九月七日上告
同 十七年十一月廿九日發付

岐阜縣美濃國厚見郡岐阜白木町

平民

廣 瀬 作 次 郎

明治十六年八月十九年

明治十六年八月十七日岐阜輕罪裁判所ニ於テ右廣瀬作次郎ハ盜賊故買ノ所爲アリト判定シ刑法第三百九十九條ニ照シ犯時二十歳未滿ナルヲ以テ本刑ニ一等ヲ減シ重禁錮一月二十日ニ處シ罰金三圓ヲ附加シ仍ホ刑法第四百條ニ照シ監視六月ニ附スル旨宣告セリ廣瀬作次郎ハ右ノ裁判ニ服セス上告ヲナシタル要旨ハ被告ハ元來古衣商ニシテ正當ノ賣買ヲナシタル者ニシテ當時盜賊タルヲ知ラス然ルニ原裁判所ハ前記ノ如ク判定シタルハ事實ノ理由ヲ附セサル者ナリト云フニ在リ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事加納久宜ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
 證據ノ採擇事實ノ認定ハ原裁判所承審官ノ特權ニシテ越權其他法律ニ背キタル處分アルニ非ラサル限リハ他ノ左右シ得ヘキ者ニ非ラス本案ノ如キ盜犯タル驚見菊彌カ陳述及ヒ塚原卯兵衛信田平十郎ニ對シタル聞取書等ニ據リ其事實ヲ推測シタル理由ヲ判文ニ明記シアリテ毫モ不法トナス廉アルヲ視ス然ラハ則チ本案上告論旨ハ原判官カ職權ニ據リ認定シタル事實ヲ左右セント試ムル者ニ過キヌシテ治罪法第四百十條各項ニ定メタル上告ノ原由ナキ者トス依テ同法第四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スル者也

○第四千三百十號

九五二

判文〔失火〕明治十六年九月二十日上告
同十七年十一月廿九日發付

佐賀縣肥前國杵島郡片白村平民
瓦製造職

峯 松 伊三郎

右伊三郎カ被告事件ニ付明治十六年八月二十七日佐賀輕罪裁判所ニ於テ審理ノ未借受ケア

明治十六年八月

五十二年

ル他人所有ノ瓦製造納屋ニ火ヲ失シ燒燬ニ至ラシメタル事實アリト認メ而シテ該納屋ハ任
意承諾ヲ以テ貸借支有シテ假有權アルモノナレハ民法上其損害ヲ償フヘキ義務アルモノニ
テ刑法第四百九條ヲ適用スヘキ所爲ニアラストシ刑法第二條ニ依リ其所爲ヲ論セスト言渡
シタル裁判ヲ不當ナリトシ檢事山根恭太ハ上告シタリ其要領ハ民法上合意ヨリ成立チシ貸
借契約ニ因リ得タル家屋ハ專ラ之ヲ使用スルノ權利ト之ヲ保護スルノ義務アルモノナルモ
決シテ所有權ヲ得タル者ト爲スヲ得可カラズ賃借者ニシテ火ヲ失シテ該家屋ヲ燒燬シタル
所爲アル上ハ刑法第四百九條ヲ適用スヘキ當然ナルニ原裁判所カ其事實ヲ認メナカラ刑法
第二條ニ依リタルハ擬律錯誤ナリト云ヒ原裁判ノ破毀ヲ要求セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルニ
刑法第四百九條ニ火ヲ失シテ人ノ家屋財産ヲ燒燬シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ
處ストアリテ苟モ他人所有ノ家屋ニ火ヲ失シ燒燬シタル時ハ該條ノ罪ヲ構造スル勿論ニシ

テ其家屋ノ己レ賃借シ在ルト否トハ敢テ失火罪構造ニ必要ノ原素ニアラサルナリ而シテ原
裁判所ハ被告人カ安藤利吉ヨリ借受タル野中兼吉所有ノ瓦製造納屋ニ火ヲ失シ燒燬シタル
事實ヲ判文ニ掲ケ明認シナカラ賃借支有シテ假有權アリトノ理由ヲ付シ無罪トシタルハ治
罪法第四百十條第十項ノ原由アル裁判ナリトス
以上ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十九條ニ依リ廢裁判ヲ破毀シ直チニ裁判スルヲ左ノ
如シ

峯 松 伊三郎

原裁判言渡シニ掲ケ認メタル事實理由ハ刑法第四百九條火ヲ失シテ人ノ家屋財産ヲ燒燬
シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ストアルニ擬スヘキ犯罪ナリトス因テ被告人
伊三郎ヲ貳圓ノ罰金ニ處シ裁判費用ヲ科スル者也

○第四千三百十一號

判文〔家屋毀棄〕明治十六年十月十六日上告
同十七年十一月廿九日發付

神奈川縣武藏國西多摩郡上長淵
村三十五番地平民

宇津 水源三郎

宇津 木盛太郎

宇津 木盛太郎

明治十六年九月
五十四年三月
明治十六年九月
二十五年一月
九五三

右源三郎カ家屋毀壞事件ノ豫審終結言渡シニ付明治十六年九月十九日横濱輕罪裁判所八王子支廳會議局ニ於テ被告源三郎ト共ニ謀リ玉泉寺末寺永福寺ノ堂宇ヲ毀壞シタルモノヲ以テ刑法第四百十七條ニ該ルモノトシ治罪法第二百五十二條ニ照シ豫審終結言渡シヲ取消シ被告事件ヲ横濱輕罪裁判所八王子支廳ニ移シ被告二名ハ八王子監獄署ニ拘留スヘキ旨言渡シタル裁判ニ對シ被告源三郎及ヒ盛太郎カ上告シタル要領ハ第一證人ノ陳述ト被告カ縣廳ヘ差出タル届書トヲ以テ被告ハ故サラニ永福寺ノ堂宇ヲ毀壞シタル者ト判定セラレタリト雖モ人證ハ概スク之ヲ採用スヘキモノニ非ラス又其證人等トスルハ誰ヲ指シタルヤ明瞭ナラサレト總テ本件ニ關係スル證人ヲ稱シタルモノナルヘシ果シテ然ラハ其證人中ニハ被告カ無罪タルヲ證スル者モ亦之アルヘシ因テ證人ノ陳述ニ依リ犯罪者視セラレタルハ事實ニ於テ矛盾スル廉アリト云フヘシ第二縣廳ニ届出テタル書面ハ決シテ不正視セラレヘキモノニ非ラス抑該書面ハ本訴ニ因テ成立チタルモノニ非ラス即チ當時ノ事實ヲ記載シタルモノニテ其性質公證トモ云フヘキモノニシテ本件ノ告訴ニ依テ之カ効力消滅スヘキ筈ナシ然ルニ本件人證ノ爲メ之ヲ排斥セラレタルハ不法ノ判決ナリト云フヘシ第三其堂宇ヲ毀壞シタルハ如何ナル方法ヲ用ヒシヤ又原判文ニ村民ヲシテ之ヲ毀壞セシメトアルハ誰ヲ使役シテ毀壞シタルヤ一々之ヲ明示セラレサリシハ不法ノ判決ナリト云フヘシ因テ該會議局ノ判決ニ越權ノ處分アルヲ以テ之ヲ破毀セラレシヲ請求スト云フニ在リ

原檢察官檢事補瀧本了最ハ被告上告ハ其理由ナキ旨ヲ答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ上告代官人中村剛ノ陳述ハ上告趣旨ヲ擴充シ且本件ハ

玉泉寺ノ告訴ニ原因シ加ルニ同寺ニ於テ民事原告ヲ以テ永福寺堂宇損害要償ノ私訴ヲ爲シタリ抑永福寺ハ玉泉寺ノ末寺ナリト雖モ此ノ本末ノ唱ハ宗教上ノ唱ヘニテ俗ニ本家末家ト唱ヘ末家ノ遺産ハ本家ノ所有ト云フ如キモノニ非ラス何トナレハ永福寺ノ堂宇ハ元檀家ノ者ニテ建設シタルモノニシテ風災ニ係リタル同寺破毀ノ木材ハ固ヨリ本寺即チ玉泉寺ノ所有物件ト爲スヘキモノニ非ラサルヲ以テナリ因テ永福寺ノ堂宇破毀シタル木材等ヲ檀家ノ者カ之レヲ取り片付ケタルヲ以テ玉泉寺ニ於テ永福寺ノ物件ヲ所有視シテ告訴及ヒ私訴ヲ爲スヘキ權利アルヲナシ故ニ被告カ所爲ハ罪トナルヘキモノニアラサル旨ヲ陳辯セリ因テ立會檢事池上三郎ノ意見ヲ聞キ判決スル左ノ如シ

本案上告第一ニ會議局カ證人等トノ記載シテ其證人ハ誰タルヤ其姓名ヲ明示セサルハ越權ノ處分ナル旨申立ルト雖モ原判文ニ(故障ノ要領ハ二點ニアリ一曰ク被告宇津木源三郎ハ戶長奉職中下長淵村ニ建設セル玉泉寺ノ末寺永福寺ノ堂宇ハ明治十五年三月十七日夜大風ノ爲メ倒レタルトノ詐欺ノ届書ヲ縣廳ニ出シ之レヲ毀壞シテ賣却セリ即チ三田由五郎外四名ノ證言及ヒ該寺ノ代理タル安西一山ノ陳述ニ依リ明瞭ナリ故ニ被告ノ所爲ニ對シ刑法第四百十七條ヲ適用スヘキハ當然ナルニ謂ハレナク三田由五郎等ノ證言ヲ却ケ被告ノ提供スル届書及共犯ト見認ムル宇津木盛太郎ノ陳述ヲ信シ輒スク免訴ノ言渡シヲ爲シタルハ探證ヲ誤リタル不當ノ終結ナリ云々トアリ又(證人等ノ陳述書ト被告カ縣廳ヘ差出シタル届書ニ依レハ云々)トアルヲ見レハ原判文ニ其證人等ト云フハ前ニ三田由五郎外四名及ヒ該寺ノ代理タル安西一山ノ陳述ヲ指シタルハ此文意ニ依テ明白ナリ故ニ原判文ハ證人ノ誰タ

ルヤ其姓名ヲ明示セサル越權ノ處分ナリト謂フヲ得ス上告第二及ヒ代言人ノ陳述ハ要スルニ原裁判ノ探證方ト事實判定ニ對シテ其當否ヲ非難スルニ過キス然ルニ諸般ノ徵憑ヲ取捨シテ事實ヲ判定スルハ裁判官ノ特權ナルコト治罪法第四百十六條第二項ノ文詞ニ依テ明晰タリ故ニ原裁判官カ認メタル事實ニ於テハ之ヲ動カスヘカラサルモノトス第三原判文ニ村民ヲシテ之ヲ毀壞セシメト記載シ其誰レナルヤヲ示サハ不法ナリト云フト雖モ原會議局ハ被告カ堂宇ヲ毀壞セシメタルモノト認メタル以上ハ其村民ノ氏名ヲ一々明示セサルモ之ヲ以テ不當ト云フヲ得ス因テ本案上告ハ總テ治罪法第四百十條外ニ涉ル上告ナルヲ以テ同法第四百二十七條ニ依リ之ヲ棄却スルモノ也

○第四百三十二號
 判文(水利妨害) 明治十六年十月一日上告
 同 十七年十一月廿九日發付

岐阜縣美濃國惠那郡藤村平民農

丹羽 治 左衛門

明治十六年九月

同縣同國同郡同村平民農

丹羽 隈三郎

明治十六年九月

同縣同國同郡同村平民農

笠井 重助

明治十六年九月

同縣同國同郡同村平民農

渡 邊 勇 治

明治十六年九月

同縣同國同郡同村平民農

古 田 惣 助

明治十六年九月

右治左衛門外四名カ被告事件ニ付明治十六年九月十七日御嵩治安裁判所ニ開キタル岐阜縣輕罪裁判所ニ於テ被告五名ハ他人有所ノ用水并ニ畦ヲ切落シタルモノト認定シ刑法第四百二十三條第百四條ニ依リ各重禁錮一月ニ處シ罰金貳圓ヲ附加スト言渡シタル裁判ニ對シ被告治左衛門外四名カ上告爲シタル要旨ハ同村渡邊龜次郎所有ノ用水或ハ畦ヲ切落シ水路ヲ暴害シタル者ト認定セラレタリト雖モ抑該溜池タルヤ元同村林愛助ノ所有ニノ當時其溜池ノ水壹尺五寸ニ充ルヲ所有者ノ支用トシ壹尺五寸以上ノ餘リアル水ハ水地下水所有者ニ分賦シ乾水ノ愛ヲ支フル約定アリ然ルニ愛助ハ該地所并ニ溜池共龜次郎ヘ賣渡シ目下同人ノ所有ニ歸シタリト雖モ其流水ノ事ニ於テハ愛助所有ノ時ト同様タルヘキ約定シ舊約定書ヲ改ル手數ヲ省キ置キタリ然ルニ明治十六年ノ如キハ用水乏ク該水地下水植付ノ作物將ニ枯ントスルノ時恰モ好シ該溜水壹尺五寸以上アルヲ以テ公然其水ヲ引用スルモ妨ケナケレハ該溜池ノ畦ヲ切り落シタルモノニシテ故ナク之ヲ決潰シ他人ノ便益ヲ損シタルモノニ非ラス今假リ

該約定書ハ舊所有者ト爲シタルモノニシテ現今ノ所有者ニ至ツテ其効力消滅シタルモノトシテ平決シテ然ラス何トナレハ被告ニ於テ龜次郎ニ哇チ切ラント言入レタル時之ヲ斷ルニ非ラス只暫時ノ延期ヲ請ヒタルハ即チ該地所賣買ノ節舊約定證書ヲ履行スヘキヲ知ルモカナルハ且龜次郎カ其舉ノ非ナルヲ責メスシテ現ニ其場ニ立會タルハ該約定ノ破ル可ラ約定シタル同主義ヲ以テ爲取替書ヲ被告等ニ與ヘタルハ自ラ其共有物タルヲ信セシモノニ非ラスシテ何ソヤ是ニ由テ之ヲ觀レハ被告等カ他人ノ便益ヲ損セン爲メ故ナク哇チ決潰シ氷利ヲ妨害シタル者ニ非ラサルヲ明白ナリト云フニ在リ

原檢察官警部補稻吉綱五郎ハ被告上告ハ不當ニシテ其理由ナキ旨ヲ答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スシ左ノ如シ

本案上告趣旨ノ歸スル所ハ原裁判ノ事實判定ニ對シテ不服ヲ唱ルニ過キス抑諸般ノ徵憑ヲ取捨シ事實ヲ判定スルハ固ヨリ裁判官ノ特權タルヲ治罪法第四百四十六條第二項ノ文詞ニ依テ明瞭ナリ故ニ原裁判官カ諸般ノ證據ニ依リ認メタル事實ニ於テハ他ヨリ之レヲ動カシ得ヘカラサルモノトス本案上告ハ治罪法第四百十條外ニ涉ルモノナルヲ以テ同法第四百二十七條ニ依リ之レヲ棄却スルモノナリ

○第四百三十三號

判文〔器物毀棄〕明治十七年三月十九日上告
同 年十一月廿九日發付

熊本縣肥後國合志郡神明村平民

無職業

中 村 甚 八

明治十七年二月
五十五年

右甚八カ被告事件ニ付明治十七年二月二十六日熊本輕罪裁判所ニ於テ被告ハ明治十七年二月十二日酩酊ニテ于場伊八方洗湯ニ立越シタル際入浴差止メラレタルヲ憤リ其戸口障子並ニ暖簾ヲ毀棄シタル者ト判定シ刑法第四百二十一條ニ依リ罰金三圓ニ處スト言渡シタルニ檢事補内村甚八之ヲ不法ナリトシ上告ヲ爲シテ其要領ハ今回被告カ毀棄セシ障子ハ家屋ノ外圍ニ屬セシモノナレハ不動産即チ家屋ノ一部トシテ論スヘキモノトス然ルチ他ノ動産ナル尋常器物ト同シク論シ刑法第四百十七條ヲ適用セカリシハ不法ナルヲ以テ之カ破毀ヲ求ムト云フニ在リ

對手人被告中村甚八ハ答辯セズ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事安藤源五郎ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ

上告ノ理由トスル所被告カ毀棄セシ障子ハ家屋ノ外圍ニ屬セシモノナレハ不動産即チ家屋ノ一部トシテ論スヘキニ他ノ動産ナル尋常器物ト同シク論シ刑法第四百十七條ヲ適用セカリシハ不法ナリト云フニアルモ原裁判所カ認メシ事實ニ據ルニ戸口障子トアリテ其家屋ノ外圍ヲ爲シタルモノト認メタルニアラサレハ其刑法第四百二十一條ニ據リ處斷シ同第四百十七條ヲ適用セカリシハ相當ニシテ不法ノ裁判ニアラスト因テ上告ノ趣旨相立タズ

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スル者也

九六〇

○第四千三百十四號

判文〔無届不參〕明治十七年二月廿九日上告
同 年十一月廿九日發付

新瀨縣越後國西蒲原郡大作新田
平民

廣田 五郎 太

右五郎太カ無届不參被告事件ニ付明治十六年十二月二十二日新瀨始審裁判所ニ於テ明治十年第五號布告ニ據リ罰金五圓ニ處シタリ被告ハ之ニ服セス上告セリ其要旨ハ明治十六年十二月十九日該廳ヨリ召喚ヲ受ケタルコトナキニ之カ罰金ヲ科スル理由ナシト云フニアリ對手人檢事補蔭山政紀ハ上告ノ不法ナルヲ駁撃シ原裁判允當ナリト答辯セリ
大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ踐行シ判決スル左ノ如シ
凡判官ノ裁判ヲ爲スニ方テハ心證ニ供スル證憑ナカラサル可カラズ然ルニ本案一件書類ヲ徵スルニ被告カ召喚ヲ受ケタル證據一モ見ルヘキモノナキニ漫然罰金ノ言渡シヲ爲シタルハ上告論旨ノ如ク治罪法第四百十條第十一項ニ相當セル不法ノ言渡シナリトス因テ同法第四百二十八條ニ從ヒ原裁判言渡シノ全部ヲ破毀シ更ニ審判セシムル爲メ福島輕罪裁判所若松支廳ヘ移スモノ也

○第四千三百十五號

判文〔無届不參〕明治十七年十月卅一日再審
同 年十一月廿九日發付

兵庫縣但馬國出石郡出石宵田町
平民

赤木 彌平

年齡不詳

明治十六年五月十五日豐岡治安裁判所ニ於テ右赤木彌平ハ山田平三郎ヨリ相係ル勸解第千二百八十五號事件ニ付差紙受取證差出シ置ナカラ召喚ノ當日無届不參シタルモノトシ明治十年第五號公布及明治十四年第七十二號公布第三條ニ依リ罰金五圓ニ處スト言渡シタル裁判確定後赤木彌平カ再審ノ訴ヲ爲シタル趣旨ハ自分事未ダ曾テ山田平三郎ナル者ヨリ勸解出願セラレタルコトナシ依テ原裁判言渡書ニ掲記スル第千二百八十五號勸解事件表ヲ寫取リ之ヲ檢閲シタルニ該被告ナル者ハ自分同町平民赤木又兵衛タルコトヲ發見シタリ是レ即チ治罪法第四百三十九條第五項ニ該當シタル再審ノ原由アリト思料スルヲ以テ相當ノ判決ヲ求ムト云フニ在リ

神戸輕罪裁判所豐岡支廳檢事補高田休烈ハ原裁判ハ事實ニ錯誤アル失當ノ言渡シナルヲ以テ再審ノ原理アリトノ意見書ヲ差出シタリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告書及ヒ本院檢事長ノ意見書ニ依リ判決ヲ爲スコト左ノ如シ
案スルニ本案刑ノ言渡シヲ受ケタル者赤木彌平ハ山田平三郎ヨリ出願シタル明治十六年五月十五日勸解第千二百八十五號事件ノ被告ニアラサルコトハ原裁判所ヨリ檢事補高田休烈ヘ宛タル回答書ニ云々取調ル所全ク山田平三郎ヨリ赤木又兵衛ヘ係ル事件ニテ前陳彌平ヘハ

九六一

一切關係無之トアルニ依レハ訴訟書類ニ錯誤アルヲ明瞭ナル如シ則チ治罪法第四百二十九條第五項ニ適當シタル再審ノ原由アルモノトス
以上ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百四十五條ニ依リ原裁判言渡シテ破毀シ京都輕罪裁判所ニ移シ更ニ審判セシムルモノナリ

○第四百三十六號

判文〔無届不參〕明治十七年三月廿九日上告
同 年十一月廿九日發付

秋田縣羽後國雄勝郡橫堀村士族

西村 半十郎

年齡不詳

明治十七年二月二十七日大曲治安裁判所ニ於テ判事補島田忠雄及ヒ長岡茂一ハ右半十郎ヲ無届不參ノ罪アリトシ忠雄ハ明治十年第五號布告ニ依リ罰金拾圓ヲ言渡シ茂一ハ同布告ニ依リ罰金三圓ヲ言渡シタルニ被告人ハ之ニ對シ上告ヲ爲シタリ其要領ハ明治十七年二月二十三日呼出刻限前猶豫願ヲ差出シタルニ代人願相添ヘサルヲ以テ却下セラレタルモノナレハ無届不參セシト云フヲ得ス又明治十年第五號布告ニ五錢以上拾圓以下ノ罰金ヲ科スヘシトアルニ今日ノ不參ニ對シ罰金拾圓ト三圓トチニ重ニ言渡セシハ該範圍ヲ超過セシモノナリ因テ原言渡シハ不法ナルヲ以テ之レカ破毀ヲ求ムト云フニアリ
對手人檢事補小澤宗央ハ原言渡シハ不當ニアラストノ趣旨ヲ答辯セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事池上三郎ノ意見ヲ聽キ之レヲ判決スル左ノ如

シ
被告ニ於テ呼出刻限前猶豫願ヲ差出シタルニ却下セラレタルカ如ク論告スルモ原書類ヲ閱スルニ其實實ヲ認ムヘキ證左アルニアラサレハ其趣旨相立タズ然リ而シテ被告ハ同日ノ不參ニ對シ罰金拾圓ト三圓トチ言渡サレタルモ其二箇ノ事件ニ付呼出テ受ケ相當期日掛リ官ノ面前ニ出テサリシヨリ掛リ官ハ各其罪ヲ科シ罰金ヲ言渡シタルモノナレハ之ヲ二重ニ罰金ヲ言渡シタルト云フヲ得ス因テ此點ニ關スル上告論旨モ相立タズ
以上ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スル者也

○第四百三十七號

判文〔無届不參〕明治十七年三月十三日上告
同 年十一月廿九日發付

富山縣越中國射水郡高岡定塚町

二百四十番地寄留石川縣金澤松

枝町平民

後 藤 嘉 兵 衛

右嘉兵衛カ被告事件ニ付明治十六年十二月二十一日高岡治安裁判所ニ於テ被告ハ再三訟廷ニ呼込マシムルモ應答致シナカラ出廷セサル科無届不參ヲ以テ論シ明治十年第五號公布ニ依リ科料金壹圓ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ明治十年第五號公布ハ無届不參又ハ不參セシモノヲ罰スル法意ナルニ本案ニ對シ之レヲ誤用シ不參ヲ

明治十六年十二月
三十六年生月不詳

以テ罰シタルハ不當ナリト云フニアリ

檢察官警部補中村新ハ上告ノ趣旨至當ニシテ破毀ノ原由アル旨ヲ答辯セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告書及ヒ立會檢事ノ意見ニ因リ之レヲ審案スルニ
明治十年第五號公布ハ(凡ソ裁判所ノ呼出ヲ受ケタルモノ疾病等ノ事故アリテ遲參又ハ不
參スル時ハ其事故ヲ詳記シ呼出刻限マテニ其裁判所ニ届出ヘシ若シ右刻限ヲ過キ届出ルカ
又ハ無届ニテ遲參不參スル時ハ裁判官ニ於テ直チニ五錢以上拾圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ)
トアリテ無届遲參又ハ不參セシモノヲ罰スルノ法文ニシテ本案ノ如キ所爲ヲ罰スルコトヲ得
ヘキ法意ニアラサルナリ又刑法第二條ニ(法律ニ正條ナキ者ハ何等ノ所爲ト雖モ之レヲ罰
スルコトヲ得ス)トアリ然ルニ之レヲ罰シタルハ上告趣旨ノ如ク治罪法第四百十條第十項ニ
適スル不法ノ裁判ナルヲ以テ之レヲ破毀シ同法第四百二十九條ニ從ヒ本院ニ於テ直チニ判
決スルコト左ノ如シ

後藤 嘉兵衛

右ノ理由ナルヲ以テ原裁判官カ認メタル事實ハ法律ニ於テ罪トナルヘキモノニアラサル
ヲ以テ刑法第二條及ヒ治罪法第三百五十八條ニ依リ無罪

○第四百三十八號

判文(證券印稅規則犯)明治十七年二月廿一日上告
年十一月廿九日發付

愛媛縣讚岐國香川郡濱ノ町平民

深尾 喜多次

明治十七年一月

同縣同國同郡木藏町士族

船橋 忠臣

明治十七年一月

同縣同國同郡古新町平民

松本 茂

明治十七年一月

明治十七年一月三十日松山輕罪裁判所高松支廳ニ於テ右深尾喜多次外貳名カ證券印稅規則
違犯被告事件ヲ審理シ深尾喜多次ハ證券印稅規則第四則第八條ニ依リ仍ホ明治十四年第七
十二號公布第三條ニ照シ五圓ノ罰金ニ處ス船橋忠臣ハ右同規則第四則第九條ニ依リ仍ホ明
治十四年第七十二號公布第三條ニ照シ三圓ノ罰金ニ處ス松本茂ハ明治八年第五十一號公布
證券印稅規則第四則第八條追加但書ニ依リ仍ホ明治十四年第七十二號公布第三條ニ照シ五
圓ノ罰金ニ處スト言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ被告三名ハ各上告ヲ爲シタリ其要領中本
件證書ニ貼用シタル印影ハ其欄内ニ入ルコト淺クシテ深カラサルモ法律ハ其調印ノ深淺ニ因
リ罪ノ有無ヲ決スルノ意ニアラスシテ其調印ノ有無如何ニアルモノナレハ假令深カラサル
モ現ニ其欄内ニ印形ノ輪蹟ヲ存シアル上ハ犯則ノ限リニアラサル可キニ原判文ニ(内壹枚
ハ僅ニ印紙欄外ノ餘白ニ捺印シ其欄内ニ及ハサル云々)トノ理由ヲ付シ處罰セラレタルハ
全ク現ニ外表シタル主要ノ事實ヲ誤認シ從フテ擬律ノ錯誤ヲ來セシモノナリトハ被告三名

共ニ其論旨ヲ同フセリ然リ而シテ又喜多次忠臣ニアリテハ今一步ヲ讓リ犯則ニ該ルモノト
 スルモ貼用ノ印紙貳葉ノ内壹葉ノ調印無効ニ歸スル如キハ全ク脱税又ハ減税シタル者ト大
 ニ其情狀ヲ異ニスルヲ以テ宜シク斟酌ヲ加ヘ脱税者ヲ處罰スルヨリハ輕カラサル可カラサ
 ルモノナルニ其脱税者ヨリ重ク或ハ五百倍或ハ三百倍ノ罰金ヲ科セラレタルハ是又擬律ノ
 錯誤ニ出テタルモノナリト主張シ又茂ニ於テハ明治八年第五十一號公布第八條但書追加ニ
 渡主ニ科スル半高ノ科料トアルハ其渡主ノ現ニ受ク可キ科料ノ半高ト云フノ意ナレハ本件
 ノ如キハ證書渡主喜多次カ受ク可キ五圓ノ半額ヲ科セラル可キハ當然ナルニ原裁判官ハ該
 規則ヲ誤解シ右第八條ニ三拾圓以下トアル範圍ヲ半額ニ下シ即チ拾五圓以下ト爲シ渡主喜
 多次ト同額ノ罰金ヲ科セラレタルハ是又擬律ノ錯誤ニ出タルモノナリト論告セリ
 對手人檢事補竹岡不伸ハ被告ノ内喜多次忠臣ノ上告ハ皆共ニ其理由ナキヲ以テ速ニ棄却セ
 ラレ度又茂カ上告ハ其第一論旨ハ相立タサルモ其第二論旨即チ證書渡主ト同額ノ罰金ヲ科
 シタル點ニ付テハ上告ノ原由アルヲ以テ相當ノ判決アランコト望ム旨答辯セリ
 茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルハ明治七年第
 八十一號公布證券印稅規則第八條ニハ規則ニ從テ貼用セシ諸證書帳簿ノ證券印紙ニ調印セ
 サル者ハ三拾圓以下ノ過料タル可キ事トノミアリテ其欄外ニ調印シタルモノハ無効ナリト
 ノ明文アルニアラサレハ苟モ其印紙ニ調印ヲ爲シタル上ハ其明文外ニ涉リ之ヲ無効トスル
 カ如キハ其當ヲ得サルモノトス況ンヤ本件ノ如キハ之ヲ原書類ニ徵スルニ該證券ニ貼用シ
 アル印紙壹枚ノ調印ハ充分欄内ニ及ハサルモ其輪贖僅ニ欄隔ニ存在シアルコトハ被告等カ論

告スルカ如ク昭然見ル可キニ於テヤ然ルニ原判文ニ欄外ノ餘白へ捺印シ其欄内ニ及ハサ
 ルハ調印セサルモノト認定ストノ理由ヲ付シ右稅則第八條ヲ適用シタルハ全ク擬律ノ錯誤
 ニ出タルモノトス依テ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ判決
 スルコト左ノ如シ

深尾喜多次
 船橋忠臣
 松本茂

右被告深尾喜多次ヨリ船橋忠臣ヲ證人トナシ松本茂ニ差入タル金員借用證ニ貼用シタル
 壹錢印紙貳枚ノ内其壹枚ニ捺シタル調印ハ印紙ノ欄内ニ及フト否トニ關セズ既ニ調印シ
 アル事實ナルコトハ原裁判官ノ認定シタル所ニシテ而シテ其行爲ハ法律ニ於テ罰ス可キ正
 條ナキヲ以テ刑法法第二條ニ則リ仍ホ治罪法第三百五十八條ニ依リ被告三名共無罪
 ○第四百三十九號

判文(證券印稅規則犯)明治十七年二月十六日上告
 同 年十一月廿九日發付

千葉縣上總國夷隅郡小羽戶村三
 番地平民農間日雇稼當時匝璦郡
 駒込村松屋清右衛門方寄留

福山政吉
 明治十七年一月
 四十五年九月
 九六七

同縣同國同郡奥津村百八十一番
地平民農業亡鈴木重右衛門三女

鈴木キノン

明治十七年一月
十九年九月

右政吉「キン」カ被告事件ニ付明治十七年一月十七日千葉輕罪裁判所八日市場支廳ニ於テ被告等カ椎名豐三郎ハ宛タル雇人受證ハ其承諾ヲ經サル鈴木重右衛門ノ姓名ヲ署シテ入主ト爲シ其名下ニ福山政吉ノ實印ヲ記載シ以テ之ヲ豐三郎ハ交付シタルモノニ係ルモ刑法ニ所謂證書偽造ノ條件ヲ具備セサルニ依リ證書ヲ偽造シタリト云フヲ得サルモノトシ刑法第二條ニ照シ無罪ナリト雖モ該證ニ鈴木「キン」ノ雇給金ヲ貳拾五圓ト定記アルニ授受ノ際證券印紙ヲ貼用セサル所爲ニ對シ被告「キン」ハ證券印稅規則第二則第二類第四則第二條ニ照シ脫稅高ノ貳拾倍金四拾錢ノ科料政吉ハ同第二則第二類第四則第九條ニ照シ貳拾錢ノ科料ニ處シ雇人受證ハ治罪法第三百八條ニ照シ椎名豐三郎ハ還付スト言渡シタル裁判ヲ不法トシ同裁判所檢事碧川眞澄ハ上告セリ其要旨ハ被告カ鈴木重右衛門ノ死亡セシ事ヲ隱蔽シテ故ラニ該氏名ヲ記載シタルハ素ヨリ惡意ナシト言フ可カラス而シテ被害者椎名豐三郎ハ其欺罔ニ陥リタル爲メ現ニ雇人トセシ鈴木「キン」ニ違約セラレタルヲ責メントセシモ契約上保證セシメタル効力ノ幾部ヲ減殺セラレタルノ損害ヲ見ル可ク好シヤ被告ハ豐三郎ノ長男椎名和吉ニ之ヲ執筆セシムルモ其害ヲ告ケタルニアラス唯被告「キン」カ雇人トナルノ契約ヲ一時結了セシメ以テ若干ノ手數料ヲ貪取セントスル慾心ニ出タルモノニテ偽造證書ヲ行使

シタルノ跡アルヤ明カナルニ原裁判所カ偽造ノ効力ナキモノ、如ク斷定セシハ擬律ノ錯誤ナリ則チ被告ノ所爲ハ新法實施以前ニ在ルヲ以テ新舊法ヲ比照シ輕キ舊法ニ依リ處斷スヘキ者ト思考スルヲ以テ破毀ヲ求ムト云フニ在リ
對手人被告「キン」ハ之レニ答辯セズ被告政吉ハ原裁判相當ニシテ上告ノ理由ナキ旨ヲ答辯セリ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ式ヲ踐ミ之ヲ審案スルニ被告等カ雇人受證ニ亡重右衛門ノ姓名ヲ記載シタルハ不正ノ所爲ナルモノ、如シト雖モ右重右衛門名下ニ福山政吉代印ト明記シ自ラ其責ニ任シタルヲ以テ見レハ敢テ欺瞞ノ情アルモノト云フヲ得ス且受領者椎名豐三郎ニ於テモ已ニ政吉ノ代印ヲ認諾セシ上ハ其契約ノ主眼專ラ政吉ニ在リテ重右衛門ヲ必要トセサリシ事情ヲ見ルニ足レリ要スルニ被告等カ偽造證書ヲ行使シタル事蹟顯然ナリトノ上告論旨ハ原裁判官カ認定シタル事實ノ當否ヲ論難スルニ過キヌシテ其理由ナシト雖モ本案ハ新法實施以前ニ係ル事件ニシテ新舊法共ニ罪トナラサル所爲ナレハ直チニ無罪ノ言渡シヲ爲スヘキニ新法ニ依リ處斷シタルハ不法ノ裁判ナリトス仍テ治罪法第四百三十一條ニ則リ右不法ノ部分ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ裁判スルヲ左ノ如シ

福山政吉
鈴木キノン

右ノ理由ナルニ依リ被告等ノ所爲ハ罪トナラサルヲ以テ無罪

○第四千三百二十號

判文(證券印稅規則犯) 明治十六年十月十五日上告

同 十七年十一月廿九日發付

九七〇

茨城縣常陸國眞壁郡下館町士族
權大講義

鈴

木

明治十六年九月

同縣同國同郡同町士族無職業

東

明治十六年九月

同縣同國同郡同町士族無職業

澁

谷

金 吾

明治十六年九月

三十四年

明治十六年九月二十一日水戸輕罪裁判所下妻支廳ニ於テ右二名カ被告事件ヲ審理シ第一被告入伴六金吾ハ繩ニ渡シタル金千三百四拾五圓ノ約定爲取換證ニ相當ノ印紙ヲ貼用セス第二伴六ヨリ繩ニ渡シタル金三拾圓ノ約定證ニ相當印紙ヲ貼用セサル所爲アリトシ刑法第五條明治七年第八十一號布告證券印稅規則第四則第二條明治十四年第七十二號布告第三條第五條ニ照依シ繩カ第一ノ犯罪ハ脫稅高壹圓三拾四錢ノ拾倍拾三圓四拾錢ノ罰金ニ處シ第二ノ犯罪ハ脫稅高三錢ノ拾倍科料金三拾錢ニ處シ伴六金吾カ第一ノ犯罪ハ脫稅高壹圓三拾四錢ノ貳拾倍貳拾六圓八拾錢ノ罰金ニ處シ伴六カ第二ノ犯罪ハ脫稅高三錢ノ貳拾倍六拾錢ノ

科料ニ處スト言渡シタル裁判ニ服セス被告人三名カ上告シタルノ要旨第一證券印稅規則第四則第二條ハ第一二三類ノ證書類ハ印紙ヲ貼用セサル者ヲ罰スルノ條款ニシテ本件ノ如キ一旦無印紙ノ儘授受セシモ勸解廷ニ捧呈スル前相當印紙ヲ貼用シタル者ヲ罰スルノ法意ニ非サルニ因リ無罪ノ言渡アルヘキハ當然ナルニ罰金ニ處セラレタルハ抑不當ト云ハサルヘカラス第二裁判言渡書ニ告發前既ニ貼用シタル者ニモ亦第四則第二條ニ依リ罰スルヤ否ノ理由ヲ明示セスシテ單ニ印紙ヲ貼用セサルヲ以テ云々トアルハ言渡ノ理由ヲ付セサルモノナリ第三證券印稅規則ヲ案スルニ印紙ハ其金高ニ應ジ貼用スルモノナレハ罰金ニ其金高ニ應ジテ科スヘク授受人ノ多寡ニ依テ罰金ニ増減アルヘキモノニ非ラサルニ伴六及ヒ金吾ニ對シ各自ニ罰金ヲ科シタルハ不當ナリト云フニ在リ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ判決ヲ爲ス左ノ如シ
上告ノ趣旨第一ハ證書授受ノ登時貼用セサルモ後日貼用シタルハ無罪タルヘシト論告スト雖モ證券印稅規則第四則第二條ニ第一類第二類第三類ノ證券印紙ヲ貼用セサル者ハ云々トアリテ印紙不貼用ノ罪ハ其證書授受ノ即時成立スルモノニシテ後日之ヲ貼用スルモ犯罪ノ消滅スルモノニ非ス第二告發前印紙ヲ貼用シタル者モ稅則第四則第二條ニ依テ罰ス可キノ理由ヲ明示セサルハ言渡シノ理由ヲ付セサルモノトノ論告ナレトモ前ニ辨明スル如ク已ニ印紙ヲ貼用ノ犯罪成立スルニ因リ即チ有罪ナリトノ事實ヲ認定シ其理由ヲ明示シアルヲ以テ事實ノ理由不備ナリト認ムヘキ廉アルヲ見ス第三被告人各自ニ罰金ヲ科シタルハ不法ナリト論告スルモ刑法第五條第二項ニ若シ佗ノ法律規則ニ於テ別ニ總則ヲ掲ケサル者ハ此刑

九七一

法ノ總則ニ從フトアリ其第四百條ニ二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ皆正犯ト爲シ各自ニ其刑ヲ科ストアリテ二人以上ニテ罪ヲ犯シタル時ハ各其本分ノ責ニ任スヘキハ論ヲ俟タサルナリ之ヲ要スルニ上告ノ趣旨ハ法律ヲ誤解シ漫ニ原判定ノ當否ヲ論辯スルニ外ナラス而シテ原裁判言渡書ヲ閱スルニ其有罪ナリトノ事實ヲ認定シ法律ノ正條ニ依リ相當ノ罰金ヲ言渡シタルモノナレハ毫モ法律ニ違背セル虞アルニ非ラスシテ上告ノ論旨ハ總テ相立タサルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ本案上告ヲ棄却スルモノナリ
○第四百三十二號

大審院判文(證券印稅規則犯)明治十六年十月三十日上告
同十七年十一月廿九日發付

茨城縣常陸國久慈郡太田町士族
無職業

小林 貞光

明治十六年十月
五十九年

右貞光カ證券印稅規則違犯ノ事實アルヲ認メ明治十六年十月八日水戸輕罪裁判所ニ於テ同則第十二條^{第四則第二條}ノ誤記ト認ム明治十四年第七十二號公布第五條第三條ニ照シ證書五通ノ金額九百貳拾圓ノ脫稅高九拾貳錢ノ拾倍九圓貳拾錢ノ罰金ニ處スト言渡シタル裁判ニ服セス上告シタル要領ハ原裁判所ハ印紙犯則ハ速了犯ニアラス義務消散ノ日マテノ繼續犯ナレハ即チ民事ノ期滿免除ヲ得タル日ヨリ起算シ滿三ヶ年ヲ超過スルニ非サレハ公訴期滿免除ノ限リ

ニアラストシ處罰シタルモ明治七年第八十一號布告第一條タル證書授受ノ當時印紙ヲ貼用スヘキヲ決定メタル法律ニテ其目的タル印稅ヲ徵收スルニアリテ之ヲ罰スルハ其不徵收者ヲ懲スニ止リ決シテ其貼用セサル結果ヲ罰スルノ意ニ非ラサルコトハ明治八年第五十一號布告第十二條ニ前條ニ掲クル證書ヲ以テ公裁ヲ仰カント欲スル節ハ受取主ニ於テ相當ノ印紙ヲ貼用シ調印濟ノ上ハ取上ケ裁判及フ可クトアルニ依リ明カナレハ被告人カ當時印紙ヲ貼用セサルハ速了犯ナルコト疑ヒテ容ルヘキニアラサルナリ又民事ノ期滿免除ヲ得タル證書ハ廢紙同様ニシテ民法上ノ制裁ヲ受クル能ハサルニ單ニ刑法ノ制裁ヲ受クル如キ結果ヲ來スハ治罪ノ原旨ニ背反スト云フヘシ何ントナレハ廢紙ニ印紙ヲ貼用スヘシ然ラサレハ罰スルトノ法律ナケレハナリ然ルニ之ヲ繼續犯ナリトシ處斷シタルハ不法ナリト原裁判ノ破毀ヲ要請セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルニ
上告ノ理由トスル速了犯罪ナルニ繼續犯ナリトシ裁判シタルハ不法ナリト云フト雖モ抑證券印稅規則ハ證書授受ノ際印紙ヲ貼用セサレハ則チ犯則タル勿論ナリト雖モ其證書ニ印紙ヲ貼用セサル間ハ始終繼續シテ犯シ居ルモノニテ上告ノ論據ニ引用スル明治八年第五十一號布告第十二條ハ該布告中第十二條ノ記載ナキヲ以テ蓋シ明治七年第八十一號布告第五則第十二條ノ誤ナラシテ同條ノ誤ナリト假定スルモ同條ハ印紙貼用調印濟ノ上ハ民事上取上ケ裁判及フトノ規定ニシテ印紙犯則ハ繼續犯ニ非ラス又民事上其證書ノ効力ヲ失フタル時ハ犯則ノ所爲ヲ罰セストノ法文ニアラサレハ假令民事上該證書ノ權利義務消散スル

モ直チニ公訴期満免除ヲ得タルモノトスルヲ得サルヲ以テ原裁判所カ之ヲ繼續犯トシ處斷シタルハ適當ノ裁判ニシテ却テ被告人カ速了犯ナリトノ上告ハ其理由ナキモノト判定ス以上ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本件上告ヲ棄却スル者也

○第四千三百二十二號

判文(證券印紙再貼用)明治十七年三月一日上告
同 年十一月廿九日發付

山梨縣甲斐國東巨摩郡手打澤村

平民船乘業

深澤

和七

明治十七年一月
四十二年生月不詳

右和七カ被告事件ニ付明治十七年一月二十九日甲府輕罪裁判所ニ於テ被告ハ一旦貼用セシ金五錢ノ證券印紙壹葉ヲ再ヒ貼用シタルモノトシ刑法第九十九條ニ依リ罰金五圓ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ債主伊藤義陳ニ於テ證券印紙並ニ用紙ヲ携ヘ來リテ證書ノ調整ヲ促スニ付深澤半左衛門ニ筆記セシメタル上押印モ共ニ爲サシメタルノミナラズ文字等ノ不明ニ付其印紙ノ再貼用ナルヤ否ヲ知ラス其事實ハ右半左衛門及ヒ證人深澤重左衛門ヲ尋問セハ明瞭ナルニ是レ等ノ尋問モ爲サズ單ニ告發書ニ依リ處罰セシハ不當ノ裁判ナリト云フニアリ
原檢察官ハ上告ノ理由ナキ旨答辯セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告及ヒ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之レヲ判決スルコト左ノ如シ

上告ノ要旨トスル證人ヲ尋問セズ單ニ告發書耳ニ依リタル裁判ナリト云フモ裁判官ニ於テ之レヲ必用ト認メタル場合ニ於テハ之レヲ呼出シ又ハ要セサル場合ニ於テハ之レヲ爲サズルモ當然職權内ニ於テ爲スコトヲ得ヘキモノナレハ之レヲ批難スルヲ以テ上告ノ理由トスルヲ得ス其他ハ渾テ裁判官ノ心證判斷及ヒ證據ノ採擇ヲ論難スルニ過キスシテ上告ノ理由ナキモノトス因テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本案上告ハ棄却スル者也

○第四千三百二十三號

判文(賣藥規則犯)明治十六年十月廿三日上告
同 十七年十一月廿九日發付

静岡縣駿河國富士郡大宮西町平

民商

佐藤

昇平

明治十六年十月
三十六年八月

右昇平カ被告事件ニ付明治十六年十月一日沼津治安裁判所ニ開ク静岡輕罪裁判所ニ於テ被告八カ從來仕入置キタル長壽金龍丹外十一方合セテ十二方劑ヲ無免許ニテ販賣シタルモノト認定シ明治十年第七號布告賣藥規則第三章第二十一條ニ依リ十二方ノ罰金合セテ百貳拾圓ニ處スヘキ所酌減スヘキ情狀アルニ因リ刑法第五條第二項ニ基キ同第八十九條同第九十條及ヒ同第七十條ニ照シ一等ヲ減シ罰金九拾圓ニ處シ現在ノ藥劑ヲ沒收スト言渡シタル裁判ニ服セス被告人カ上告爲シタル要領ハ被告人ハ裁判狀ニアル事實ニ付一回ノ御審問ヲモ受ケタルコトナシ從テ之カ代人タル資格ヲ具有セシ者ヲ出頭セシメタル事ナシ故ニ本件ノ審

理前ト思考シ出頭セシ所頓ニ該裁判ヲ言渡サレタリ且ツ果シテ之ヲ有罪ト決セラルナラハ其罪犯トナルヘキ書類ヲ示サルヘキニ獨リ判官ノ意中ニテ推測ノ裁判ヲ下シタルハ不當ナリト云フニ外ナラス

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルコト左ノ如シ
上告ノ趣旨ハ一回ノ審問ヲ爲サス將タ其證據書類ヲ示サスシテ裁判シタルハ不當ナリト云フニアレバ公判始末書ヲ閱スレハ被告人カ委任ヲ爲シタル代人小野田善左衛門ニ對シ公式ヲ履行シ訊問シタル末(檢察官告發書及ヒ始末書ニ據ルモ長壽金龍丹十二方劑ハ無免許ニテ販賣シタル旨記載アルカ事實相違ナキヤト問ヒタルニ被告人ハ然リ願ヲ差出シアルニ付不都合ナキコト存シ賣却セリ云々)トアリテ其辯論終結爲シタルモノニテ毫モ違法ノ廉アルコトヲ要スルニ原裁判所カ認メタル事實ニ對シ徒ラニ不服ヲ唱フルニ過キサレハ上告ノ理由ナキモノト判定シ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スルモノナリ

○第四百三十四號

判文(賣藥規則犯) 明治十六年九月七日上告
同 十七年十一月廿九日發付

愛媛縣伊豫國喜多郡内子村平民

曾 根 愿 三 郎

明治十六年八月

三十一年十一月

明治十六年八月十三日大洲治安裁判所ニ關キタル松山輕罪裁判所ニ於テ右曾根愿三郎ハ無鑑札ニテ花柳膏ト唱フル膏藥ヲ製シ之ヲ發賣或ハ受賣セシメタル所爲アリト判定シ刑法第

五條及ヒ明治十年第七號布告第三條第二十三條ニ照シ製藥七十二頁賣得金壹圓零八錢五厘ヲ沒收シ罰金貳拾五圓ニ處スル旨宣告セリ曾根愿三郎ハ右ノ裁判ニ服セス上告ヲ爲シタル要旨ハ被告ハ曾テ許可ヲ得シ外布劑ノ藥量ヲ變更シ花柳膏ト唱フル者ハ藥名ニ非ラス其功能ヲ付シタル者ニシテ能書出版ノ節外布劑ノ三字ヲ脱落セシ者ナリ故ニ外布劑ノ外ニ花柳膏ト唱フル別種ノ膏藥ヲ製シタルニ非ラサルニ原裁判所ニ於テ前記ノ如ク判定シタルハ不當ナリト云フニ在リ

對手入原裁判所檢察官警部補村上政行ハ原裁判相當ニシテ上告ノ理由ナキ旨答辯セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事澄川拙三ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
被告カ製造發賣セシ花柳膏トハ曾テ免許ヲ受テ製造スル處ノ外布劑ノ藥量ヲ多少變更シタル者ニシテ花柳膏トハ外布劑ノ功能ヲ顯ハサン爲付シタル名ニシテ藥名ニ非ラス云々論告スレバ原裁判所ニ於テハ檢察官ノ意見書相當官吏ノ作リタル調書賣藥稅檢査員菊地正美外上入ノ告發書被告カ手續書證據物件ニ因リ事實ヲ認定シ外布劑ノ外花柳膏ト唱フル膏藥ヲ製造シ發賣又ハ受賣セシメタル者ト判定シタル者ナレハ花柳膏トハ藥名ニ非ラストノ論告ハ相立タサル者トス何トナレハ前文例記スル如キ證據ヲ取捨シ事實ヲ認定スルハ原裁判官ノ特權ニシテ其認定シタル事實ニ對シテハ越權其他法律ニ背キタル處分アルニ非ラサル限リハ他ノ左右シ得ヘキ者ニ非ラサレハナリ上告論旨ハ原裁判官ノ職權内ニ侵入シ事實ヲ左右セント試ムルニ過キスシテ治罪法第四百十條各項ニ定メタル上告ノ理由ナキ者トス因テ同法第四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スル者也

○第四千三百二十五號

九七八

判文(賣藥規則犯) 明治十六年八月廿七日上告
同 十七年十一月廿九日發付

和歌山縣紀伊國名草郡日方浦平
民

山本 爲次郎

明治十六年七月
十八年五月

明治十六年七月十九日和歌山輕罪裁判所ニ於テ右山本爲次郎ハ無鑑札ニテ上池液ト號スル
目藥ヲ受賣シタル所爲アリト判定シ賣藥規則改正第五條同第二十一條ニ照シ犯時十六歲以
上二十歲未滿ナルヲ以テ刑法第八十一條ニ照シ本刑ニ一等ヲ減シ罰金七圓五拾錢ニ處スル
旨宣告セリ檢察官原裁判所檢事補速水良明ハ右ノ裁判ニ服セス上告ヲ爲シタル要旨ハ被告
ハ上池液ト稱スル目藥水藥及散藥ノ二方ヲ受賣セシ者ナルニ原裁判所ハ其水藥散藥ノ二劑
ヲ請賣シタル事又ハ其受賣シタルハ水散藥ノ内一劑ノミナルヤチ明示セス前記ノ如ク判定
シタルハ不當ナリト云フニ在リ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事堀田正忠ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
被告カ無鑑札ニテ受賣セシ目藥ハ水藥散藥ノ區別アリト雖モ等シ是上池液ト號スル一方ノ
藥劑ニシテ二方ヲ以テ論スヘカラス素ヨリ原判文ニ水散藥ノ區別及ヒ受賣セシハ水散藥ノ
内一劑ナリヤ否チ明示セサルハ聊カ粗漏ヲ免レヌト雖モ現ニ被告ニ適用スヘキ刑ニ毫モ影
響チ及ホスナケレハ破毀ノ限リニ非ラストス因テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却
スル者也

スル者也

○第四千三百二十六號

判文(酒造稅則犯) 明治十七年三月廿七日上告
同 年十一月廿九日發付

大分縣豐前國下毛郡東濱村士族
農

井上 金藏

明治十七年三月
三十七年五月生

明治十七年三月六日大分輕罪裁判所中津支廳ニ於テ右金藏ハ酒造稅則違犯ノ罪アルモノト
シ同則第一條第二十九條第三條第三十七條明治十四年第七十二號公布明治十六年大分縣甲
第十六號第二十九號第三十三號明治十五年同縣甲第七十六號及刑法第五條第四百三十條ニ
照シ被告カ酒類ヲ密造シタル所爲ニ對シ酒四石餘及製造器械大釜壹箇外六點ヲ沒收シ罰金
六拾圓ニ處シ酒類ヲ受賣シタル所爲ニ對シ科料金壹圓ニ處スト言渡シタル裁判ニ服セス被
告金藏ハ上告ヲ爲シタリ其要旨抑モ被告ハ明治十三年九月ヨリ十六年九月迄酒造營業ヲ爲
セシカ本年ヨリ酢及醬油ノ營業ヲ爲サント欲シ昨冬ヨリ其釀造ニ着手セリ然ルニ本年一月
七日酒造檢査官來リ廢業後ノ殘酒諸器械并ニ釀造ノ醬油酢等ヲ檢査シ貳石入及貳石七斗入
リノ桶ハ酒ニ非ラサルカトノ御尋問ニ對シ該桶ハ井上重米ヲ雇ヒ酢ヲ釀造セシモノニシテ
素ヨリ酢ハ酒ト異ナリ造込ミヨリ三十日間ハ蓋ヲ取ルヘカラサルモノナレハ若シ御嫌疑アリ
ラハ此儘封印セラレシテ請願セリ然ルニ檢査官ハ尙ホ重米ニ就キ御尋問アリシカ重米モ

九七九

亦三十日間ノ猶豫ヲ請願スルモ検査官ニ於テ之ヲ信セス直チニ庫ノ戸口ニ封印ヲ爲シ翌日検査官警察官鑑定人等來リ該桶ヲ鑑査セラレ而シテ検査官ニ於テハ酒類ヲ密造シタルモノトノ告發ヲセラレタルヨリ數日警察署ニ於テ訊問ヲ受ケレハ被告ハ素ト酢ヲ釀造スルモ酒類ハ釀造セサル旨ヲ申供セシニ之ヲ採用セラレサルノミナラス尙ホ拷訊ヲ加ヘ遂ニ虛構不實ノ申供ヲ爲サシメタルモノナレハ警察署ノ申供タル不實ニシテ採ルヘカラサルモノナリト喋々論辯シ以テ原裁判ハ審理ヲ盡サ、ル不當ノ處斷ナリト云フニ在リ

對手人檢事補伴政埠ハ原裁判允當ニシテ被告カ上告趣旨ハ原由ナキ旨答辯セリ
大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行シ以テ判決スル左ノ如シ

上告ノ理由ハ井上重米ナルモノヲ雇ヒ酢ヲ釀造セシメタルモ決シテ酒類ヲ密造シタルモノニ非ラスト云フモ其論旨タル全ク原裁判所カ諸般ノ證據ニ據リ以テ認定シタル事實及探證上ニ對シ徒ラニ批難ヲ容ルニ外ナラスシテ一モ適法ノ原由ナキモノトス又警察署ニ於テ爲シタル伸供ハ拷訊ヨリ成立チタル不實ノ伸供ナレハ信ヲ措クニ足ラスト云フニアルモ訴訟書類中警察署ニ於テ拷訊ヲ加ヘタリト視ルヘキモノナケレハ是レ唯タ不服ヲ鳴ラヌ口實ニ止テ採ルニ由ナキモノトス

右ノ如クナルヲ以テ本案上告ハ治罪法第四百十條各項ニ相當スル上告ノ原由ナキニ依リ同法第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却スルモノナリ

○第四百三十七號
判文〔煙草稅則犯〕明治十七年三月十四日上告
同 年十一月廿九日發付

千葉縣上總國周准郡常代村平民
煙草小賣商

高 岡 平 五 郎

明治十七年二月

四十九年四月

右平五郎カ被告事件ニ付明治十七年二月二十八日千葉輕罪裁判所木更津支廳ニ於テ被告ハ明治十六年六月ヨリ越高ニ係ル玉造五拾匁四拾八個ノ内ヲ壹個ノ量目八匁宛ニ崩シ百八個ヲ得其壹個代價三錢宛ニテ同年七月一日ヨリ同九月十四日迄ニ合金參圓貳拾四錢ヲ以テ賣捌キタルハ小賣營業ニシテ製造人ニ均シキ所業ヲナシタル者ト認メ明治十五年第六十三號公布煙草稅則第二十四條及ヒ第十一條ニ照シ罰金四拾五圓ニ處ス但賣捌キタル代價三圓貳拾四錢ハ追徴スト言渡シタル裁判ニ對シ被告平五郎カ上告シタル要旨ハ被告ノ所爲タル煙草小賣營業鑑札ヲ受ケテ玉造煙草ヲ崩シ賣ニ爲シタルモノナレハ無鑑札ニテ營業シタルモノニアラス然ルヲ前記ノ如ク言渡サレシハ不當ナルニ付破毀アラントチ希望ス云フニ在リ

同裁判所檢事補江村忠一郎ハ原裁判相當ナリト答辯セリ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ踐行スルニ立會檢事安藤源五郎ニ於テハ被告カ上告ニ付テノ意見ヲ述ヘ且附帶上告ヲ爲シテ曰ク本件被告カ上告ハ煙草稅則第三十一條ヲ誤解シ煙草製造人ト小賣人トチ同一視シタルモノナレハ其趣旨タル不相立ト雖モ明治十六年太政官第十八號布達ニ據レハ該稅則施行前ヨリ所持スル製造煙草ニ付テハ明治十六年

限り煙草製造人ト同一ノ權利ヲ有スル者ニシテ本件被告ノ所爲ノ如キハ則チ該布達内ニアル者ナレハ無罪ノ判決ヲ爲スヘキハ當然ナルニ原裁判茲ニ出サルハ不當ナルニ因リ宜シク之ヲ破毀シテ無罪ノ判決ヲ與ヘラレシメテ要求スト

茲ニ之ヲ審案スルニ被告カ上告點ハ小賣營業鑑札ヲ所持スルカ故ニ無鑑札ニテ製造營業ヲ爲シタル者ニ非ラスト云フニ在ルモ明治十五年第六十三號公布煙草稅則第五條煙草營業者ハ管轄廳へ願出營業鑑札ヲ受ク可シ但製造仲買及小賣ヲ兼業スル者ハ各其營業鑑札ヲ受ク可シ同第十一條煙草營業者ハ左ノ通營業稅ヲ納ム可シ但兼業スル者ハ各其營業稅ヲ納ム可シ云々トアルニ依レハ小賣人ニシテ製造人ノ爲ス可キ事ヲ行フタル以上ハ無論原裁判ノ通り無鑑札ニテ製造營業ヲ爲シタル者ト云ハサルヲ得サルニ付被告カ此論告ハ相立タスト雖モ本院檢事カ附帶上告論旨ノ如ク明治十六年太政官第十八號布達(煙草仲買人小賣人ニシテ稅則施行前ヨリ製造煙草ヲ所持スル者ハ本年限り其所持人ニ於テ稅則第十三條ニ據リ印紙ヲ貼用スルヲ得但此場合ニ於テハ所持人ハ稅則第二十一條ノ製造人ニ準シ自己ノ氏名住所ヲ附記ス可シ云々)トアルニ依レハ稅則施行前ヨリ製造煙草ヲ所持スル仲買人小賣人ハ同年ニ限り特ニ製造人ノ資格ヲ與ヘタルヲ明瞭ナレハ假令被告ハ製造營業鑑札ヲ受ケスニテ製造營業ヲ爲シタリ迎稅則第三十四條ノ管理スル所ニアラス故ニ此所爲ニ對シテハ結局無罪ノ言渡シヲ爲ス可キモノトス然レモ被告カ玉造煙草ヲ八匁ニ崩シタルハ即チ稅則第十三條ノ煙草裝置區分法ニ違フタル者ニ付同則第四十一條ニ照シ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處スルハ當然ナルニ原裁判之ニ反シ該條ヲ適用セスシテ却テ前第二十四條ヲ當行シ後記

ノ所爲ヲ問ハスシテ前記ノ所爲ヲ罰シタルハ則チ擬律ヲ誤リタル不法ノ裁判ニシテ治罪法第四百十條第十項ニ適スル破毀ノ原由アルモノトス仍テ同法第四百二十九條第四百三十一條ノ規則ニ循ヒ原裁判所ノ擬律ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ裁判スル左ノ如シ

高 間 平 五 郎

右ノ理由ナルニ付被告カ製造營業鑑札ヲ受ケサル所爲ハ明治十六年太政官第十八號布達ニ依リ無罪其玉造煙草ヲ八匁ニ崩シタル所爲ハ煙草稅則第四十一條ニ照シ罰金拾圓ニ處スル者也

○第四百二十三二十八號

判文(煙草稅則犯) 明治十六年九月廿六日上告
同 十七年十一月廿九日發付

茨城縣常陸國鹿島郡國末村平民

大 竹 德 兵 衛

明治十六年九月

五十四年

明治十六年九月四日水戸輕罪裁判所土浦支廳ニ於テ右大竹德兵衛ハ營業鑑札ヲ受ケス煙草ノ小賣ヲナシタル所爲アリト判定シ煙草稅則第五條同第十一條及其第三項同第十二條同第三十四條ニ照シ罰金七圓五拾錢ニ處シ製造煙草拾文目位ヲ沒收スル旨宣告セリ大竹德兵衛ハ右裁判ニ服セス上告ヲナシタル要旨ハ被告ハ元來高木初太郎平山市右衛門トハ舊怨アル者ナリ故ニ彼等兩人ハ被告ヲ陷害センコトヲ謀リ爲シタル告發ト證言ナルニ原裁判所ハ採テ以テ證據トナシ前記ノ如ク判定シタルハ不當ナリト云フニ在リ

對手人檢察官原裁判所檢事補山田彌八郎ハ被告上告ノ要旨ハ其理由ナキ旨ヲ答辯シ且附帶上告ヲナシタル要旨ハ原裁判所カ煙草稅則各條ニ照シ前記ノ如ク判定シタルハ相當ナリト雖モ其賣代價ヲ追徵スヘキ理由ヲ明示シナカラ追徵ノ言渡シヲナサ、ルハ不當ニ付破毀ヲ要ムト云フニ在リ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事安藤源五郎ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ被告上告ノ論旨ハ原裁判官カ職權ヲ以テナシタル證據ノ採擇事實ノ認定ニ不服ヲ訴フルニ過キサレハ治罪法第四百十條各項ニ定メタル上告ノ理由ナキ者トス然レモ原判文ヲ閱スルニ煙草稅則第五條其他各條ニ照シ處斷シタルハ相當ナリト雖モ同法第三十四條營業鑑札ヲ受ケスシテ云々現在ノ煙草ヲ沒收シ之ヲ賣捌タル者ハ其代價ヲ追徵ストアルニ該ルト法律ノ理由ヲ明示シナカラ製造煙草ヲ沒收シタルノミニテ其賣捌代價ヲ追徵スルノ言渡シヲナサ、ルハ不法ニシテ原檢察官附帶上告論旨ノ如ク破毀ノ理由アルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ被告上告ハ之ヲ棄却シ原檢察官附帶上告ニ基キ治罪法第四百三十一條ニ從ヒ原裁判ノ代價ヲ追徵セサル部分ヲ破毀シ本院ニ於テ直ニ裁判スル左ノ如シ

大竹 德兵衛

前辯明ノ理由ナルヲ以テ煙草稅則第三十四條營業鑑札ヲ受ケスシテ云々之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵ストアルニ依リ賣代價貳錢ヲ追徵スル者ナリ

○第四百二十九號

判文(集會條例犯)明治十七年十月十三日上告
同 年十一月廿九日發付

廣島縣安藝國廣島區村木町居住
士族丈助長男

沖野房之丞

明治十七年九月

三十年一月

同縣同國同區河原町居住平民幾

藏養子神道教導職

伊藤 俊光

明治十七年九月

二十年七月

右房之丞外一名カ集會條例被告事件ニ付明治十七年九月二十日廣島輕罪裁判所ニ於テ集會條例第十六條ニ依リ房之丞カ所爲ヲ同條例第十條第一項ニ照シ罰金三圓ニ處シ俊光カ所爲ヲ同條例第二項ニ照シ罰金四圓ニ處スト言渡シタルニ被告等ハ之レニ對シ各上告ヲ爲シタリ房之丞上告ノ要領ハ被告ハ國教演說會ヲ開キタル者ニテ政談ヲ爲スヲ依賴シタルコアラサレハ假リニ辯士伊藤俊光カ演說ノ政談ニ涉リタリトスルモ被告カ知ル所ニアラス且其演說ノ當時被告ハ腹痛ニテ休ミ居リタレハ不注意ノ責メアル者ニアラサルナリ然ルチ集會條例ニ抵觸シタル者トシ裁判言渡サレタルハ乃チ擬律ヲ錯誤セシモノナルヲ以テ之レカ破毀ヲ求ムト云フニアリ俊光上告ノ要領ハ被告ハ教法演說ノ餘波朝旨ノ在ル所ヲ說明シタル迄ニテ固ヨリ教導教ノ本分ヲ盡シタルモノナレハ政談ヲ爲シタルト認メラルヘキ者ニアラス又集會條例第十條ニハ二項ト名稱スヘキモノナキニ擅ニ第二項ト掲ケ裁決セシハ不當ナ

リ因テ原言渡シハ擬律錯誤ノ裁判ナリト認メ之カ破毀ヲ求ムト言フニアリ
對手人檢事補與野毅ハ原裁判ハ允當ニシテ被告人等カ上告ハ不理ナル旨ヲ答辯セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事加納久宜ノ意見ヲ聽キ之レヲ判決スル左ノ如
シ

被告房之丞カ上告ノ論旨及ヒ被告俊光カ上告第一ノ論旨ハ何レモ原裁判官カ正當ノ職權ニ
從ヒ判定セシ事實上ニ立入り原裁判ヲ非難スルニ過キサレハ固ヨリ上告ノ原由ナキモノト
ス然リ而シテ集會條例第十條ニ第一條ノ認可ヲ受ケスシテ集會ヲ催スモノ會主ハ云々其會
席ヲ貸シタル者並ニ會長幹事及ヒ其講談論議者ハ云々第三條ノ規程ヲ犯シタル者モ云々ト
處罰ノ方法ヲ三個ニ別チ規定シタルモノニテ原裁判ノ所謂第二項ハ其第二ヲ指シタルニ過
キサレハ別ニ違法ト認ムヘキ廉ナキヲ以テ之ニ對シ不法ヲ訴フルヲ得ス因テ此點ニ關スル
俊光カ上告第二ノ論旨モ相立タス

以上ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ハ皆棄却スル者也
○第四百三百二十號

判文(出板條例犯) 明治十七年二月十九日上告
同 年十一月廿九日發付

東京府神田區五軒町十五番地寄
留愛知縣士族

小島 彦 七

年齡不詳

同府京橋區竹川町十九番地平民

平山 武 四 郎

年齡不詳

明治十七年一月二十三日東京輕罪裁判所會議局ニ於テ右小島彦七外一名カ出板條例違犯被
告事件ノ豫審終結言渡シニ對スル檢察官ノ故障ヲ審理シ被告等カ山中喜太郎ノ依頼ヲ受ケ
土屋廣次ノ板權所有ニ係ル官民必携チ少變セシカ如キハ刑法ノ總則ニ根據ス可キ者ニアラ
サルニ依リ豫審判事ニ於テ被告兩名ニ對シ免訴ノ言渡シヲ爲シタルハ其當ヲ得タルモノナ
ルヲ以テ之ヲ認可スト言渡シタル判決ニ對シ原裁判所檢事補村井一英ハ上告ヲ爲シタリ其
要領タルヤ出板條例ノ如キハ別ニ刑法ノ總則ト同一ノ總則ヲ掲ケサルモノナルヲ以テ刑法
第五條ニ照シ刑法ノ總則ニ從ヒ被告兩名ノ如キハ無論出板人ト共犯ヲ以テ論ス可キモノナ
ルニ原會議局ハ該條例改正第五條ノ特別總則ニシテ其他ノ犯罪ニ及ハサルヲ認メナカラ其
及ハサル所ノ他ノ犯罪ニ付キ刑法ノ總則ヲ適用セサリシハ不當ナリト云フニ過キス
對手人被告兩名ハ原裁判允當ニシテ本案上告ハ却テ其理由ナキ旨答辯セリ

茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告及立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ
抑出板條例ヲ犯シタル者ニ就キ刑法ノ總則ヲ適用スル場合ナキニアラサレモ本案上告論旨
ノ如ク其事件ノ如何ヲ問ハス刑法ノ總則ニ依リ共犯ト爲ス可キモノナリト概論スルカ如キ
ハ其理ナキモノトス何トナレハ共犯トハ二人以上現ニ罪トナル可キ一事ヲ行フタル場合チ
云フモノニテ各其別事ヲ行フタルモノヲ云フノ謂ニアラス而シテ著譯ト出板トノ關係ニ於

ケルヤ出板ト必ス著譯ヲ俟テ成ルモノナレト著譯ハ必ス出板セサル可カラサルノ理ナク而シテ之ヲ著譯スルモ出板セサル限リハ法律ノ制裁ヲ受ク可キモノニアラサレハ其事業自ラ相異ナルト明カニシテ該條例罰金改正第五條ノ如ク特例アル場合ノ外之ヲ共犯トナス可キモノニアラサルト亦言テ俟サレハナリ故ニ原會議局ニ於テ豫審判事カ被告等ヲ山中喜太郎ノ共犯トナスシテ無罪ヲ言渡シタルヲ認可シタルハ固リ當然ノ判決ニシテ本案上告ハ相立タサルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本案上告ハ之ヲ棄却スルモノ也

○第四千三百三十一號

判文〔抗法犯〕明治十七年三月廿二日上告
同 年十一月廿九日發付

福岡縣豐後國田川郡下香春村平

民

鹽田岩次郎

明治十七年二月

三十九年四月

右岩次郎カ被告事件ニ付明治十七年二月二十九日福岡輕罪裁判所小倉支廳ニ於テ被告カ居村ニ於テ石炭借區願出ヲ許可無之中明治十六年十一月十二日ヨリ採掘シタル石炭ヲ同年十二月十二日ヨリ同日二十一日迄ニ賣却シタルハ同坑棟梁トシテ同人ノ雇入レ居ル久世龜太郎ニ於テ爲シタル事ニシテ被告岩次郎ハ之ヲ知ラサルノミナラス其雇主ノ爲メニ爲シタル證據モ無之ケレハ日本抗法第六條第二項ニ照シ處分スヘキモノニアラスト言渡シタル裁判

ニ對シ同裁判所檢事高野薰カ上告シタル要旨ハ本件ノ石炭ヲ賣却シタルハ假令雇人龜太郎ノ所爲ニ係ルト雖モ其代金ハ到底被告ノ利益ニ歸着スルモノトス然ラハ被告ニ對シ沒收ヲ言渡スヘキニ前文ノ如キ宣告ヲ爲シタルハ越權ノ處分ナリト云フニ在リ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告并ニ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルニ凡ソ單行法則違犯ノ所爲ハ假令雇人ノ爲ス所ニ係ルト雖モ其雇主即チ營業者ニ於テ其責ニ任スヘキモノナレハ本件ノ如キ抗法第六款第二項凡ソ產鑛ハ借區券ヲ第十款得ル後ニ非サレハ恣ニ賣却スルヲ得ス若シ之ニ背カハ其全價ヲ沒收ス可シトアルニ從ヒ石炭賣却ノ全價ヲ沒收セサル可カラス然ルニ原裁判官ハ之ヲ爲サス反テ該項ニ照シ處分スヘキモノニアラスト言渡シタルハ則チ上告論旨ノ如ク越權ノ處分ニシテ治罪法第四百十條第十一項ニ定メタル破毀ノ原由アルモノト判定ス仍チ同法第四百二十八條ノ規則ニ遵ヒ該裁判ノ全部ヲ破毀シ更ニ至當ノ裁判ヲ受ケシムル爲メ本件ヲ熊本輕罪裁判所ニ移スモノナリ

○第四千三百三十二號

判文〔古物商取締規則犯〕明治十七年十月十五日上告
同 年十一月廿九日發付

愛媛縣讚岐國香川郡新瓦町平民

古着古道具商

岡田太次郎

明治十七年九月

二十三年

右太次郎カ被告事件ニ付明治十七年九月二十日松山輕罪裁判所高松支廳ニ於テ被告ハ森山

熊吉ト會テ刑法第三百九十九條ノ處刑ヲ受ケシモノタルコトヲ確知シナカラ明治十七年二月十六日同人ヨリ單衣壹枚ヲ金貳拾錢ニ買受ケタルモノト認メ明治十六年第五十號公布古物商取締規則第六條ニ依リ三拾七圓ノ罰金ニ處スト言渡シタル裁判ニ服セス被告太次郎カ上告シタル要旨ハ森山熊吉ヨリ右單衣ヲ買受クル當時ハ其受刑人タルヲ知ラサリシノミナラズ警察署ヨリ通達セシ受刑者人名簿ニモ其記名無之ニ付買受タル次第ナレハ罪トナル可キ事實ヲ知ラスシテ犯シタルモノナルニ其理由證憑ヲ明示セスシテ輒スク前記ノ如ク裁判セシハ不法ナリト云フニ在リ

同裁判所檢事補竹岡丕伸ハ原裁判相當ナル旨ヲ答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告并ニ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之レヲ審察スルコト被告カ當時果シテ熊吉ノ受刑者タルヲ知ラサリシヤ將タ知テ之ヲ買受ケシヤノ問題ヲ判定スルハ無論事實裁判官ノ職權内ニアルカ故ニ原裁判官ニ於テ既ニ知テ之ヲ買受ケシモノト斷定セシ以上ハ警察署ノ受刑者人名簿中氏名ノ有無如何ヲ論シテ其判定ヲ動かスヲ得ス然ラハ則チ上告ノ趣旨相立タサルニ付治罪法第四百二十七條ノ規則ニ循ヒ之ヲ棄却スル者也

○第四百三百三十三號

判文〔傳染病豫防規則犯〕明治十六年九月七日上告

同 十七年十一月廿九日發付

愛知縣三河國幡豆郡今川村平民 醫學

中島淳太郎

明治十六年八月

三十九年一月

明治十六年八月十八日名古屋輕罪裁判所岡崎支廳ニ於テ右中島淳太郎ハ實布埜利亞性ノ患者ヲ診斷シ二十四時間患者所在ノ町村衛生委員又ハ警察署ニ通知セサリシ者ト判定シ明治十二年第二十四號布告第二條同第二十二條ニ照シ罰金三圓ニ處スル旨宣告セリ

中島淳太郎ハ右ノ裁判ニ服セス上告ヲナシタル要旨ハ被告カ足立新十ノ二女「ユキ」カ病症ヲ診斷シ實布埜利亞性トナシタルハ必竟誤診ナリシ事ハ初メヨリ該患者ヲ治療シタル醫師村山龍甫カナシタル患者死亡届ヲ以テ明瞭ナリトス故ニ被告カ所爲ハ罪トナルヘキ理由ナキニ原裁判所前記ノ如ク判定シタルハ不當ナリト云フニ在リ

對手人檢察官原裁判所檢事補佐藤森久ハ原裁判相當ニシテ上告ノ原由ナキ旨答辯セリ 證憑ノ採擇事實ノ認定ハ原裁判所承審官ノ特權ニシテ越權其他法律ニ背キタル處分アルニ非ラル限リハ他ノ左右シ得ヘキ者ニ非ラス今原判文ヲ閱スルニ被告任意ノ口供足立新十ノ手續書ニ徴シ事實ヲ認定シタル者ニシテ毫モ不當トナス廉アルコトナシ然リ而シテ被告ハ醫師村山龍甫カナシタル患者ノ死亡届ヲ以テ實布埜利亞性ト診斷シタルハ誤診ナル旨論告スレ原裁判所ハ被告カ任意ノ口供ト足立新十カ手續書ニ徴シ前記ノ如ク判定シタルハ相當ニシテ上告ノ要旨ハ治罪法第四百十條各項ニ定メタル原由ナキヲ以テ同第四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スルモノナリ

○第四百三百三十四號

判文〔鳥獸獵規則犯〕明治十七年四月十日上告

同 年十一月二十九日發付